



平成26年度文化庁文化芸術振興費補助金  
文化遺産を活かした地域活性化事業

伝統文化継承連携事業

ぐんまの  
獅子舞調査  
報告書





ぐんまの  
獅子舞  
調査

報告書

## はじめに

群馬県には、1人が1匹の獅子となり3匹1組で演じる獅子舞（三匹獅子舞）が広く分布している。廃絶・中断を含め、全国に1400を超える三匹獅子舞の伝承地があり、群馬県約250箇所、埼玉県約200箇所とされ、両県で約1／3をしめ、獅子舞の伝承地の中心地と言われる。郷土芸能や祭は、年々簡素化されたり、休止、中断されてきている。今回は獅子舞を対象に、各団体の現状と課題を調査し、団体が相互に情報を共有することで、継承のための連携を図ることを目的として調査をした。

# 三匹獅子舞の成り立ちと継承の課題

関 孝夫（上尾市教育委員会 生涯学習課長）

## 1 三匹獅子舞の分布

群馬県内に多く分布する三匹獅子舞は、東日本に多く分布する民俗芸能である。特に群馬県と埼玉県には濃厚に分布し、それに隣接する東京都、千葉県、茨城県、栃木県、新潟県、長野県、さらに福島県、山形県、秋田県、青森県に分布する。

このうち、秋田県の三匹獅子舞については、現在の茨城県から伝播したといわれる。当時の常陸国の戦国大名であった佐竹義宣は、慶長7（1602）年、常陸国から出羽国に移封となった。この佐竹氏移封の際に従った人々によって、「ささら」とか「獅子踊」と呼ばれる三匹獅子舞が伝えられたのだという。

秋田県能代市扇田字道地には、「常州下御供佐々楽」、通称「道地ささら」が伝承されている。名称にあるように、常陸の国から佐竹義宣公が「下った」際に、行列の前後を警護していた足軽衆が道中の慰めに、常陸で行われていた獅子舞を舞い踊った。その後、後部にいた足軽衆35人が道地に住み、この舞を伝えたといわれる。

このほかにも、同じ能代市の切石ささら踊、小繋の常州下獅子踊、仁鮎ささら踊、小掛ささら踊、鶴形ささら、北秋田市の阿仁前田獅子踊、幸屋獅子踊、三種町の泉八日ささら、佐竹山谷ささら、大仙市の長野ささら舞、東長野ささら舞、仙北市の白岩ささら、梅沢ささら、広久内ささら、下川原ささら、横手市の金沢ささら舞、大館市の川口獅子踊り、上小阿仁村の大林獅子踊りなどは、常州下りである伝承が伴う。

この伝承が、歴史的な事実とは必ずしもいえないが、佐竹氏の出羽移封と獅子舞の移入は因果関係がないとはいえない。このことは、1600年代初頭に三匹獅子舞が既に茨城県で行われたことを意味する。常陸大宮市には永正14（1517）年銘の三匹獅子舞の獅子頭が伝来しており、このことを合わせて考えると1500年代半ばの常陸国で現在の三匹獅子舞に近い民俗芸能が行われていたことを想起させる。

一方で、明らかに三匹獅子舞が、領主の移封に伴って伝播した例もある。福井県小浜市の雲浜獅子である。川越藩主であった酒井忠勝は、寛永11（1634）年に小浜藩に移封となった。このとき酒井公は、川越城下の石原町の獅子舞の演技者30人余りを召し連れて移住させ、雲浜獅子を行わせたという。

山形県と岩手県、宮城県には、多頭立ての獅子踊・鹿踊がある。これら民俗芸能は、大きく捉えれば三匹獅子舞と関係が深い。この多頭立ての鹿踊についても、領主の転出に伴って、遠隔地に伝承されるようになる例もある。仙台藩主・伊達政宗の子・伊達秀宗は、慶長19（1614）年に別家を伊予国宇和島に興すことになる。この際に、仙台藩内の鹿踊が宇和島にもたらされたという。

## 2 三匹獅子舞の名称

三匹獅子舞については、「舞」という言葉を使っている。舞踊といったとき、舞は旋回動作であり歌や音楽に合わせてすり足などで舞台を回ることを基礎とし、踊は跳躍に基づく動作でリズムに乗った手足の動作を主とする。こうして考えると、「三匹獅子舞」といつている民俗芸能は「獅子踊」なのかもしれない。

実際に「獅子舞」について現地で伝承を聞いてみると、存外「獅子舞」とはいつていないことに気がつく。単に「獅子」と称したり、「ささら」と称する事例も多い。ただし、群馬県内の三匹獅子舞で、「獅子踊」という例は見られない。また、獅子は伝統的に「舞う」とはいわない事例も多い。「獅子舞を一回舞う」というのを伝承者は「獅子を一庭スル」という。「スル」という表現も、行為を実行するという意味の「する」ではなく、「ささらを摺る」と同じように発音する。「クルウ」と表現する地域すらあるが、やはり「舞う」とはいわない。

「獅子舞」というこの民俗芸能を表現する言葉は、このように少し疑問がある。実際に青森・岩手・宮城の鹿踊り（獅子踊り）は、同系統の民俗芸能と考えられるものの、「踊り」と称している。

### 3 流派に関わる伝承

群馬県の獅子舞を総覧すると、特に南部を中心に、獅子舞の流派に関する伝承が多い。その中でも特に多いのが稲荷流である。

稲荷流では、甘楽町秋畑の那須獅子舞から伝授を受けたという獅子舞が多い。その範囲は、高崎市・富岡市・安中市・甘楽町・下仁田町・榛東村といった地域に広がりを持つ。那須獅子舞は稲荷流宗家と称しており、舞は稲荷流、笛は下り葉流としている。このため、稲荷流下り葉流（甘楽町天引・富岡市宇田）、稲荷流佐賀利派流（下仁田町馬山蒔田）、下り葉流（下仁田町馬山若宮・富岡市南蛇井原組）、稲荷流青葉百管下り葉流（富岡市中高瀬）、青葉百巻柳葉流（安中市磯部）、稲荷流青葉下葉流（甘楽町二ツ石）、岡咲流下葉流（富岡市相野田）、下盛羽流（甘楽町十二区）というように、独特な名称の流派を名乗っている事例も多い。

稲荷流の宗家には、高崎市阿久津町の阿久津の獅子舞にも伝承がある。阿久津の獅子舞は、稲荷流三宗家の一つとされる。この場合の三宗家とは、前出の那須獅子舞と阿久津獅子舞、これにみなかみ町藤原の獅子舞を指すとされる。

阿久津を祖とする獅子舞として、高崎市寺尾町、高崎市新町、高崎市三ツ寺町、藤岡市鮎川、藤岡市中栗須の獅子舞がある。また、高崎市貝沢町の旧東組獅子舞では、延享3（1747）年に伊勢神宮参拝の帰りに東海道三島宿で旧東組の5人と阿久津の4人が稲荷流獅子舞を継承していくための話し合いを持ったときに始まったとしている。

黒熊流の流派を名乗る獅子舞は、甘楽町梅ノ木平、高崎市吉井町多比良、富岡市星田、富岡市南後箇、安中市松井田町行田、安中市松井田町横川などがある。高崎市並榎の獅子舞も現在は稲荷流であるが、元は黒熊流であったという。このうち梅ノ木平の獅子舞が、黒熊流の筆頭とされる。

また、高崎市西部から安中市、富岡市、東吾妻町には、判官流と称する流派が集中している。判官流（高崎市下室田町宮谷戸、高崎市倉渕町川浦、高崎市大八木町）、判官流判官派（安中市土塩上村）、三国判官流（高崎市上室田町斉渡、東吾妻町泉沢、安中市松井田町上増田、富岡市上丹生下組）などと伝承している。

一方で、前橋市、伊勢崎市、みどり市、川場村には、文挟流（伊勢崎市国定）、火挟流（伊勢崎市境下渕名、境東新井、みどり市東町小中）・日挟流（前橋市大前田）、天下一日挟流（前橋市月田）、天下一非挟流（川場村萩室）といった名称の流派を名乗る獅子舞が散見される。これは栃木県内でよく見られる文挟流とみられる。栃木県内でも文挟流は日挟流、火挟流などとも伝承されている。これは、栃木県日光市文挟を祖とする獅子舞の流派とされ、栃木県内では関白流と並び称される獅子舞の流派である。

伊勢崎市境東新井の獅子舞は、栃木県から足尾を通して当時に抜ける銅街道を介して伝わって来たといわれ、栃木県の獅子舞との交流の感じられる伝承となっている。

### 4 風流系の獅子舞

獅子舞については、大きく風流系の獅子舞と伎楽系の獅子舞に分類して考えられる。伎楽系の獅子舞とは、中国大陸から移入された芸能に由来するとされ、頭を1人が胴幕に1人がそれぞれ担当する2人以上で演じるもので、2人立ちの獅子舞という言い方もされてきた。ただし、伊勢太神楽のように1人だけ行うものもある。一方で、三匹獅子舞と呼ばれる獅子舞は、風流系の獅子舞で、1人が1匹の獅子に扮し、三匹獅子舞の場合は3匹で舞うものである。

風流とは、「人の目を驚かす意匠に眼目を置いた趣向」のことをいう。中世には、祇園祭、正月の松囃子、盂蘭盆会の囃子物、祭礼行列で隆盛を誇り、室町時代後期には集団による風流踊りが登場する。この風流踊りは、風流傘を中心に踊り手自身が衣装や持ち物・踊り歌に趣向を凝らし、社寺や辻・館など

を掛けて踊り巡るもので、盃蘭盆会や雨乞い、祭礼などにも盛んに演じられ全国的に流行した。

中世の風流踊りの典型として、歴博甲本洛中洛外図屏風を見てみよう。この左隻第6扇下に風流踊が描かれている。輪になって腰を曲げ、摺りざさらを摺って踊る人々（側踊り）と、その輪の中で締め太鼓を持つ者とそれを打つ者（中踊り）が見られる。また、側踊り付近には、2人の扇子を持った者が見られ、これは歌をうたっているものと見られる。

一方で、上杉本洛中洛外図にも風流踊が描かれている。歴博甲本と同じように中踊りと側踊りが見られるが、側踊りはびんざさらとなっている。

西日本には、この風流踊りの系譜を引く太鼓踊り・鞆鼓踊りがある。太鼓踊りでは、滋賀県甲賀市土山町山女原の太鼓踊りはこの側踊りと中踊りのイメージがそのままであり、三重県伊勢市円座の鞆鼓踊りもこうした系譜の中にある。

本田安次は、これに対して東日本には、太鼓踊りで被る笠などを獅子の頭にかえれば形態がほぼ同じで、獅子舞に伴う歌に、太鼓踊りの歌と共通の歌詞があることなどから、三匹獅子舞を含む1人立ちの獅子舞を風流踊りの系統としている。

## 5 三匹獅子舞の構成要素

### (1) 獅子

獅子は、基本的に男の獅子が2匹、女の獅子が1匹の合計3匹である。三匹獅子舞は、舞場で舞うだけでなく、行列を成して地域内を練り歩き、その行列のまま舞場に入ることが一般的である。したがって、三匹が整列する場合、獅子の先頭、2番目、3番目となることが決まってくる。このこともあって、3匹の名称について、前獅子（先獅子）、中獅子、後獅子と称される事例が多い。この場合、中獅子が女の獅子とする例が多い。

男の獅子である前獅子、後獅子については、前獅子に優位性があるのが一般的で、後獅子を子獅子としているところもある。この場合、3匹は親子ということとなる。また、前獅子にあたる男の獅子を「大頭」と称する事例もある。これも大きいという優位性を示している。伊勢崎市、高崎市、太田市、大泉町では、前獅子のことをハウガン（法眼、鳳凰元）と称することもある。

獅子は、獅子頭を被り、腰には小さな太鼓を付け、両手に撥を持って、太鼓を叩きながら踊るのが一般的である。ただし、みなかみ町羽場の獅子舞のように、獅子は撥を持つが腰に太鼓を付けず、別に太鼓の役を設けている例もある。

### (2) ささら・カンカチ・猿・鬼・狐

三匹獅子舞では、3匹の獅子だけで舞を展開する事例もあるが、他に舞に参加する役を持つ例が多い。

三匹獅子舞には、「ささら」を伴う例は多い。ささらとはここでは摺り籠のことである。獅子舞自体を「ささら」と称する地域（上毛・中毛地域）があるほどである。しかし、獅子舞自体を「ささら」と呼ぶ地域に限って、獅子舞にささらが伴わない例が多い。

みなかみ町羽場の日枝神社獅子舞では、獅子3人に対してささらの役も3人で、獅子とささらが2人1組になって舞うような形で獅子舞が展開していく。ささらは面を被り、両手に籠と籠子を持って、ささらを打ち鳴らしながら獅子舞を行う。高山村尻高の役原獅子舞でも、ささらの役が3人で、獅子とささらが2人1組のようになって獅子舞が行われる。また、中之条町の獅子舞では、猿や鬼が獅子と共に舞う事例が多い。この猿や鬼はささらを持って鳴らしながら舞う。

群馬県で特に特徴的な役として、カンカチがある。カンカチは、鉄の棒を2本持った役で、この2本を打ち合わせて鳴らしながら獅子舞に参加する。鉄の棒を打ち合わせる際に鳴る音から「カンカチ」といわれるものと考えられる。この上演形態を考えると、カンカチはささらが展化したものと考えられる。

カンカチが使用されるのは、高崎市、前橋市、渋川市、吉岡町、東吾妻町、玉村町、藤岡市、甘楽町

といった地域で、隣接する埼玉県にも分布する。特に高崎市・玉村町・藤岡市ではほとんどの獅子舞でカンカチが登場している。

このほか、安中市、富岡市、藤岡市、玉村町、甘楽町、高崎市の一部の獅子舞では、狐が先導役のようにして3匹の獅子と共に舞う事例がある。これらの地域では、カンカチと共に天狗が舞に加わるという例も多い。

### (3) 笛

三匹獅子舞で重要な役として笛がある。笛は篠笛であり、購入する事例も多い。購入の場合、太く長い物から細く短い物まで、何本調子というような形で区別されている。おおよそ三匹獅子舞では四本調子から七本調子の笛が使用されている。数字の小さい四本調子の場合、音が低く響くが、吹き込む息の量も多くしなければならない。一方で数字の大きい七本調子の場合音が高くなり、吹き込む息の量も少なくて済むとされる。また、獅子舞には六孔のものを使う例が多い。祭り囃子では七孔を使用するが、獅子舞で使用するのは稀である。

群馬県内では、笛は普通の服装で演奏する事例も見られるが、伝承地によっては花笠を被って吹く事例もある。伊勢崎市国定の獅子舞の笛は、花笠を被って演奏する。このような花笠を被って笛を演奏する様子は、江戸時代初期の『江戸図屏風』(国立歴史民俗博物館蔵)にも描かれている。

### (4) 万燈

群馬県内の三匹獅子舞には、万燈が登場する例が多くみられる。この万燈は、風流の芸能でみられる風流傘の系譜と考えられる。また、三匹獅子舞が行列して練り歩く際に、行列の先頭付近にある事例が多い。この様子は、これに続く笛や獅子の太鼓で万燈を囃しているようにも考えられる。このことは、本来あるべき獅子舞の役割である悪疫退散の目的を彷彿とさせるものでもある。

舞の際に万燈は、総じて舞庭の周辺に設置させる場合が多い。しかし、一部の三匹獅子舞では、万燈が舞庭の中心に入って、獅子がその周辺で舞う。前橋市の月田近戸神社獅子舞では、大きな万燈が使用されるが、行列の際にも同行するほか、獅子舞の最中に舞庭の中心に万燈が入って、その周辺で獅子が舞う。また、中之条町の平獅子舞でも、舞庭の中心に万燈が入って獅子舞が行われるが、この際に笛も万燈と共に舞庭の中心に移動することが特徴的になっている。

## 6 三匹獅子舞の演目の構造

三匹獅子舞の演目の構造は、一様ではない。ここでは伊勢崎市の千本木龍頭神舞の事例を基に、獅子舞の構造について考えていきたい。千本木龍頭神舞は、次のような展開で獅子舞が上演される。

A すり込み→B 多々良→C 廻りささら→D ろっとろ→E 岡崎→F 掛り物→G トオレオ→H 唄切り→I 終わりの曲

このように多くの部分に分かれているが、大まかには次のような展開になる。

I 様式的な舞 (A～E) → II ストーリー性のある舞 (E・F) → III 歌のある舞 (G～I)

千本木龍頭神舞は、獅子の舞が全体的に様式的で、三匹の獅子がほぼ同じ舞を繰り返すという特徴がある。Iの部分は特に、舞場で輪を描くように三つ巴で様式的な舞を繰り返す。

IIの部分では、特にF掛り物の部分でストーリー性のある舞となる。掛り物は梵天掛りと橋掛りの2種類がある。梵天掛りは、地面に立てられた御幣を、三匹の獅子の中の一匹であるハウガンが何度も様子を見た後、手に取って観客を含めた舞い場を祓って回り、最後には後ろに投げ捨てる。この際、他の二匹である雌獅子と雄獅子は、常にハウガンの背後で舞い続ける。

橋掛りは、獅子が山奥の谷川に掛かる橋を渡る様子を演じているとされる。最初にハウガンが橋を狙い、その後三匹で橋を狙う。最初にハウガンが渡り、次にハウガンに招かれて雌獅子が渡り、最後に雄

獅子が渡る。この三匹の獅子は、ハウガンと雌獅子が夫婦で、雄獅子は子と伝承されている。

こうしたストーリー性のある部分では、他の部分の舞は様式的で、三匹が同じ舞を繰り返すのに対し、三匹の獅子がそれぞれ役割や特性を持って演じ分けるようになっている。

Ⅲの歌のある部分では、三匹の獅子は様式的な舞を演じているなか、Gのトオレオの中で1曲、Hの唄切りの中で2曲、合計3曲の歌がうたわれる。

このように、三匹獅子舞の演目の構造は、1つの形だけで理解できる内容になっていない。これは三匹獅子舞の成り立ちに原因があると考えられる。ここで例示した構造がすべての三匹獅子舞に共通するとは言えないが、この3つの要素は三匹獅子舞の構造を考える上で、一つの方向性を示すことはできるであろう。

## 7 獅子舞の歌

千本木龍頭神舞のGトオレオ→H唄切りの部分では次の3曲の歌がうたわれる。

- ① 京から下りの唐絵の屏風 一重にさらりと (Gトオレオ)
- ② 明神へささら狂いを奉る 氏子繁昌守り給え (H唄切り)
- ③ 国からは急げ戻れと文が来るお暇申していざ戻る (H唄切り)

このように最後の③の歌詞は、如何にもこれで獅子舞が終了していくという内容となっているが、①や②は歌詞の意味と獅子舞の内容が合致しない内容となっている。

この①の歌は、京都・滋賀・奈良・三重の4府県境に所在する風流踊りの中のジンヤク踊りと呼ばれる踊りの中でうたわれる歌と共通する。このジンヤク踊りでは、歌と踊りで展開するが、相互に関係しない歌詞内容の歌で展開し、その歌詞内容が踊りの説明になっていないという特徴がある。ただし、最初の歌と最後の歌が次のような歌に決まっている。

最初の歌 京から下る唐絵の屏風 たんだ一重に立ち回れ

参り来てこれの御庭で踊りをすれば 黄金小草が足にからまる

最後の歌 親里で雨が降るやら暗くなる お暇申していざ帰ろう

太鼓の胴をきりりと締めて ささらをしゃんとすりこめよ。

これにみられるように、①はほぼ同様の歌であり、③は「お暇もうしていざ帰ろう」という部分が類似している。また、③については群馬県内の三匹獅子舞で最後にうたう歌としてよく見られる。

前橋市の月田近戸神社獅子舞の前庭の祭り当日に神社でうたう歌は次のとおりである。

- ① 廻れや車廻れや車 つれて回れや水ぐるまよな
- ② 朝日さす夕日輝く日の下に 黄金づくりの宮が建ちそる この宮に鷹がすむかや鈴の音 いつも絶えせぬ御神楽の音
- ③ 岩が崩れてかかるとも 心しづかに遊べ友だち
- ④ 奥山の松に絡まる鳶の根は 縁が切れればはらりほぐれみよな
- ⑤ ささらのかみは文殊でござる 文殊のうえのさんじょうしよな
- ⑥ きぬ川のうえの瀬戸なの重ね波 それを見ばやにかさねみつぐりよな
- ⑦ 太鼓の糸をきりりと締めて ささらをさらりとすりこめたよな

この例では、⑦の最後の歌はジンヤク踊りのそれとほぼ同様である。①については、ジンヤク踊りでは見られないが、三匹獅子舞の歌で最初にうたわれる歌としては一般的になっている。

また、ジンヤク踊りの歌は、歌の最後に「やージンヤクや」という囃子言葉が入るといった特徴もある。これまで見てきた獅子舞の歌では「やージンヤクや」はないが、利根郡や吾妻郡の三匹獅子舞には、歌の最後に「やージンヤクや」という囃子言葉を使い、その歌がうたわれる部分のことを「ジンヤク」と類似した言葉で表している。

羽場日枝神社の獅子舞では、初吉利という演目を例にとると、次のような舞の構成になっている。

A 順逆の座→B 庭見の座→C 歌吉利→D 大入羽の座→E 小入羽の座→F 乱舞の座→G 岡崎の座

このようにAの部分については「順逆」(ジュンギヤク)と称している。歌はこのAの順逆の座、C歌

吉利、F乱舞の座でうたわれる。歌は次のとおりである。

順逆の座の歌

- ① 廻り逢うたよあとの友達 ヤア順逆よ
- ② 此の宮は飛驒の内匠が建てたげで くさび一つで四方締めたよ ヤア順逆よ
- ③ 国からは急げ戻れの文が来て おいとま申して花の都へ ヤア順逆よ

歌吉利の歌

- ④ 十七が宮の社壇に手をかけて 何を申すよいまの若さに

乱舞の座の歌

- ⑤ 我々は京で生まれて伊勢育ち 腰に差したは伊勢の御祓いよな
- ⑥ くるりと回れくるりと回れ 伊勢の編み笠輪の如くよな
- ⑦ 七夕に借りて貸すもの 綾と錦を返せ七夕 返せ七夕
- ⑧ 太鼓の胴をきりりと締めて 箆をさりと摺り留めたよな

順逆の座の歌は、ジンヤク踊りの形式のとおり、最後に「ヤア順逆よ」と囃子言葉がある。また、③は千本木龍頭神舞でも見られるように、最後の歌として定着している歌となっている。

一方、乱舞の座でも⑤は三匹獅子舞の最初の歌として比較的に見られる歌であり、⑧はジンヤク踊りの最後の歌とほぼ同じ歌詞となっている。

このように、獅子舞の歌の歌詞は、ジンヤク踊り形式の歌詞構成であるとともに、三匹獅子舞の中でも一定の形式の中でうたわれていということが看取することができる。

## 8 伝承の実際と課題

### (1) 後継者の課題

群馬県内に多く分布する三匹獅子舞の伝承については、どこもが抱える課題として後継者問題がある。ここでは、継承者不足から伝承地域の拡大を図って成功している例や、学校との連携から後継者問題を打開している例、地域ぐるみで継承してきたが今後の継承に不安がある例を紹介していきたい。

#### 月田近戸神社獅子舞の場合

前橋市粕川町月田の月田近戸神社獅子舞は、現在、近戸神社の氏子である月田地区全体で保存会を設けて伝承活動を行っている。月田地区は現在約400戸の集落で、16班（組）で構成している。古くはこの組の中の1つである近戸組だけで行ってきた。もともと20戸ほどの集落であった近戸組だけでは伝承者が少なく伝承が難しくなり、昭和44年に月田地区全体で伝承していくこととなった。

この月田近戸神社獅子舞は、小さな集落で伝承してきた獅子舞を、その集落を包括する共同体（月田地区）で伝承することに、いち早く転換して成功した例といえよう。月田地区全体が近戸神社の氏子圏と同一であったこと、小学校区がほぼ同一であったことの2つがこの良い結果を生み出したものと考えられる。本来、民俗芸能の伝承地域を変更することは難しいことであるが、氏子圏・学区といった社会的な枠組みが同一であったことが、矛盾なく転換を図る大きな理由であろう。

#### 千本木龍頭神舞の場合

伊勢崎市南北千木町の千本木龍頭神舞も、昭和40年代半ばに伝承者が少なくなり、これをきっかけに昭和46年に保存会を結成した。この際に、それまで農村地帯であった伝承地域の農家の長男だけに伝承者を限定していた決まりを撤廃している。また、昭和60年に獅子頭を新調した際、子供用の獅子頭も製作し、子供たちへの伝承を開始した。その後、南北千木町を学区の一部とする茂呂小学校の教員が着目、小学校5年生の総合的な学習のテーマにすることとなった。以後現在も毎年この学習活動が行われ、その発表の場である「龍頭集会」は茂呂小学校の伝統行事化している。また、秋の運動会では、5年生の集団演技で獅子舞を取り入れている。

こうした中で現在、毎年、秋の千本木神社例祭で上演する際の練習には、4～50人の子どもたちが参加する。当初、女子は笛だけであったが、次第に舞も行うようになり、現在は獅子舞の舞にも笛にも女性が参加するようになっている。保存会としては、現在参加している子どもたちの中から、数年に1人でも保存会に加入してくれればと考えているが、実際にそのような傾向である。

南北千木町は、土地区画整理が行われる市街地である。このため、人口減に苦しむような地域ではないが、都市化に伴い地域コミュニティが十分に機能しなくなってきた地域ともいえる。こうした中で、保存会と茂呂小学校と行ってきた取組みが、次第に実を結んできた状況であり、学校との連携が良い方向で機能した事例といえよう。

また、早く段階から、伝承者の条件であった、農家の長男に限定されていたものを、次第に撤廃してきたことも、現在の伝承を可能にしてきている。

### 平獅子舞の場合

中之条町平の平獅子舞は、それまで中断していたものを昭和46年に平地区の青年の団体である平青年同志会が復活させた。当初は大人が伝承してきたが、昭和53年からは子供が舞う獅子舞として現在に至っている。保存会は、青年同志会を含む平地区の役員で構成され、子供の世話役をする幹事も地区単位で選出する。このように、復活後、平獅子舞は、平地区全体を支える体制を整えてきた。

しかし、当初は小学校4年生くらいの子供が獅子舞を担ってきたが、近年の少子化で現在では幼稚園児まで参加しないと子供の獅子舞が維持できない状況になっている。月田近戸神社獅子舞のように、この地区を通学区とする名久田小学校の子供たちに、伝承者を求めることも考えてられるが、平成27年度には名久田小学校は中之条小学校に統合することになっている。条件は厳しくなっているが、平より広い地域から子供の伝承者を募ることや、子供の舞う獅子舞から大人の舞う獅子舞への転換など、継承のための検討が必要になってきている。

## (2) 映像記録と公開

三匹獅子舞に限ることではないが、無形の民俗芸能を伝承活動の中で、芸の内容が変わってきてしまっているという話は少なくない。また、民俗芸能を巡る社会情勢の変化から、複雑で高度な技を熱心に継承しようとする意欲が低下しがちで、師匠にあたる伝承者の中には、本当の芸の継承について不安に思う意見も多い。

一方で、現在伝承を受けようとする人々についても、手取り足取り口伝で練習する従来の手法は、就業形態の変化から十分に練習時間を取ることができないという問題も指摘されている。

こうしたことから、近年では映像による民俗芸能の記録が行われている。詳細な映像記録は、現在残されている複雑で高度な技を残すことができ、師匠と継承者が同じ場所にいなくても、練習ができるという利点がある。今後の伝承活動の支援にもつながる民俗芸能の映像記録は、文化財保護行政の支援を受けながら実施していくことが急務といえよう。

また、現在、三匹獅子舞を含む民俗芸能について、様々な公開の機会が増えてきている。公開のために演目の一部を割愛して行ってしまうといった課題もあるが、地域に埋もれがちな貴重な文化資源である民俗芸能を、より広くアピールして民俗芸能となじみのない人との交流を図るための貴重な場となっている。中之条町では、毎年郷土芸能発表会を開催し、平成26年度からはふるさと交流センターつむじで「ふるさとの郷土芸能INつむじ」を開催するなど積極的な活動を行っている。

民俗芸能の公開に関する取り組みは、このほかの市町村でも行われており、映像記録についても伊勢崎市などで実施されている。映像記録と公開事業は、三匹獅子舞の今後の継承の中で重要な意味を持つ事業といえるであろう。

# 目 次

はじめに

三匹獅子舞の成り立ちと継承の課題

前橋市	1
高崎市	7
桐生市	23
伊勢崎市	24
太田市	26
沼田市	29
館林市	30
渋川市	31
藤岡市	35
富岡市	42
安中市	48
みどり市	55
吉岡町	56
下仁田町	57
甘楽町	61
中之条町	64
長野原町	70
草津町	71
東吾妻町	71
みなかみ町	74
板倉町	76
明和町	77
大泉町	78
高山村	78
榛東村	79
嬭恋村	79
玉村町	80
上野村	81
川場村	83
ぐんまの獅子舞調査結果概要	84

## ❖ 泉沢の獅子舞(前橋市泉沢町)

**保存会名** 泉沢町郷土芸能保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

4月1日に近い日曜 泉沢町集落センター

\*近年は、数年上演されていない。

### 概要

昔、泉沢地区で疫病が流行し、住民は深く悩まされた。そのため、獅子舞を使って悪魔払いを行ったのが獅子舞の始まりとされている。

毎年4月1日（現在は、4月1日に近い日曜日）、朝、泉沢神社（現在は公民館）から青年によって獅子が振り出され、地区の一番下の家から上の家に向かって一軒一軒奉納する。各家に着くと、四方がための舞を行い、家族の頭をがぶりとかむ。獅子にかんでもらうと、その年無病息災で過ごすことができると言われている。

このようにして、地区を回った獅子舞は、最後に神社に戻り、ここで「長獅子の舞」を舞う。

この獅子舞は、獅子頭に一人、胴体に一人入って舞う二人立ちのもので、山間地に多く残っているが、平坦地では珍しいものである。地元では、長獅子と呼び、長泉町に生まれた長男によって伝承されてきた。

演目は、「水引おろし」「ひゃらとろ」「みこの舞」「しのび」など13演目。

昭和49年8月26日 前橋市重要無形民俗文化財指定



## ❖ 上泉の獅子舞(前橋市上泉町)

**保存会名** 上泉獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

諏訪神社大祭 10月第3日曜日

上泉町自治会館・上泉町諏訪神社

### 概要

上泉獅子舞は、遠く平安初期の承和年間（834-48）に始まったと言われており現在使われている獅子頭、笛、太鼓は上泉伊勢守信綱（1508-82）の奉納したものとされている。歴史的に古く、その舞は、動きがゆっくりとしており、足さばきに歌舞伎や雅楽の舞の振り付けが見られる特徴がある。

上泉の獅子舞は、県下に現存する獅子舞は、300を越えるといわれているが、その流派のいずれにも属さないとされる前橋市の民俗芸能の中でも特に価値のあるものの一つである。いずれの流派にも属さない。舞は一人立ちの三頭（法眼、雄獅子、雌獅子は手甲、たっつけばかまにわらじ、腰に中型太鼓を付け、両手にバチ、右手を主に使い、左のバチは補助に使うのが特徴）、笛三人（真吹、中吹、香吹は紋付のはおりはかま）花笠二人（小学低学年の男子は手にササラを持ちこすり合わせて舞いに興を添える）。

演目は、14有り約45分間の舞時間。また、獅子舞頭は彫が深く濃厚な顔立ちになっている。

昭和40年代、経済が発展すると共に価値観が変わり、後継者難となり、そこで保存会を組織結成し地域住民全員に呼びかけた。

演目は、「水引おろし」「ひゃらとろ」「みこの舞」「しのび」など13演目。

昭和45年2月10日 前橋市重要無形民俗文化財指定



## ◆ 野良犬獅子舞(前橋市清野町)

**保存会名** 野良犬獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

八幡宮秋祭り 10月体育の日頃 清野町八幡宮

### 概要

清野町の八幡宮では、秋祭の日、その年の豊作を祝い、神に感謝するため獅子舞が奉納される。関白龍天流と伝えられるこの獅子舞は、隣の吉岡町八幡宮から慶長年間（1596年～1615年）に伝わったと言われる。この獅子舞に使われる獅子頭は、桐の巨木をくりぬいて作ったものである。先・中・後3頭の獅子の葛藤によって表現される舞は、荒々しく勇壮な中にも何ともいえぬ優雅さがある。舞の種類は13種ある。昔はこれを舞う人は、八幡宮氏子に限られていたが、現在では、地区に残る伝統芸能として町民がこれを受け継ぎ、保存と普及活動につとめている。

演目は、「通り太鼓」「宮巡り」「飛入り」「ササラ三拍子」「狂い」「眺め」など。

昭和48年9月24日 前橋市重要無形民俗文化財指定



前橋市教育委員会提供

## ◆ 立石諏訪神社の獅子舞(前橋市立石町)

**保存会名** 立石獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

立石諏訪神社秋季大祭宵祭り

立石諏訪神社秋季大祭本祭り 10月第1土日

立石諏訪神社

### 概要

本獅子舞は、五穀豊穰、無病息災、家内安全を祈願し、町の鎮守である諏訪神社に奉納するもので、神社の祭礼とともに毎年行われている。

この獅子舞は、一人立ちの獅子で、前獅子、中獅子、後獅子、それにカンカチがつき4人で舞う。舞子には、以前はこの地で生まれた長男が選ばれたが、現在は小学生の男子3年生以上の希望者より選出されるようになった。

本獅子舞は、観客を意識しない奉納獅子舞であり、勇壮な動きをする稚児獅子である。獅子舞は、神社の境内から振り出され、最初、拝殿前で、神前の舞を中心に一通りの舞が力強く舞われ、その後、神社を出発しムラ境で辻舞を行う。腰に五色の弊束をさし、笛に合わせて小太鼓を打ち鳴らし、獅子頭を大きく振り、大地を力強く踏みしめるしぐさが繰り返される。これは悪魔を封じ込め、疫病を寄せ付けまいと激しく舞う姿である。

辻舞は、現在は町内で5ヵ所で行われ最後に神社に戻り、もう一度すべての舞が繰り返される。

本獅子舞の起源は、はっきりしないが、獅子舞の道具を入れておく長持ちの蓋に「宝暦六年」『宝暦八寅年』の墨書がある。また、獅子舞の顎紐を修理した際、その内部から「壬生徳武歳」と書かれた布切れが発見された。このことから、1700年代のはじめに存在したのではないかと考えられる。

演目は、「振り出し」「岡崎」「トントリヤ」「河渡り」「牡丹(知り合わせ)」「蹴鞠」。

平成18年4月18日 前橋市重要無形民俗文化財指定



## ❖ 江田鏡神社の獅子舞(前橋市江田町)

**保存会名** 江田町獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

鏡神社秋季例大祭宵祭り 10月8日(隔年)

江田町鏡神社

### 概要

江田鏡神社の獅子舞は、五穀豊穰、無病息災、家内安全を願い、町の鎮守である鏡神社に奉納するもので、神社の祭礼と共に行われている。由来については、記録がなく、起源は明らかではないとのことであるが、江戸末期に旧群馬町の稲荷台から伝わったといわれている。

獅子舞は、かつては鏡神社の本祭りとその前夜祭である鎮守詣りで奉納されていたが、現在は、鎮守詣りに獅子が奉納されている。この獅子舞は、一人立ちで、前獅子、中獅子、後獅子の3匹の獅子にカンカチが付き、4人で舞う。獅子は、角がねじれている雄の前獅子、宝珠のついた雌の中獅子、角が真っすぐな後獅子とで区別する。前獅子と後獅子は雄獅子で、中獅子が雌となっている。江田鏡神社の獅子舞には、獅子舞をほめる「ほめ言葉」と、それに答える「返し言葉」があり、その掛け合いが、本獅子舞の特徴となっている。

平成20年3月19日 前橋市重要無形民俗文化財指定



前橋市教育委員会提供

## ❖ 西善の獅子舞(前橋市西善町)

**保存会名** 西善自治会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

7月土用の3日目

自治会員各家庭(130戸)

### 概要

明治時代からこの時季に行われる伝統行事で、3体の獅子が、庭先や家の中で獅子舞を披露、家内安全・無病息災・五穀豊穰を願いその厄払いをするものである。



## ❖ 日枝神社神楽様(獅子舞) (前橋市東善町)

**保存会名** 東善町伝統行事保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

正月町内巡回 正月の第2日曜日頃 町内の各戸を巡回

7月の土用丑の日に近い日曜日 町内の各戸を巡回

1月15日・7月第4日曜

**概要**

昔、年貢米が高すぎて生活が苦しくて時の町内の農家の人が江戸へ直訴に向かっているということを聞いた名主が後をおいかけ川越で止めたのだが、藩主に名主が先導したと捕らわれ投獄され獄死した。すると町内に疫病が蔓延し、名主の祟りではないかと考えて御神を各家にまわると、ぴたりと疫病が治まった。それ以来、御神を毎年だして今日に至っている。また、不幸があった家は、1年間はまわらないということを昔から引き継いでいる。霊験あらたかな神様ときいている。

## ❖ 堤町獅子講(前橋市堤町)

**保存会名** 堤町自治会、育成会、氏子会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

7月第三日曜・熊野神社より町内を回る。

**概要**

町民の無病息災を願い町内を毎戸を巡回する行事。60年以上前から行われている。

## ❖ 元総社町上宿町獅子舞(前橋市元総社町)

**保存会名** 元総社町上宿町獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

総社神社春例祭奉納 3月15日 総社神社

### 概要

慶長9年(1604年)総社城主、秋元長朝公が天狗岩用水の大工事に際し、総社神社に祈願し完成することができたので、神馬七頭を寄進し神前に於いて「流鏝馬」(やぶさめ)を奉納した。そこで地元住民すなわち氏子は各町内ごとに山車を造り祭を盛り上げるようになった。

この時、上宿町は山車の代わりに獅子舞を奉納したのが始まりとされている。

この獅子舞は、1人立ち4人連れ舞形式に属し、判官流という古い舞の形式で、榛名山麓及び南麓に分布しているが、県全体から見れば数少なく相当古さをもつ獅子舞といわれる。

現在の獅子舞は、享和元年(1801年)みどり市の花輪の彫師「松五郎」が彫刻して、高崎宿赤坂の塗師が仕上げ新調し直したものである。

演目は、「上宿」「入羽」「チューラレート」「岡崎」「廻込」「ヒャラヒャラ」「トッピー」「トロロウ」。



## ❖ 大前田諏訪神社獅子舞(前橋市大前田町)

**保存会名** 大前田諏訪神社獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

秋祭り 10月第3日曜 諏訪神社

### 概要

宮城村にはただ一つ大前田の獅子舞がある。今でも毎年行われる。一人立三頭舞で、流派は、地元では日鋏流と称している。獅子は、父、母、息子、獅子と呼んでいるが、父頭は黒塗り、母頭は朱塗り、息子頭は黒塗りである。父は角が二本、母は角一本、息子は角二本がついている。頭は曲線的で、父と母は幅20cm、横24cmあり、

息子は19cmと24cmである。付人は、火吹男とおかめ。囃子方は、「ササラ72cm位」を使う。するのは御幣束であるのが変わって居る。笛は、5～6人でやる。曲目は、「庭」「お諏訪様ぼめ」「やかたぼめ」「糸屋ぼめ」などがある。「庭」は外で舞い、諏訪様は神社、やかたは氏子の家、糸屋は神社でたまにやる。

獅子場には、万燈を立て、その周囲をまわる形式で舞われる。定期上演日は、10月17日[現在は、17日に近い日曜日]。この獅子舞は、龍頭獅子舞といい、その昔西原の下の諏訪神社で行われていたが、保存していた小屋が火災にかかったとき、獅子舞頭三体は、火の玉になって今の諏訪神社の方へ飛んでいき、それから諏訪神社でやるようになった。記録に残っているものを見ると、江戸時代の宝暦年間に始まったという。寛政十一年の夏に大早魘があったとき、獅子舞で雨乞いをしたところ大いに雨が降り出したと言う。その後も悪疫流行のときも、村中毎戸を回って悪疫退散を行った。舞の種類は「渡り節」「すりこみ」「前立ち」「岡崎」「中立」などがあった。万燈は大きなものがつくられ、それに短冊がつけられ、短冊には、天下太平、家内安全、五穀豊穰、養蚕倍盛、商売繁盛、悪疫退散などが書かれる。獅子組は25人ぐらいで組織されている。戦後、護国神社、明治神宮、靖国神社に奉納したこともある。

演目は、「庭」「お諏訪様ぼめ」「やかたぼめ」「糸屋ぼめ」など。

昭和60年7月4日 前橋市重要無形民俗文化財指定



## ❖ 月田近戸神社獅子舞(前橋市粕川町月田)

**保存会名** 月田近戸神社獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

月田近戸神社例大祭 毎年8月最終土・日曜日  
月田近戸神社

### 概要

月田近戸神社獅子舞は、永保5年(1433 室町時代)に奉納されたという記録があり、これによれば、すでに580年近い伝統が考えられる。流派は、天下一日挟流。

獅子舞は、「月田のささら」と呼ばれ近戸神社の例祭に奉納される。獅子掛り少年3人、笛掛り青年6人、歌掛り壮年4人の獅子連により、華麗な万燈を中心に約1時間踊る。数種類の舞や舞曲(笛)は口伝であり、今日まで一度も絶えることなく奉納されている。

昭和36年に粕川村教育委員会から「文化財」に指定。昭和44年2月23日、「獅子舞継続に関する協議会」において獅子舞保存会の設立が決定した。

演目は、「前庭」「後庭」「女獅子かくし」。

平成14年3月26日 群馬県重要無形民俗文化財指定



## ❖ 西原獅子舞(前橋市上佐鳥町)

**保存会名** 上佐鳥町自治会同保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

1月上旬 集会所

### 概要

明治時代の中頃に時の上佐鳥村西原集落に鎮座の八幡様を村社春日神社境内に移して合祀したそうである。それからは、再び疫病が大流行して難儀に怯えた。その民心を鎮めるために住民の創意で再び八幡様を元の境内に分祀した。

正月七草と土用丑の日に全家120~130軒家ぐるみの厄除けを行い、無病息災と家内安全を願うものである。百年あまり続いている。

年番20人程と小学生の子ども達30人余りの他、全戸からも大人達が参加する。

## ❖ 並榎の獅子舞(高崎市並榎町)

**保存会名** 並榎町の獅子舞(山車)保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

神明宮奉納及び町内巡行(4月2日)

神明宮

高崎神社春季大祭奉納及び町内巡航(4月3日)

高崎神社

### 概要

並榎の獅子舞は古く、明応3年(1494年)に始まったと伝えられ、井伊直政が箕輪から移り、和田を高崎と改名。慶長3年、豊岡の若宮八幡宮へ参拝した際、お供をして獅子舞を演舞奉納したと伝えられている。明治26年近衛師団機動演習の際、明治天皇は、帰京されたが近衛兵団長・小松宮殿下の夜会が高崎小学校(現・東電営業所)で開かれたとき、当獅子舞は演舞した。

又、大正10年3月、前年鎮座された明治神宮へ奉納し、帰途、前高崎藩主大河内家でも獅子舞を演舞した。そして昭和54年10月にも、再び明治神宮へ獅子舞を奉納した。明治・大正・昭和・平成を通じ、神明宮、高崎神社へ奉納し、町内巡航を行っている。

その他市政90周年、100周年、110周年、113年獅子舞大会、伝統民俗芸能祭、第16回国民文化祭等、市、地域の行事に数多く出演している。

獅子舞の流派は、黒熊流だったが明治の始めに稲荷流に変わり、現在に至っている。そのせいか、並榎の獅子舞は、足を踏みつける反閤(へんばい)の動作が強く、力強い踊りが特徴である。昭和43年保存会結成以来、これまで一度も欠場していない。平成10年獅子舞誕生500年を記念し「並榎獅子舞の記録」を作成、出版した。この中に江戸期より現在までの演舞者が記録されている。

演目は、「道囃子」「大門掛け」「三拍子」「花吸い」「歌切り」「ぼんでん」「剣の舞」など。

平成23年4月20日 高崎市重要無形民俗文化財指定



## ❖ 貝沢西組獅子舞(高崎市貝沢町)

**保存会名** 貝沢西組獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

五霊神社秋期大祭奉納 10月19日前後の日曜日

五霊神社

東部祭 8月16日前後 隔年 東部小学校校庭

東部地区文化祭 9月15日前後 隔年

東部小学校体育館

新春演舞 1月3日前後 隔年 カインズホーム

### 概要

起源は、不詳であるが文政3年(1820年)と云われており、天保8年(1837年)に獅子舞奉納の款書・届書の古文書がありおよそ200年前から獅子舞が伝承されていた事がわかる。貝沢には、西組と東組の流派の異なる獅子舞があり、当西組は、鎌倉流、東組は稲荷流でいつも競い合っていた。

西組の流派の鎌倉流の由来は、五霊神社の祭神の鎌倉権五郎景政の「鎌倉」をいただき流派の名前としたと云い伝えられている。

村社五霊神社には、「悪霊退散・家内安全・五穀豊穰」を祈念することを目的として奉納してきた。いずれも氏子によって組織され、演舞者は氏子の中の長男から選抜されて伝統が引き継がれてきたが、現在は、自由になってきた。

又、西組の獅子舞は勇壮でかつ品格があると近隣にその名をうたわれていた。

演目は、「道中しゃぎり」「大門掛り」「橋掛り」「まきだし」「にこみ」「岡崎」「くり」「岡崎くずし」。



## ❖ 大八木町諏訪神社獅子舞(高崎市大八木町)

**保存会名** 高崎市大八木町諏訪神社獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

大八木町諏訪神社春の例大祭 10月第2土・日  
大八木町諏訪神社

大八木町諏訪神社秋の例大祭 3月最終土・日  
大八木町諏訪神社

中川校区三代交流芸能祭 7月 第1土曜日  
中川長寿センター

大八木町文化祭 11月23日 大八木公民館



### 概要

宝暦年間以前から伝承されているもので、その起源は「信州諏訪」「和州高市郡天の香具山」「濃州醒ヶ井の日本武尊」の三ヶ所から分霊され、その神事行事には既に獅子舞を奉納したとある。

近隣の獅子舞と違い舞の構成など戯曲化されておらず、農耕民族芸能の特長を良く残しているとして、東京上野の国立博物館の視聴覚室に記録が収蔵されている。流派は判官流。かつては全て成人男性により受け継がれてきたが、昭和47年からかつて指導を受けた青年達が小学生の男子には舞、女子には笛を教え継承に努めている。

また、発表の機会を数多く設けることにより新たな目標を持った練習ができるように心がけている。

演目は、「振込」「天狗拍子」「三拍子」「サツマ」「相拍子」「座敷太鼓」「棒術」「道中」「祭太鼓」。

平成23年4月20日 高崎市重要無形民俗文化財指定

## ❖ 阿久津の獅子舞(高崎市阿久津町)

**保存会名** 阿久津町獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

山名町山名八幡宮秋季大祭 10月15日 山名八幡宮  
その他市の行事等

### 概要

阿久津の獅子舞は、県内の稲荷流三宗家の一つと言われている。甘楽郡秋畑の那須の獅子舞、利根郡藤原ダムの藤原の獅子舞と阿久津の獅子舞である。阿久津町の「稲荷流獅子舞」についての由緒を示す古文書が昔あったが、明治四十三年の大洪水で納めてあった小屋ごと流出してしまったので正確なことはわからない。その後、昭和になって古文書を写した巻物が二巻ほど保存されている。



これによると「稲荷流獅子舞」は、大化元年（六四五）の孝徳天皇の時に極上興平衛が始め、それが伝えられて現在に到っている。

その巻物は、昭和七年一月に梅雲という人が写し直したもので、「神代獅子由来」としてあり、変体仮名まじりの文章である。

演目は、「ぼんでん」「剣の舞」「笹がかり」「鞠がかり」。

平成23年4月20日 高崎市重要無形民俗文化財指定

## ❖ 下小塙の獅子舞(高崎市下小塙町)

**保存会名** 下小塙町獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

北野神社春季祭典 3月25日 北野神社

北野神社秋季祭典 10月10日 北野神社

**概要**

北野神社獅子舞の起源は、およそ江戸時代の中期と伝えられている。

五穀豊穰、交通安全、無病息災、商売繁盛を主旨として、春秋の例大祭に奉納している。

旧高崎市内にも多くの獅子舞があるが、獅子頭の髪の毛が唯一毛で出来ている。他地区の獅子は、鳥の羽である。従って舞は、頭を大きく振ることにより華やかな躍動感のある舞となる事が特徴である。流派は、稲荷流である。

演目は、「道囃子」「棒使い」「天狗のおはらい」「振込み」。

平成23年4月20日 高崎市重要無形民俗文化財指定



高崎市教育委員会提供

## ❖ 倉賀野町田子屋獅子舞(高崎市倉賀野町)

**保存会名** 田子屋獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

倉賀野神社春季大祭 4月19日 倉賀野神社 不定期

倉賀野神社秋季例大祭 10月19日 倉賀野神社 不定期

**概要**

倉賀野田子屋の獅子舞は、かつて田子屋町内にあった八坂神社に伝わるもので、明治期に行われた神社合祀まで、7月14日の夜の天王祭りに奉納されていた。明治30年頃までは、九品寺の祭礼、昭和初期頃までは倉賀野神社の祭礼にも奉納されていた。(毎年)

倉賀野町田子屋の獅子舞は、一人立ち三人舞である。流派は、天下一角兵衛流で稲荷流の分派といわれている。田子屋の獅子舞は、「あばれ獅子」といわれ、動きが荒々しいのが特徴で手足の動作だけでなく、からだ全体を振るようにして舞うのが特徴である。

演目は、「ふりだし」「ぼんでん」「しんぎり」「はな」「さんびょうし」「まり」「つなぎり」「はし」「つるぎ」「うたがかり」。



## ❖ 貝沢町旧東組獅子舞(高崎市貝沢町)

**保存会名** 貝沢町旧東組獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

五霊神社例大祭奉納 10月9日 五霊神社  
高崎市文化祭 11月初旬 高崎市文化会館  
東部祭 8月中旬 東部小学校  
東部商工振興会新春獅子舞 1月初旬 カインズホーム  
東部地区芸能祭 秋 東部小



### 概要

貝沢町旧東組獅子舞の起源は、古く延享3年(1774年)伊勢神宮参拝の帰りに東海道三島の宿で旧東組の5人と阿久津の4人が稲荷流獅子舞を継承していくため話し合いをもった時より始まったと伝えられている。

稲荷流は、高崎阿久津、甘楽郡秋畑那須、水上町藤原の獅子舞が群馬県における稲荷流獅子舞の三大宗家といわれ、貝沢町旧東組獅子舞は、この稲荷流の正統派に属する存在である。

古く明治時代は、高崎駅の開業祝い、大正時代は、新前橋駅の開業祝い、昭和時代は、明治神宮、靖国神社に奉納を行ったと伝えられている。

昭和から平成には、貝沢五霊神社に「五穀豊穰」「無病息災」を記念して秋祭に獅子舞を奉納。

最近では、地元の東部祭、芸能祭、東部商工振興会のイベント等に参加し、毎年、獅子舞を披露している。

## ❖ 飯塚獅子舞(高崎市飯塚町)

**保存会名** 高崎市飯塚獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

夫婦薬師の祭典 4月8日 薬師堂前  
飯玉神社の祭礼 10月19日 飯玉神社

### 概要

高崎市飯塚町に常福寺という古い寺があり、戦国時代の飯塚城跡に建っている。この寺の参道脇と村里をはなれたところに薬師堂がある。

そして飯塚城跡のすぐ隣に飯玉塚神社があり、ここは、旧上飯塚村・下飯塚村の総鎮守である。

毎年4月8日の両薬師如来の祭、10月19日の飯玉神社の祭礼に獅子舞を奉納している。

飯塚町には、長泉寺という寺があり、江戸時代にこの寺の和尚(大臥佑道師や機外了禅師)が寺子屋の子ども達に獅子舞を指導したのが始まりといわれている。長泉寺で行われていた獅子舞が、その後、飯玉神社の祭礼に奉納されることになった。その発端は天明年間のことであるといわれている。

飯塚の獅子舞は、稲荷流。三頭の獅子(法冠・中獅子・後獅子)と冠勝(カンカチ=天狗)大黒天、そして二人の棒遣い(赤鬼・青鬼)の七人構成。かつてはこのほかに法螺貝を吹く山伏がいた。獅子は太鼓をたたき、冠勝はカネの棒を打ち鳴らし、大黒点は軍配と杵を持って世の雑事の調停にあたる。棒遣いは露払いの約で先頭に立つ。

今日、七つの演目と四十八種の曲目が伝わっている。

演目は、「梵天がかり」「花吸い」「三拍子」「新きり」「剣の舞」「網きり」「女獅子がくし」。

地域の五穀豊穰、災厄退散を祈念して舞っている。

平成23年4月20日 高崎市重要無形民俗文化財指定



## ❖ 石原町清水獅子舞(高崎市石原町)

**保存会名** 石原町清水獅子舞保存会(若衆会)

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

小祝神社春の大祭 4月19日 小祝神社

### 概要

清水とは地名である。清水の獅子舞はかなり古いと言われているが、古老の言い伝えによると、元禄時代頃からはじめられ今日に伝承されている。

流派は「稲荷流」。現在の獅子頭は「明治二十二年上野国西群馬郡高崎駅下横町住人飯島沖二信重爾時七拾六才作」と記されている。

その後、昭和11年9月10日の「白衣大観音開眼式」の奉納にあたり、獅子頭の塗替えをした。(並榎町：高崎工芸美術研究所)

当清水には、諏訪神社、常磐神社、稲荷神社の三社があり、この三社筆頭の諏訪神社の祭りに毎年奉納していた。その後、村の鎮守様の小祝神社一つにし、明治初年頃より毎年7月27日の小祝神社大祭の奉納している。

昭和になって毎年4月29日の「招魂祭」に奉納してきた。最近は、小祝神社を中心として、護国神社や町内の公民館行事の文化祭、敬老会、小学校の行事等に出演している。

「伝承」対応として、清水公民館で毎週1回の舞・笛・詠などの個々の練習を行っており、三拍子そろった総合練習を春・秋と各10日間の練習をしている。

演目は、「道拍子」「庭の道拍子」「大幣」「まり」「弓」ほか17演目。



## ❖ 台新田の獅子舞(高崎市台新田町)

**保存会名** 台新田町獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

稲荷神社奉納 10月上旬 稲荷神社

### 概要

当獅子舞は、徳川初期頃伝わったものと推測されている。寛政11年9月、岩鼻代官(初代)「吉川栄左衛門」に獅子舞実施についての伺い書を提出した時の控の書類が唯一の記録として残っており、250年の伝統をもっているのが証明される。

流派は、稲荷流である。

当町の獅子舞は稲荷に属し、3頭獅子である。雌獅子をはさんで前後に雄獅子がこれを守る形で並ぶ。特徴は、踊る前に厄払いの意味で「やっとう」「六尺棒」の演技が行われ、かんかち・花笠等の役がこれに付随する。

演目は、「橋がかり」「ボンボテ」「細切り」「こぎり」「雌獅子かくし」「天狗びょう」「大刀がかり」「おいとま」。

平成23年4月20日 高崎市重要無形民俗文化財指定



## ❖ 川浦獅子舞(高崎市倉渕町川浦)

**保存会名** 川浦獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

川浦諏訪神社春祭 4月第3日曜日 川浦諏訪神社

### 概要

川浦の獅子舞は、氏神である川浦神社である川浦諏訪神社に奉納する舞楽で、春の祭典(4月第3日曜日昼間)行われている。獅子舞の起源としては特にはないが、舞歌の中に(キョウデウマレテ イセソダチ)の歌があることから、関西から信濃を経て、神社とともにこの地に伝えられたものと思われる。流派は、判官流で雄二頭は黒塗りで角2本、雌は1頭で角の代わりに黄金の玉を頭に付け、共に鳥の羽根を前頭に立て、立て髪として切紙を後方に垂らす。唐草模様の上下を付け、腰鼓を打ちながら舞う3頭立ち。花笠を冠り女装のささら、金棒を打ち鳴らすカンカチの5人1組。横笛・大胴の囃子で宮巡りの他7庭で約4時間に及ぶものである。

演目は、「宮巡り」「神楽」「天狗拍子」「浅切」「笹切」「三拍子」「歌切」「雌獅子隠し」。

平成9年6月11日 高崎市重要無形民俗文化財指定



## ❖ 東明屋諏訪神社獅子舞(高崎市箕郷町東明屋)

**保存会名** 東明屋諏訪神社獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

東明屋諏訪神社春祭り 4月第1日曜日 諏訪神社

東明屋夏休み 8月第1日曜日 東明屋集会所

東明屋諏訪神社秋祭り 10月第1日曜日 諏訪神社

### 概要

当獅子舞について、起源に関する文献が無く定かではないが、永禄9年(約400年前)武田信玄が長野氏を滅ぼし箕輪城を治めて、武田氏の守護神であった諏訪神社を建立させ、神事芸能として獅子舞を奉納させたのが始まりと伝えられている。

舞は、宝生流と称され、気品に溢れ格調の高い舞で数少ない流派である。

獅子頭は鼻に楔形の彫刻が施され他に類例のない特色有る獅子頭である。また、カンカチと大黒の履くわらじは黄金の二枚底と定められ、格調の高さを物語るものである。よって文化財的価値は十分であると専門家の評価である。

舞は春秋2回の祭礼に五穀豊穰、悪霊退散、天下太平、子孫繁栄を祈って奉納され、その後氏子内を一巡し、社寺に奉納し総代や定められた町役宅等で舞うのが習わしであり、登り獅子と言って折り込み、後戻りを忌みその順序も予め決めて行われる。

演目は、「フリコミ」「オカザキ」「三拍子」など神社舞(9曲)、寺院舞(8曲)、道中舞(7曲)に分かれている。

昭和49年10月22日 高崎市重要無形民俗文化財指定



## ❖ 生原北野神社の獅子舞(高崎市箕郷町生原)

**保存会名** 生原北野神社獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

北野神社秋季例祭 11月23日 北野神社

### 概要

生原の獅子舞は、伝承では江戸時代の中期に創始したと伝えられる。明治の初年の頃現在の型ができあがった。流派は近隣に点在する稲荷流で、特徴として振りが大きく派手やかなことから「生原の暴れ獅子」と名を馳せてきた。

旧生原村の総鎮守であった北野神社に属し、神意を慰める神事として、また五穀豊穰・家内安全を願う行事として連綿と受け継がれてきた。女人禁制で伝承する者は地付きの家の長男のみであった。

戦中・戦後一時中断したが、昭和48年旧箕郷町から無形文化財の指定を受けたのを機に保存会を発足させ、伝統の獅子舞がよみがえった。

後継者不足に悩まされている折から、たまたま九州出身の女性に加わってくれ、伝統の灯を守っている。現在、盆・正月休みを除いて通年の稽古、小学生の育成にも取り組み、神社への奉納、地域行事への出演に情熱を傾けている。

演目は、「一重」「新切り」「入り羽」「綱切り」「飛び違い・花吸い」「橋」「剣」。

他に道中の「チリトリローガ」・「宮廻り」・「大門がかり」、座敷太鼓の「花岡崎」。

「雌獅子隠し」は笛と歌のみが伝わっている。

昭和48年7月31日 高崎市重要無形民俗文化財指定



## ❖ 保渡田諏訪神社の獅子舞(高崎市保渡田町)

**保存会名** 保渡田諏訪神社獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

諏訪神社春季祭典 4月第2日曜日 諏訪神社

諏訪神社秋季祭典 10月9日 諏訪神社

上郊小学校大運動会 9月 2年置きに出演

上郊小学校

はにわの里公演コスモス祭 10月 はにわの里公園

青少年健全育成大会 2月 群馬支所公民館

### 概要

高崎市保渡田町(旧群馬町保渡田)は群馬県のほぼ中央に位置しており、この獅子舞はその諏訪神社に伝わるもので、今から約360年前(寛永の中頃・1630年代)から行われていたといわれ、群馬県下に数多く残されている獅子舞の中でも最も古いものと思われる。

当時は非常に僻地で河川も多く、七坂八橋片葉葦保渡田の奥の黄金塚と云う様な歌まで作られた集落であったとも云われていた。

今から凡そ1500年前現在の西光寺秘蔵の寶物(国指定重要文化財)はもとより薬師塚、八幡塚、二子塚等の高貴豪族の墳墓は数多く文化の発祥の地であったと云う事も聞いており、その点からして当時のこの地を治めていた権力者が無病息災、悪霊退散、氏子の繁栄と延いては五穀豊穰祈願のため獅子舞を取り入れ、数多くの曲目(48種類)を有し、春、秋の諏訪神社の祭典には賑々しく舞われたと言われている。

昭和52年4月18日 高崎市重要無形民俗文化財指定



## ❖ 諏訪土俵獅子舞(高崎市金古町)

**保存会名** 諏訪土俵獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

諏訪神社秋季例大祭 10月9日前後の日曜 諏訪神社

### 概要

江戸元禄時代に、金古宿に赴任していた旗本が寄贈してくれた事を起源とする。鹿島流に属し、獅子頭には繊細な文様があり馬の毛を使った県下でも数少ないものである。

役員、笛方が袴を着るのは、寄贈してくれた旗本を顕彰するためといわれている。舞は16通りあり、笛は道中笛を入れると18曲。

舞は振込から仕舞のきりまで通しで舞ってもわずか40分程度である。理由は、金古諏訪神社の祭典は獅子だけでなく山車が何台も入るため獅子だけ長々と舞えないとの言い伝えである。祭本番は前半の舞、後半の舞と二度にわたり行う。

昭和54年に保存会を結成して諏訪区、土俵区で保存につとめている。

演目は、「振込み」「飛び入り」「岡崎」「大座作」「小座作」など14演目。



## ❖ ミツ寺獅子舞(高崎市三ツ寺町)

**保存会名** ミツ寺諏訪神社獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

諏訪神社春祭り奉納 3月27日 諏訪神社

妙見様夏まつり 7月第3日曜 妙見様

三ツ寺夏まつり 8月第3土曜 天昌寺集会所

### 概要

三ツ寺の獅子舞は、一人立ち三頭獅子舞で流派は稲荷流に属し起源伝承は、京都より伝えられたと言われている。今から約360年ほど前、寺の祈祷獅子として寺の隆盛衰退に左右されながら伝承継承されてきた。そして180年程前から高崎市大八木町の獅子舞が基礎となり、その後低迷した時期に高崎市阿久津町より伝えられた獅子舞を基に現在では三ツ寺独自の獅子舞が形成されている。寺より祈祷獅子のいわれは、江戸時代より明治・大正・昭和の初期まで新檜古を立てた時に、寺の大門より振り出して、神社に奉納されたと言われている。それに伴い神社の祭典獅子として、五穀豊穰・無病息災・商売繁盛・町内安全の願いを込めて神社の春秋の祭典には奉納獅子として、若い人達に引き継がれ現在に至っている。

特徴は、獅子頭をすっぽりとかぶり、獅子の口から見るのが特徴であり、それにより視野が非情に狭く、他の地区の獅子頭に比べて一回り大きくて重量があり、舞は、腰を低く落として力強く足を突いて、身体と頭を大きく振って舞う勇壮な力強い獅子舞である。

演目は、「大門掛り」「橋掛り」「三拍子」「花吸」「剣の舞」。



## ◆ 新町諏訪神社獅子舞 (高崎市新町)

**保存会名** 新町諏訪神社獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所** (中断中)

新町諏訪神社春祭 4月3日 諏訪神社

新町文化芸術発表会 11月下旬 新町文化ホール

### 概要

中山道新町宿は昔、苗木と落合の2村からなり両村には350年以上の歴史ある獅子舞が残されている。苗木の鎮守である新町諏訪神社の神前で獅子舞を奉納し天下泰平、五穀豊穰等を願う秋祭りが行われていた。

流派は、稻荷流阿久津派の踊りで頭を振り腰低く、力強く足を突く勇壮な舞である。

戦時中は一時中断したが昭和25年に復活、35年当時は大勢の若者が加わり氏子町内を舞い歩く盛大な祭りが行われてた。

しかし、時代の変化と共に獅子舞の魅力に若者が遠ざかると同時に昭和50年秋祭りには途絶え、神社の春季大祭に奉納する様になった。この年から積極的に出演の機会を作り、神社の元旦祭12月31日夜中、除夜の鐘が聞こえる境内で毎年大勢の初詣の人垣の中、踊る獅子舞は平成20年まで続いた。

後継者育成のため平成9年から子ども達を対象に「夏休み獅子舞教室」を開催、これを機会に子ども達を主体に発表の場を広げた事で、平成16年から新町第2小学校3年生全員(約50人)に総合学習として授業に取り入れ指導を8年間続けた結果、興味を持つ子供は保存会の活動に20人位は常に加わり、神社の祭りや町の文化芸術発表会等に出演、その活動が評価され平成22年「生涯学習まちづくり賞」を高崎市から受賞した。

平成24年神社の春祭りの獅子舞奉納を最後に活動を中止したが、何日の日か教え子達が成人になり復活してくれる事を願っている。

演目は、「道中ばやし」「どちょうねー」「大門掛り」など9演目。



## ◆ 天神の獅子舞 (高崎市新町)

**保存会名** 新町八幡宮獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所** (中断中)

新町八幡宮秋祭 新町八幡宮

新町文化芸術発表会 11月下旬 新町文化ホール

### 概要

天神の獅子舞と言う落合八幡宮の創立後始められたといわれている。元禄4年八幡宮再建の折獅子頭を新調した。地元の1本の大桐の木から獅子頭、前獅子、中獅子、後獅子、天狗の面を作り、現在使用している。祭典の時は天神地区の天満宮に参拝してから鎮守八幡宮で天下泰平、五穀豊穰、家内安全等を祈り参拝奉納して、宮本、中町、橋場の上三町の山車の先導して町内を舞い歩いたといわれている。昭和39年10月高崎護国神社に奉納。昭和40年9月靖国神社戦後20周年行事に参拝奉納。同日明治神宮に参拝奉納。昭和45年4月護国神社参拝奉納。

演目は、「道中」「拝殿掛り」「入初」「花吸」「庭切」「三拍子」。

昭和55年1月10日 高崎市重要無形民俗文化財指定



## ❖ 駒寄一五沢諏訪神社獅子舞(高崎市下室田町)

**保存会名** 駒寄一五沢諏訪神社獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

諏訪神社秋の祭典 10月第1土曜 諏訪神社他  
榛名ふるさと祭 10月第3日曜 榛名支所

### 概要

村の古老の話や、古文書の記録によると、駒寄一五沢獅子舞は、永禄十年(西暦1567年)今から約四百年前頃、武田信玄がこの地方を支配するようになり、武田氏の氏神である諏訪神社が祭られるようになった頃から始まったようである。現存する宝蔵の長持(獅子頭等を入れて



おく箱)の裏に寛政九年七月作之(西暦1797年)とあるのを見ると、ある一時期衰えていた獅子舞が再興されたのはそれより数年前の天明年間末(浅間山大噴火の頃)で、この頃から現在の流派による獅子舞が伝えられて来たものと考えられる。なお、言伝えによるとその当時、碓氷郡から獅子舞師匠を呼び習ったといわれているし、舞の荒っぽく勇壮なところが上神の獅子舞とよく似ている部分である。流派は、荒熊流 左廻り三拍子に属し、激しい舞である。近年後継者不足に悩まされる社会状態となったため、従来青年に伝習してきた獅子舞を小学生に伝習させることになった。

指導する先輩と習う子ども達との真剣に取り組み、ようやく小学校高学年組と低学年組の二組が舞技を習得し、次代への伝承態勢ができたことは誠に喜ばしい限りである。

## ❖ 上神蔵平獅子舞(高崎市上里見町)

**保存会名** 上里見町上神蔵平獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

秋の神社奉納  
榛名ふるさと祭 10月第3日曜 榛名支所

### 概要

上神蔵平円周流獅子舞。

約四百年前武田信玄が上州を平定した永禄九年領地に武田信玄の守護神であった諏訪神社を建立させ、その祭典に神事芸能として獅子舞を勧奨させた。五穀豊穰、天下泰平、家内安全を祈願。特に雨乞い獅子として有名。



演目は、「庭雪書院掛り」「振込 智居羅」「岡崎引輪」「蹴鞠」「女獅子隠し」。

## ❖ 神山下町新井田中獅子舞(高崎市上里見町)

**保存会名** 神山下町新井田中獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

榛名ふるさと祭 10月第3日曜 榛名支所  
秋季奉納 10月 稲荷神社、春日神社、諏訪神社

### 概要

永禄9年(1566年)9月、武田晴信(信玄)が堅城箕輪城を落城させたとき、領地(里見地域も含む)一帯に武田氏の守護神であった諏訪神社を建立させ、神事芸能として獅子舞を奉納させたのが始まりと云われている。はじめは村に一社として上里見下の原に建立され、春秋2回の祭典が行われていたが、宝永3年(1706年)上神の諏訪の原、東光寺西隣り、下里見西向井二子塚、八丁目の南高地の五箇所にそれぞれ諏訪神社が建立された。それによって各地区に獅子舞が分散普及されたと云われている。

獅子舞の発祥依頼の経過については、明らかではないが、時代の移り変わりとともに中断したりして継続されてきたようである。各地区にあった獅子舞も後継者不足等により、里見地区と、上神地区の2つの獅子舞だけである。戦時中は国策上中断された。昭和51年になって郷土芸能無形文化保存の風潮が高まり、「神山下町・新井田獅子舞保存会」が結成された。その後、全戸加入の保存会として各戸より会費を徴収し保存会の活動を継続している。円周流に属しており、輪になって踊るのが特徴で、独特な型をした流調な舞が多い。

また、この獅子舞は「お天気獅子」の別称があり、いかなる悪天候にもこの獅子舞を出すと直ちに快晴になると云われている。

演目は、「道中囃子」「お宮参り」「初庭の舞」など9演目。

## ❖ 齊渡北野神社獅子舞(高崎市上室田町)

**保存会名** 齊渡北野神社獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

齊渡春祭り 4月第1日曜 上室田研修センター  
榛名ふるさと祭 10月第3日曜 高崎市榛名支所

### 概要

流派は三国判官流と称し、約三百数十年前の天明年間の頃に信州信濃の国から吾妻を経て当地方に伝わり、定着したものであると言われている。

そのためか、古くから吾妻郡泉沢地区、大戸、五所谷戸地区等の獅子組と舞の交流があった。

齊渡北野神社の獅子舞は、子供の部と大人の部の二つに分かれており、子供獅子については、昼間に齊渡北野神社へ舞の奉納を行い、村内各所で厄除けや村内繁盛の願いをこめて舞い歩き大人獅子に引き継ぐ。

演目は、「四方固め」「どうすくい」「長獅子」「れんじの歌切り」など、大人獅子10通り、子供獅子10通りの舞がある。



## ❖ 宮谷戸獅子舞(高崎市下室田町)

**保存会名** 下室田町宮谷戸獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

榛名ふるさと祭 10月第3日曜 高崎市榛名支所  
村祭 11月第1日曜 宮谷戸諏訪神社

### 概要

戦国時代の永禄年間(1563年)に武田信玄が上州を平定し民心収攬の為、武田氏の氏神である諏訪神社を移し祀らせ獅子舞を奉納させたのが始まりといわれている。

宮谷戸の諏訪神社の境内には元々八幡宮がありこれが昔からの氏神であった。

戦国時代にはこの宮谷戸の地が草津街道の要衝であったため、武田勢一族の七騎が駐留土着して新たに諏訪神社を祀り春秋二回獅子舞を奉納して地域の鎮守を図っていたと伝えられている。

流派は判官(ほうがん)流に属し38曲(舞曲28曲、行進曲10曲)が伝承されている。

目的は天下泰平、五穀豊穰、家内安全、雨乞い等であるが近年では村人の親睦に重きを置いている。

平成初期までは諏訪神社、八幡宮のほか西の守り神であるお天狗様、東の守り神であるお稲荷様へも奉納をしていたが国道406号の交通事情により村内行進が困難となり村中心部の諏訪神社境内で毎年11月第1日曜日に全曲演舞している。



## ❖ 長根宿神楽舞と獅子舞(高崎市吉井町長根)

**保存会名** 長根宿獅子神楽舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

長根神社秋季例大祭 4月第2日曜日、10月第2日曜日

### 概要

#### 神楽獅子舞

寛政年間(1789~1800)、伊勢の国から来た旅人が中長根の名主江原家に泊まり、そのときに伝えたものといわれ、歌詞にも関西地方の地名や名所等が多く入っている。

この神楽獅子の囃子方には鼓の入るのが特色で、その使い方や舞のしぐさ等は能舞に似ているところもあって、県内では数少ない民俗芸能といわれている。以前は神楽殿で舞われていたようだったが、今は座敷、または土間にゴザを敷いた上で、一人が頭と前足、一人が後持ち(後ろ足)となり、頭に付けたホカンと呼ばれる大きな布をかぶり、二人一組で舞うものである。

演目は、悪魔祓い、広庭、岩、子持ち、神社までの行き帰りに神楽堂(輿)をかついで練り歩く時の道中囃子がある。(写真左)

#### 獅子舞

古老の口伝によれば、元禄年間(1688~1703)以前から伝わるという。五穀豊穰、悪疫防止を神仏に祈願し、合わせて近隣同士の融和を計る意図から、当時の恩行寺住職が前頭を、当時の名主が後頭を、中頭を村一円で調達したという。

舞の流派は稲荷流で、今の甘楽町秋畑那須の獅子連を招いて指導を受け習得したといわれる。以前は宿神明宮に奉納されていたが、神社合併により長根神社に奉納されるようになった。(写真右)

平成9年9月25日 高崎市重要無形民俗文化財指定



高崎市教育委員会提供

## ❖ 奥平神社獅子舞(高崎市吉井町上奥平)

**保存会名** 奥平神社獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

奥平神社例大祭 10月中旬 奥平神社

### 概要

奥平神社獅子舞は、吉井町上奥平に伝わる獅子舞で、毎年奥平神社の祭りに奉納されている。伝承によれば、江戸時代上奥平の有志が現在の高崎市阿久津町に行き教えを受けたという。昭和38年に獅子舞の研究者である新井南花氏に観てもらったところ、稲荷流古派の正統を継ぐものという。

舞は天狗様・前獅子・中獅子・後獅子・大黒様の5役で行い、その種類は剣の舞・幣掛・花吸・三拍子・花崩・鞠掛・綱切・女獅子隠の8通りがある。その舞は、勇壮にして優雅との評価を受けている。

平成12年5月26日 高崎市重要無形民俗文化財指定



高崎市教育委員会提供

## ❖ 多比良神社獅子舞(高崎市吉井町多比良)

**保存会名** 多比良神社獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

春の例大祭 4月15日に近い日曜日 多比良神社

吉井民俗芸能大会 5月3日 吉井文化会館

### 概要

多比良神社獅子舞の由来については、その起源、伝説等詳らかに出来ないのが残念である。主として多比良神社に奉納する獅子舞である事から、神社の再建当時の状況やその他の状況から推測して、室町時代より舞い始められたものらしい。というも現在の獅子に古い獅子頭が三頭あるが、鑑定の結果、室町時代の作品であることがわかった。その獅子頭で踊り続けてきたが、その後形の良い獅子頭を買い入れて使用し現在に至っている。

流派は、黒熊流、特に踊りの激しい獅子舞である。かつて、多比良神社の氏子、西組、中組、新堀向平の地区で長男しか獅子舞を継承することが出来なかったが、現在では、年齢性別関係なく継承することができる。

演目は、「小庭の舞」「花見の舞」「寝て金捜しの舞」「剣の舞」など。



## ❖ 馬庭獅子舞(高崎市吉井町馬庭)

**保存会名** 馬庭飯玉神社獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

春祭 4月第1日曜 飯玉神社

八坂神社祭 7月第4土・日 飯玉神社 数年休止中

秋祭 10月第2土・日 村内8ヵ所 巡行

**概要**

流派は不明であるが、吉井町誌によると獅子頭は慶応三年に新調したものと伝えられる。獅子組は16人で構成される。三頭獅子のほか、花笠2、菊花1、神馬3、禰宜1、警護4などが衣装をまとして行列を組む。

演目は、「女獅子かくし」「菊水」「おかざき」「ちやるら」など。

平成13年11月22日 高崎市重要無形民俗文化財指定



## ❖ 阿夫利神社・谷不動尊奉納獅子舞(高崎市吉井町多比良)

**保存会名** 多比良谷獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

阿夫利神社大祭 3月最終日曜 阿夫利神社

谷不動尊縁日 3月最終日曜 谷不動尊

吉井町郷土伝統芸能大会 5月3日 吉井町文化会館

**概要**

当地の獅子舞は阿夫利神社と弘法大師により刻まれたと伝わる摩崖仏不動尊に毎年春の祭典、縁日3月28日に災厄祓り、村内安泰、五穀豊穰、等を祈願し奉納されて祈る。

舞の流派は稻荷流で一人立ち、雄獅子二頭雌獅子一頭の獅子でカンカチが入り4人で舞う舞である。

正徳年間(1710年代)仏教と共に当地に伝えられた。何せ村が小さい為、活動休止を余儀なくされがちな獅子舞も現藤岡市の飯塚国蔵により中興されて現在に至っている。

発足当初の頭(カシラ)や文献は残っていないが中興された後の頭(カシラ)は何度か修理されて現在に至っている。現頭(カシラ)は平成20年に行政の力添えで新調し従来の頭(カシラ)と寸分違わない出来映えとなり谷組獅子舞保存会として安堵している。

旧の頭(カシラ)は村の宝として大切に保存し祭りの際には公開している。

演目は、「花吸い」「殿車」「岡崎」「天狗拍子」など。



## ❖ 下滝獅子舞(高崎市下滝町)

**保存会名** 下滝町獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

下滝町芸能祭 3月中旬日曜日 下滝町芸能祭  
赤城神社秋季大祭 10月上旬日曜日 下滝町・赤城神社  
滝川ふれあいフェスティバル 11月中旬日曜日  
滝川小学校

### 概要

下滝町の獅子舞は、稲荷流下滝派一人立ち三連舞獅子で、今から300年程前から伝えられており五穀豊穰・家内安全を祈願いたし、町民の慰安にもなって、生活に密着している芸能である。その勇壮な舞は、神社舞と寺舞とがあり33舞もある。

獅子舞に先立ち、演じられる祭礼棒術の儀は、戸田流武芸の達人・戸田新八郎の棒術で、獅子舞の場が清められる。

町の鎮守様である赤城神社の春（3月15日）秋（10月9日）の祭りには、氏子によって神社の境内や町内の各地で獅子舞が奉納されてきた。

一時途絶えていたが関係者の熱意と町民の協力によって昭和26年に再興がなされ、昭和28年の群馬県獅子舞保存会の設立には、率先してその指導的役割を果たした先人の活動がその原動力になっていることはいままでのない。

昭和36年には群馬県代表として京都石清水（いわしみず）八幡宮の千百年祭に出演奉納を行っている。その際の奉納旗は、町民の宝・町民の誇りである。また、昭和62年には子供獅子舞を復活させるなど後継者の育成という観点から、獅子舞が町民の穏やかな人間形成に多大な貢献をしている。

演目は、「道下り」「大門棧り」「さわいれ」「ちりとりろ」「毬がかり」など。



## ❖ 寺尾町獅子舞(石神社獅子舞)(高崎市寺尾町)

**保存会名** 寺尾町第3地区獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所** (中断中)

石神社春季大祭 4月19日  
石神社秋季大祭 10月19日

### 概要

当獅子舞は稲荷流に属し、天災地変を神仏の加護により排除し、併せて五穀豊穰、氏子安穏を祈願するため、当時の多野郡八幡村阿久津の獅子舞を師として氏子全員にて技を修め奉納したのが始まりで、早天続きのとき部落を流れる衣沢川が烏川へ合流する佐野窪下の河原で、しばしば雨乞いの獅子舞を奉納したと伝えられている。

現在の獅子頭は田中村（現在の高崎市和田多中町？）の78歳の翁、新井金重師により明治15年4月作成され、塗師は連雀町の稲見忠七郎師と獅子頭に記録されている。

昔時は技を伝承するため練習は長男に限られ、春秋の石神社祭礼に奉納し、村内随所にて家内安全の祈願が行われた。また、獅子舞の構成はカンカチ、先獅子（法眼）中獅子（牝獅子）後獅子の4名、笛20名程度で演舞するのが原則だが、カンカチが成人して獅子舞を演舞する便のために新稽古では3名ずつ養成している。舞の種類は20種程が伝えられているが現在は減っている。

演目は、「振り込み」「三拍子」「梵天」「花吸い」「玉遊び」「橋掛り」「歌切り」「剣の舞」。



## ❖ 上中居町獅子舞(高崎市上中居町)

**保存会名** 上中居町獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

上中居諏訪神社春季例祭 3月27日 諏訪神社

上中井諏訪神社秋季大祭 年10月19日 上中居諏訪神社

**概要**

天保3年(1833年)に倉賀野田子屋より分家されたものとして引き継がれている。

現在も長持に田子屋のその当時の入在が記名されている。

天下一角兵衛流として天下泰平と村の繁栄を願い、諏訪神社に奉納されてきたものである。

戦前は高崎神社春秋大祭及びえびす講等、戦後は明治神宮、靖国神社等に奉納し数多くの行事に出演している。

演目は、「道拍子」「大門掛」「凡殿」「花吸い」。



## ❖ 萩原獅子舞(高崎市萩原町)

**保存会名** 萩原町獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所** (中断中)

**概要**

萩原村(現高崎市萩原)の現存古文書によれば、獅子の出来たのは文化13年子8月15日(1816)、今より174年前であった。

鎮守両八幡宮天王宮ならびに徳蔵寺で舞い納め、また、村役人方にて舞うことが決められている。祭礼当日は目立つ衣服の着用、大酒、口論を嗜むことを取り決めている。(区有文書 1)

演目は、「大門がかり」「新ぎり」「花吸」「三拍子」「仕舞切」。

## ◆ 保渡田榛名神社獅子舞(高崎市保渡田町)

**保存会名** 保渡田榛名神社獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

保渡田榛名神社春祭り奉納 4月第2日曜

保渡田榛名神社

上郊小学校運動会郷土芸能発表 9月27日 上郊小学校

上郊地域フェスティバル 11月1日 上郊小学校体育館

### 概要

この獅子舞はカンカチと獅子3頭から構成される一人立ち獅子舞で、流派は稲荷流である。

先人及び古老の言い伝えでは京都から伝わって来て、約360年の歴史があるとされているが古文書等が焼失してしまい現存しないため、定かではない。

地元保渡田榛名神社の祭典では五穀豊穰、無病息災、天下泰平、家内安全を祈願し獅子舞が奉納されてきた。しかし幾度となく獅子舞の中断時期があり、特に戦後の高度成長期には長い間途絶えていたが、平成2年に氏子の熱意で43年振りに新稽古を立て、子ども28人が舞と笛を習い賑やかな祭りが復活した。

その後、暫くは順調に推移したものの師匠の高齢化や後継者養成の停滞等により、神社奉納も困難となり、存続の危機に直面した。これを憂慮した氏子有志の呼びかけで平成21年に保存会が結成され、新たな保存、継承活動がスタートした。

関係者の努力の甲斐あって子どもの舞と母親達の笛の新稽古が翌年13年振りに誕生しその春祭りに奉納が再開できた。以降、現在に至っており、今年の祭典では念願の子どもによる「つるぎの舞」を納めることができた。

今後も伝統ある形を崩さず、古式ゆかしい舞と親しまれた澄んだ笛の音を絶やさないように努める所存である。

演目は、「通り笛」「振り込み」「敷石」「庭めぐり」「花吸い」など16演目。



## ◆ 前田原獅子舞(ささら)(桐生市黒保根町下田沢)

**保存会名** 前田原獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

十二山神社秋祭り 10月第1日曜日 十二山神社

### 概要

江戸中期頃、愛知県岡崎から導入したと伝えられている。

資料を焼失したため定かなことはわからない。

下田沢の十二山神社、赤城神社に奉納する獅子舞であり五穀豊穰と家内、地区の安全を願うものであった。

戦後、生活の混乱期に入り中止していたが昭和49年に保存会の組織もでき復活し、毎年秋には下田沢十二神社(地元ではじゅうにさまと親しまれている)で奉納されている。

演目は、「つゆ拂い」「前奏曲」「舞い始め」「おかざき」「ねむり」など10演目。

平成11年3月30日 桐生市重要無形文化財指定



## ❖ 涌丸獅子舞「ささら舞」(桐生市黒保根町上田沢)

**保存会名** 涌丸獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

秋祭り 9月後半又は10月始めの日曜日  
八坂神社 医光寺境内赤城神社

**概要**

江戸期(安永年間)の導入とされており、無病息災、五穀豊穡を祈った舞である。

「ささら」という名称の和楽器を用いたことから「ささら舞」とも呼ばれている。

太平洋戦争と戦後にとだえた時期もあったが、昭和46年に獅子舞保存会が発足されて現在に至る。涌丸地区の八坂神社、赤城神社、医光寺境内の3ヶ所にて舞を奉納している。

平成11年3月30日 桐生市重要無形文化財指定



## ❖ 千本木龍頭神舞(伊勢崎市南千本木町)

**保存会名** 千本木龍頭神舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

千本木神社秋季大祭 10月第3土・日 千本木神社  
郷土芸能大会 11月23日 境総合文化センター

**概要**

明治34年より前の記録は残っていないが、他の一人立、3人獅子舞との違いは「カシラ」が龍である事である。その特徴は耳が無く「ウロコ」が表現されていると思われる点である。「龍は雲を呼ぶ」の言葉の通り「雨乞い」の舞があり、干ばつの折近在の人々の要請により雨乞いを舞った処、雨になり、信頼を得ていたようである。

演目は、「通り神楽」「すり込み」「たたら」「廻りざさら」「ロットロ」など。

平成18年3月24日 群馬県重要無形民俗文化財指定



## ❖ 国定赤城神社奉納獅子舞(伊勢崎市国定町)

**保存会名** 国定赤城神社獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

赤城神社春祭り 4月10日前後の日曜日 赤城神社  
西国定上区夏祭り 7月下旬 青少年広場  
あずま夏祭り 8月上旬 あずま公園  
西国定下区夏祭り 8月上旬 青少年広場  
東国定上下夏祭り 8月上旬 国定広場  
赤城神社秋祭り 10月17日前後の日曜日 赤城神社



### 概要

群馬県の中部に位置する伊勢崎市国定町一丁目、二丁目は伊勢崎市の東部に位置し、東でみどり市、太田市に接している。この地区に鎮座する赤城神社は、文治2年3月に田部井四郎三郎により勧請されたと社伝にある。江戸時代には国定村の鎮守として崇敬されていた。

国定村に伝わる獅子舞は、南に隣接する境下湊名や境東新井に伝わる獅子舞と同様に、栃木県文挟に起こった文挟獅子舞が、足尾・群馬県大間々町を通る銅街道を経て、この地区に伝えられたという。

一人立ち三人連舞の獅子舞で、獅子頭（雌獅子一・雄獅子二）を被り、腰の胴鼓を打ちながら横笛に合わせて舞うものである。

この獅子舞は、五穀豊穡や疫役息災を祈願するため、かつては赤城神社の4月と7月そして10月の例祭に奉納され、4月の例祭時には国定地区を巡行して舞い、各戸の繁栄を祈ったという。また時には雨乞いの神事に舞うこともあった。現在は春の4月10日前後の日曜日と秋の10月17日前後の日曜日に執り行われる例祭に奉納演舞される他、地区納涼祭や秋葉祭に出場している。

この獅子舞に使われる獅子頭や道具の特徴は以下のとおりである。その1つは獅子頭にある。雄獅子二つは一方の獅子頭には角が一本で、もう一方は二本あり、共に「鳳凰元」(ホウオウガン)と呼ばれている。

また獅子の頭頂部は馬のタテガミが植え込まれている。また横笛は、高音の出る六穴五本調子の真笛を使うがこの地域では珍しい。

演目は、「宮子」「礼ざさら」「守友」「日挟」「お亀ひょっとこ」「牝獅子隠し」「鳥居誉め」。

平成18年6月15日 伊勢崎市重要無形民俗文化財指定

## ❖ 下湊名大国神社の獅子舞(伊勢崎市境下湊名)

**保存会名** 下湊名獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

伊勢崎市郷土芸能発表会 4月6日 華蔵寺公園  
島村渡船フェスタ 5月18日 利根川  
境郷土芸能発表会 9月14日 境文化センター  
大国神社秋季大祭 10月26日 大国神社  
さかい産業祭 11月9日 境ふれあいパーク

### 概要

この獅子舞は、上野国延喜式内12社下湊名大国神社に奉納されている獅子舞である。

伝承によれば室町時代の後期に村民の天下泰平、五穀豊穡、無病息災、家内安全を願い、獅子舞が始められたと言いつたされており、流派は火挟流、舞は勇壮活発でしかも格調高い舞と評価されている。

演目は、「練り込み」「平佐々良」「畏まり」「橋がかり」「女獅子隠し」。

平成18年6月15日 伊勢崎市重要無形民俗文化財指定



## ❖ 東新井の獅子舞(伊勢崎市境東新井)

**保存会名** 東新井獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

華蔵寺公園花祭り 4月 華蔵寺公園  
境ふるさと祭り 8月 国道354号線歩行者天国内  
境芸能発表会 10月 境総合文化センター  
東新井ふるさと祭り 11月第3日曜日 神明宮

### 概要

古くから村の神社に奉納されてきたもので、江戸初期ごろに下野の日挟村から伝えられたといわれている。

演舞形式は俗に「ささら獅子舞」といい、正式には「火挟流（日挟）一人立三人連舞」と呼ぶ。

昭和35年に村の諸事情により中断したが、昭和53年に演舞者が中心となって努力して「獅子舞保存会」を結成し、関係者も加わり獅子舞を復活させることができた。その後、新しい演舞者も加わり昭和57年秋、当時の境町教育委員会より「境町重要無形文化財」に指定された。

獅子は「法眼」「雌獅子」「雄獅子」という獅子頭を頭につけ、袴・脚絆・草鞋の装束三人立ちで、数人の笛に合わせて胴太鼓を打ちながら演舞を行う。祭礼棒は、六尺棒と小太刀を持つ二人が舞をする。

東新井の獅子舞は歴史と気品があり、「悪疫防止」「家内安全」「五穀豊穰」（雨乞い）など含め祈願し、二つの神社に奉納するものである。嘗ては春と秋の祭り、神帰り、の三回行われていた。

現在では毎年11月の第三日曜日「東新井ふるさと祭り」の日と定めて、この日は朝から夕方まで区の大勢の方や他の地区の方も大勢見物に来訪して、獅子舞の素晴らしさを楽しんでいる。

演目は、「平ざさら」「橋がかり」「ボンゼン」。

平成18年6月15日 伊勢崎市重要無形民俗文化財指定



## ❖ 新井八幡宮獅子舞(太田市新井町)

**保存会名** 新井八幡宮獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

大祭  
勤労新穀感謝祭  
各神社への奉納

### 概要

新井八幡宮の獅子舞は、文亀元年辛酉（1501）山城の国（今の京都府）石清水八幡宮より伝承されし由緒あるもので、その舞は優雅にして然も勇壮なるものである。以来500年近くに亘り存続されてきたが、大東亜戦後から

昭和40年代前半にかけては、先輩の笛吹き、師匠たちも次々と物故し、後継者難もあり、一時は存続を危ぶむ声も聞かれたが、此の貴重な獅子舞が絶えてしまうのは誠に忍び難いと云うので、若手を中心に奮起して、協議研修を重ねた結果去る昭和48年保存会の結成に漕ぎつけ、以来勤めの合間をみても稽古に励み、其の努力の効有って最近では後継者も出来、昔の様に小学生も加入して一生懸命練習しており、今日の隆盛を見たのは誠に喜ばしい限りである。

演目は、「平庭」「梵前掛り」「橋掛り」「牝獅子隠し」。

昭和48年10月24日 太田市重要無形民俗文化財指定



## ❖ 東矢島長良神社の獅子舞(太田市東矢島)

**保存会名** 東矢島獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

長良神社春祭り 4月第3日曜日 長良神社

### 概要

東矢島長良神社獅子舞は毎年春、4月第3日曜日に天下泰平、村内安全、五穀豊穰を祈り長良神社境内で奉納される。古くは、春祭り4月18日、秋祭り11月23日に行われていた。

獅子舞は「道中獅子」と呼ばれるもので、青年衆により舞われる。12種類の舞があったとされるが、現在は「平庭」、「梵前かかり」、「橋かかり」、「雌獅子かくし」の4種類である。道中は先頭に世話番の提灯、次に万燈を前後に1本ずつ、雄獅子、雌獅子、法眼、笛方の順、次には村人一般が続く。以前は雨乞い、疫病ばらいにも奉納されたと言われている。

長良神社は、社殿によると藤原長良公を祭る神社で、邑楽郡域を中心に分布する。この獅子舞の起源は不明だが、猪の頭を型どった古い獅子頭が保存されている。

目玉に残る塗料から800～1000年程経過していると推定され、古くから伝承される貴重な獅子舞である。

昭和48年10月24日 太田市重要無形民俗文化財指定



## ❖ 冠稲荷神社の獅子舞(太田市細谷町)

**保存会名** 細谷冠稲荷神社獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

初午大祭 3月第3日曜日 冠稲荷神社

### 概要

細谷冠稲荷神社の獅子舞は現在、旧二月の初午の大祭に、天下泰平、五穀豊穰、無病息災村中平安を祈り奉納されている。

起こりは、鎌倉時代と伝えられ、獅子頭は明治28年8月の「古社調査書」によれば「右ハ木作々人詳カナラサレトモ、新田義貞公の寄付セラレシモノナリト云フ、製作古朴ニシテ、恰モ箱ヲ重ネタルガ如シ、故ニ士人重獅子ト称ス」とある。元弘3年5月8日新田義貞拳兵に際し戦勝祈願して、奉納されたとする綱掛りの舞などから、650年以上の伝統といわれている。

獅子舞の系統は箱田流といわれ、一人立ち三頭獅子である。獅子頭は雄獅子、雌獅子、法眼の三頭である。獅子舞の種目は5種類ぐらいあるが、現在は2、3種を舞う。舞手が、各自腰にさげている小太鼓をたたきながら、笛に合わせて舞う。現在、子供たちに教えるなどにして、後継者の養成につとめている。

なお、前掲古社調査書によれば「『小竹楽』ト称スル獅子舞五回」と、獅子舞の奉納が行われたことがわかりまた、同書には「因ニ『ササラ』歌ノ一、ニヲ挙ク」として、獅子舞の歌も保存されている。

演目は、「平ささら」「梵前掛り」「綱掛り」。

平成6年3月25日 太田市重要無形民俗文化財指定



## ❖ 阿久津の稲荷神社獅子舞(太田市阿久津町)

**保存会名** 阿久津獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

11月第3土・日曜日 稲荷神社

### 概要

阿久津獅子舞は、江戸時代初期頃から、阿久津地区の少年たちに代々受け継がれてきたものである。三頭の獅子(牡獅子・牝獅子・ほうがん)が、笛と歌にあわせて、腰につけた太鼓を打ちならしながら、五穀豊穰、風雨順次、悪疫退散を祈って勇壮に舞われる。保存会は、この獅子舞を後世に伝えるために、地区の子どもたちの育成・指導に努めている。

昭和50年10月8日 太田市重要無形民俗文化財指定



## ❖ 堀口賀茂神社獅子舞(太田市堀口町)

**保存会名** 堀口獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

賀茂神社秋季大祭 11月第3土曜日、夜 賀茂神社

### 概要

堀口の獅子舞の起源は不明であるが、太鼓の胴内部の墨書銘に「元禄7年(1694)獅子舞がしばらく中断されていたが再興する」という意味のことが記されていることから江戸時代初期の頃より伝承されていたものと考えられる。

近年に至っては昭和21年の秋の奉納舞を最後に30年間とだえていたが、昭和52年秋関係者により復活された。

村では永くこれを伝承するために獅子舞保存会をつくり、市指定重要無形文化財として後世に伝えることになった。

獅子頭は「牡獅子」「牝獅子」「ほうがん」三頭が一組になって舞う。舞は「ひらにわ」「ぼんでん」「牝獅子がくし」である。奉納は毎年11月第3土曜日の夜、賀茂神社の社前で行われる。

赤々と庭燎がたかれ、多数の観衆に囲まれ、笛の音に合わせて、紺地白抜き三角ちらし模様のたっつけ袴、白足袋姿の獅子っ子が腰太鼓を打ちならしながら、五穀豊穰、悪疫退散など村人の願いをこめて舞う姿は勇壮で神秘的であり、村祭りの伝統を守る重要な民俗遺産である。

演目は、「ひらにわ」「ぼんでん」。

昭和53年12月7日 太田市重要無形民俗文化財指定



## ❖ 新田赤堀獅子舞(太田市新田赤堀町)

**保存会名** 新田赤堀獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

赤堀八幡宮秋季大祭 10月第2又は第3日曜日

### 概要

新田赤堀の起源は、昔からの言い伝えによると三百余年前の元禄年間とされている。火災焼失により文献は無いが、太鼓に「元禄」の文字が記されていたことから、当時この地を治めていた大名か旗本の家来が村人に舞いや歌、笛などを教えたのではないかと伝えられる。

- ・その歌の調子の優雅さや、歌詞の土俗じみ、幼拙ながらも若干の万葉調を帯びている点は太平の世の産であり、「岡崎流静岡」の流れを汲んでいる、と言われている。
- ・獅子頭は昔から塗り替えを戒められているため、古色蒼然としている。
- ・法眼、雌獅子、雄獅子の三頭の獅子が、笛と歌に合わせて舞う非常に勇壮、かつ荘重なもので鬣をなびかせ跳ね踊る躍動感溢れる舞いは、本物の獅子とはかくや、と思わせるものがある。
- ・三頭の獅子はそれぞれ表情が異なり、法眼はリーダー格としての風格と猛々しさを持ち、雄獅子は雄としての荒々しさ、雌獅子は獅子のなかでも優しさ、気品が見られる。この特徴の違いは舞いのなかでも表現され、単に荒々しさだけでなく、舞いによっては怖れ、おのきや雌をいたわる優しさなどの仕草も見られる。
- ・伝承のため、小学校高学年の男子を「ささらっ子」として舞いを、女子には笛を教え、秋季大祭では保存会の大人と交代で舞うことにしている。

演目は、「庭廻り」「岡崎」「切り歌」「橋渡り」「雌獅子隠し」など。

平成9年3月31日 太田市重要無形民俗文化財指定



## ❖ 生枝獅子舞(沼田市白沢町生枝)

**保存会名** 生枝獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

白沢町芸能祭 3月第2日曜 沼田市白沢振興局

### 概要

生枝の獅子舞は、今から三百有余年前に沼田城主・真田氏五代伊賀信澄（信直）から左甚五郎作と称する名作の獅子頭を賜った時から始まったという伝統ある獅子舞である。神事舞として奉納された。

近年においては昭和28年頃より時代の背景からか、その伝承が一時中断を余儀なくされ昭和55年・56年の村の「ふるさと運動推進指定地区」の指定の折り、当時の関係者と中断時に携わった方達の熱意と郷土芸能への思いから復活が果たされた。

演目は、「笹掛かり」「庭見」。

昭和53年2月3日（白沢村当時）沼田市重要無形民俗文化財指定



## ❖ 根利諏訪神社獅子舞 (沼田市利根町根利)

保存会名 根利獅子舞保存会

祭の行事名称・公開期日・公開場所

根利諏訪神社大祭 9月17日に近い日曜日 諏訪神社



## ❖ 上三林ささら (館林市上三林町)

保存会名 上三林ささら保存会

祭の行事名称・公開期日・公開場所

上三林雷電神社秋の祭典 十五夜に一番近い日曜日

三野谷公民館まつり 11月下旬

館林市の各種行事に参加 不定期

### 概要

館林市上三林町の「上三林雷電神社」の奉納する獅子舞のことを通称「ささら」という。

伝来は、江戸中期頃、武州の忍（現在の埼玉県行田市）下中条より伝えられたと言われている。

古くは村内（現在の館林市）の「15歳から16歳」から数え年42歳までの一家の長男（この年代の若者達を「若衆」という）により400年前から継承されていると言われている。

しかし、戦後は時代の変化に伴い「社会生活の変化」、「職業の多様性」などにより、若衆の参加が少なくなってしまった。

そこで、この伝統を継承するため昭和57年9月「上三林ささら保存会」を設立、同年館林市立三野谷公民館で子ども達にささらを伝承し、健全な育成をする目的に「少年・少女教室」を開設して現在も継続している。

この「ささら」舞の特徴は、獅子舞の前に「太刀など」により二人一組で「棒振り」（切りと受けに分かれて「仕合」流派は柳生新陰流と言われている）を行う。又、この棒振り・獅子舞の会場（屋外）の四隅には、木の台に飾られた花（さくらの花）を設置する。

次に、獅子舞は、三頭（雄獅子二頭、雌獅子一頭）で行われ、昔は1時間から2時間近く舞ったと言われているが現在は子ども達と大人の獅子舞合わせて30分程度となっている。

平成5年7月16日 館林市重要無形民俗文化財指定



## ◆ 木戸町のささら舞(館林市木戸町)

保存会名 館林木戸町獅子舞保存会

祭の行事名称・公開期日・公開場所

木戸町夏祭り 7月第4日曜日

### 概要

天正18年(1590)8月に起こった洪水の際、木戸の深諦寺裏の矢場川に獅子頭2基(先獅子及び後獅子)が流れ着き、それを同寺が譲り受けたことが発祥と伝わる。源を訪ねたら、赤城山より流れ来たものという。時の住職覚済坊が寺に安置していたところ、夜な夜な夢枕に立って、太鼓、笛を吹き鳴らし踊りを教えたという。

利根盆地には長良神社、渡瀬盆地には赤城神社があり、何カ所にも獅子が安置してあり本村と同じものが赤城下の白沢村にあるという。その後、住職は牝獅子一基を作り、村民に踊りを教えたという。

明治初期には当時の若者が中心となり、師匠を迎えて毎夜習い伝えられ、戦後は青年団に受け継がれてきた。

昭和35年から13年間中断していたが、昭和48年に復活した。

木戸の獅子舞は、日照り続きに獅子頭を出すと必ず雨が降り、農民を喜ばせたとの言い伝えから「雨降りささら」と呼ばれている。獅子は三頭で一人立ち。祭りでは先払いを先頭に、紅白の万灯、獅子組、笛方、棒太刀の順で列を組んで深諦寺を出発し、赤城神社を始めとする神仏や要所(東西南北)で四方固めを行い、けがれを祓い清めている。

なお、切祓いの棒太刀は柳生流と伝えられている。

演目は、「切祓い」「社切」「躍り込み」「入庭」「橋掛り」「道中」「乱曲」。



## ◆ 川島の獅子舞(渋川市川島)

保存会名 川島獅子舞保存会

祭の行事名称・公開期日・公開場所

甲波宿禰神社秋季大例祭 10月9日に近い日曜日

### 概要

この獅子舞は今より400年前、天文年間から川島諏訪神社祭礼に奉納されていたが天明の災害により中絶された。舞も天保の頃から復興されて今日に至っている。

現在は甲波宿禰神社秋の例祭の10月9日に近い日曜日に奉納舞が催されている。

舞は鹿島流といわれ一人立ち獅子で雄獅子・雌獅子・子獅子・天狗・棒祓い・笛方・謡方によって獅子舞が構成され、一庭の拍子は、わたりびょうし・ちうれ・ばちかつぎ・お庭詣り・四つかまきり・しゃぎり・ぬきばちで終わる。

舞の中には時々歌が加わり、ほめ言葉もある。

徳川家康公は三河国岡崎城主になり、後に将軍となる舞で板戸の舞台の上では獅子太鼓・笛・歌の三拍子がそろっていると言う歌といわれている。

演目は、「切祓い」「社切」「躍り込み」「入庭」「橋掛り」「道中」「乱曲」。

昭和47年10月20日 渋川市重要無形民俗文化財指定



渋川市教育委員会提供

## ❖ 行幸田の獅子舞(渋川市行幸田)

**保存会名** 行幸田甲波宿禰神社獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

地元神社春季例大祭 4月17日に近い日曜日

### 概要

当獅子舞の舞唄の中に、獅子は京都生まれ伊勢で育ってお祓いを受けたと有るが昭和55年の伊勢神宮奉納は誠に里帰りが出来、しばらくは懐想に浸っていたであろう。

古来より獅子頭は、魔除として各地各所に見られるが、先人達が風土、思想文化の中で舞を生み出し、春の五穀豊穰祈願、秋の収穫感謝を神への信仰心と慰安と共に、祭りとして普及発展した芸術文化遺産そのものといえよう。

明治末期以前7月26日、27日に舞った話も有るが、現暦が明治5年に旧暦と替わっているので確かたるものは不明である。唯、日照り続きで困った夏のことを他村の獅子舞が榛名神社へ雨乞奉納をした帰り路、夕立雨に見舞われた話は「上州の史話と伝説」の巻刊行本の文面に見られる。

演目は、「大岡崎」「棒使ィ」「契床」「ドウジャネ」など。

昭和50年1月30日 渋川市重要無形民俗文化財指定



渋川市教育委員会提供

## ❖ 箱田の獅子舞(渋川市北橋町箱田)

**保存会名** 箱田獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

木曾三柱神社春の祭典 4月第2日曜日 木曾三柱神社

### 概要

木曾三柱神社に付属する一人立ちの獅子である。主として青年団の手によって演じられる。

由緒は幕末から明治の頃といわれているが、前橋市川原町から伝えられて始まったという。

地元の木曾神社の祭礼に演じられた翌日、神礼などを持参して川原部落を訪れたものともいわれている。

木曾三柱神社が下箱田の旧県社木曾神社より分かれたのは安政年間のこととなっている。

なぜ分かれたかについて、神主が父子で内紛をおこしたことによるものと云われている。

父は高梨伊賀守正胤といい、前橋市川原町新井家の出であったが、高梨家の養子となりその子もまた養子だったので確執があり、父の正胤が分立を企てた。そのときこの獅子舞も新井氏の手でこの村に移されたらしい(今井善一郎氏説)。

その30年ほどあとに下箱田に大火があった際、ちょうど獅子舞の最中だったので、一時獅子舞を避けて中止したことがあった。大正13年頃、それまで神社の祭典には下南室の神楽を奉納していたのを、獅子舞として復活した。しかし、長い間中断していたので大分舞の型も忘れられたものをなんとか復興した。したがって、もとの型から見るとかなり崩れているといわれている。

獅子舞の目的は、悪魔払いのためと云われている。一人立ちの獅子として特に注目されるものではないが獅子のうち黒ウルシのカシラを端(はな)といい、赤ウルシのカシラを中(なか)、青ウルシを終(しまい)と呼んでいるのはめずらしい。

一人立ちの獅子になれるのは、以前は家の長男であったが、のちにその決めはなくなった。おねりは、4月14日の宵祭りのとき神社の前庭で演じられるが、当日15日の順序は、まず神社で一部を舞い、その後、大石田の松井氏の庭で舞われる。次いで上「かさ」の今井友太郎氏の庭で舞う。

この家は獅子舞再興の功労者だからということである。次に中央の山口氏方の辻で舞い、前原で演じ神主の家に寄り、井出浦の富岡泰三郎氏の庭、深道辻の藤井氏の下で舞い神社に戻る。

以上が以前のおねりの順序である(現存は多少異なっている)。

囃子方は笛と道太鼓である。おねりのほかは、笛と獅子の腰太鼓を囃子として舞われる。なお昔は獅子頭をかぶれる家は相当の家柄でないと許されなかった。また獅子舞実施は村の総意によってきめられこれを拒否すると「村から出る」などといわれた。新しく入ってきたよそ者は獅子頭はかぶらせなかったという。

演目は、「トヒヒ」「オカザキ」「トントチャ」「ジャジャジャン」「コロロ」など。

昭和45年6月27日 渋川市重要無形民俗文化財指定



渋川市教育委員会提供

## ❖ 天王さんの獅子(渋川市北橋町上箱田)

**保存会名** 上箱田自治会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

八坂神社夏祭りの翌日 7月14・15・16日の近い日曜  
上箱田集落センターと上箱田全域

**概要**

今から230年前ころ、天災飢饉になり農民は、病気や疫病になり苦しんでいた。そこで、牛頭天王を招致して、除疫をしたのがはじまりだと聞いている。八坂神社には牛頭天王が祀られている。上箱田地区を二つに別れて、牡獅子と牝獅子と太鼓、ほら貝を持って各隣保班長宅を廻る。



## ❖ 三原田の獅子舞(渋川市赤城町三原田)

**保存会名** 三原田獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

4月15日の近い日曜 三原田八幡宮

**概要**

原田字諏訪上(すわかみ)にあった諏訪神社の氏子が8月27日の例祭に奉納したもので、昭和13年に中絶し、保存会によって昭和57年に復活した。始まりは明らかではないが、腰鼓(ようこ)に「安永四年(1775)乙未九月吉日」と書かれているので、18世紀後半まではさかのぼるようである。現在では4月15日に近い日曜日に八幡宮で舞われる。

獅子頭は張子製で角がなく、獅子鼻の唐獅子型で、呼び方も牡・牝はそのままだが、子ではなく法眼(ほうげん)という。頭には牡は赤、牝は青、法眼は黒の御幣(ごへい)をつける。また、舞子は少年で服装は同じだが、手にした撥で腰鼓を打ちながら舞う。2人の道化(成人)がつく。

演目は、「しんぷり」「おいざさら」「ばみ」。

昭和58年5月16日 渋川市重要無形民俗文化財指定



渋川市教育委員会提供

## ❖ 中尾の獅子舞(渋川市村上)

**保存会名** 中尾獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

中尾観音祭り 4月第1日曜 金平羅神社

小野上温泉まつり 4月29日 小野上温泉

秋の例大祭 11月23日 佐久間神社

**概要**

村上の作間(さくま)神社の獅子舞で、起源は宝永7年(1710)頃にさかのぼると言われている。流派は宝眼流(ほうがんりゅう)に属し、作間神社のほか地元の金刀比羅神社・浅間神社にも奉納してきた。

一時中断していたが、昭和28年頃に再興し、昭和48年には中尾獅子舞保存会を結成し、今日に至っている。明治神宮・靖国神社・浅草寺などへ奉納したこともある。現在は、11月23日に作間神社へ奉納するほか、小野上温泉まつりに出演している。

昭和51年5月24日 渋川市重要無形民俗文化財指定



渋川市教育委員会提供

## ❖ 上小野子獅子舞(渋川市村上)

**保存会名** 上小野子獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

春の奉納 4月第1日曜 七社神社

秋の大祭 9月27日 七社神社

**概要**

小野子の元禄獅子と呼ばれている。元禄の頃、五郎兵衛と善助という二人が獅子頭奉納の悲願を立て、苦心のすえ元禄2年(1689)にようやく完成した。当時、沢頭の佐藤八郎右衛門が協力して獅子組を結成し、以来、如意庵七社大明神、三田野七社大明神、金善寺七社大明神、落釜(おちがま)神明宮に奉納してきた。

明治40年(1907)に火災で道具一切を焼失、しばらく中断していたが、昭和10年に再興された。現在では、4月第1日曜日に七社神社をはじめ各所分神七社神社への奉納を行っている。

昭和51年5月24日 渋川市重要無形民俗文化財指定



渋川市教育委員会提供

## ◆ E<sub>P</sub>地の獅子舞(藤岡市下日野)

**保存会名** 特になし

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

地守神社春の大祭 4月の第1日曜日

秋祭り 10月の第1日曜日

平成21年度より中断

**概要**

この獅子舞は、江戸時代から続いている郷土芸能のようである。神社の大世話人を務めてきた新井家の話によれば、200年程前には既に獅子舞が行われていたという。それ以前の事は同家が道祖神焼きのもらい火で火災に合ったために文書等が焼失して不明であるという。獅子頭も焼けたので金井の大平(おおだいら)からもらい、その後、明治時代になって新しい獅子頭を購入したという。

江戸時代から今日まで、村人は獅子舞を愛し大事に伝承してきたが、平成21年以降中断している。山間部ゆえに若い世代は町へ移住し、過疎化と高齢化が進み、舞い手がいなくなったためである。何年かは村を離れている人が帰ってきて舞ってくれたが、21年以降それもできなくなった。

## ◆ 塩平獅子舞(藤岡市下日野)

**保存会名** 塩平自治会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

地守神社祭 4月第1日曜日

5年ほどまえより中断

**概要**

くわしい伝承は残っていないが、150年程度の実績はあるようである。

各戸の長男が子どもの頃より舞をおぼえ、継承して来たが子どももいなくなり、70~80才の人達が舞っていた。

しかしその人達も亡くなり、現在は舞をできる人、笛をできる人が数人しかおらず5年ほど前から実施していない。

指導者もいないため、活動再開も難しい状況である。

演目は、「道振り」「とりいほめ」「宮めぐり」「おかぐら」「花がかり」「つるぎ」「めじしかくし」。

## ❖ 鮎川獅子舞(藤岡市鮎川)

**保存会名** 鮎川獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

春祭り 2月最後の日曜日 鮎川北野神社

秋祭り 10月第1日曜日

**概要**

流派は稲荷流阿久津派。

鮎川の獅子舞は天保三壬辰年(1832)に伊勢より購入して来た由古老より聞いているが藤岡市史編纂の資料によるとそれより42年前寛政二年(1790)10月隣の緑野村では既に獅子舞はあった。

振り初めの場所のことから紛争となり遂に告訴沙汰に及び、鮎川の光厳寺の別當正福寺が緑野にあり紛争に関連したので、光厳寺と鮎川の村役人3名東平井より1人立合って円満解決した内済証文がある。これから推して鮎川も当時獅子舞を行っていたのではなかろうか。

獅子頭には鳥の羽と馬の尾を使用したものがあるが鮎川の獅子は馬の尾を使ったもので先獅子と後獅子は雄で二本の角をもち先獅子の頭は緑色に栗毛、後獅子は黒く黒馬(あお)の尾を使い、中獅子は雌で頭は朱色で頭上に金色の宝珠を頂き何れも立派である。

そして腰に太鼓を着けカンカチは金の棒をたたき笛に合わせて獅子と一緒に踊る。踊りや笛は各村ともあまり変わらないようであるが、一街道下り、二花水、三劔の舞、四幣かかり五雌獅子隠し、六綱切り等十二通りもありそれぞれの場所によって舞う。



## ❖ 稲荷流下大塚獅子舞(藤岡市下大塚)

**保存会名** 下大塚獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

春祭り 3月15日に近い日曜日 集会所

秋祭り 10月19日に近い日曜日 集会所及び区内

**概要**

伝承によると、宝暦のころ疫病が流行したのを退散させるため、獅子舞が行われ、この地方の振興の対象となって毎年盛大に行われた。江戸末期に村の若衆が一夜の遊興に武州本庄の遊郭に遊んで獅子かしらを質入れたところ、その年にたまたま疫病が流行したので、早速受け戻して獅子舞を奉納したら、不思議と疫病が終息したという。以降毎年秋祭りに獅子舞を奉納し続けている。

飯塚国蔵(俗に獅子国)が婿養子に来ていっそう盛んになったといわれ獅子国は中興の祖と言われている。

稲荷流・滝派。

演目は、「大門掛け」「さわいれ」「びんぐるま」「どじょうねこ」「すがかき」など。



## ❖ 中栗須神明宮獅子舞(藤岡市中栗須)

**保存会名** 中栗須神明宮神事保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

神明宮春季太々神楽奉納 4月7日に近い日曜日

神明宮秋季獅子舞奉納 10月17日に近い日曜日

### 概要

神明宮の獅子舞は、口伝によると阿久津の獅子舞の流れから来ていると言われている(現高崎市阿久津町)。

その年代は獅子頭を納める長持ちの蓋に、正徳二年(1712)に造るとある。平成24年で300年になる。

当地中栗須には「神明宮」と「諏訪神社」の二社があった。「太々神楽」は神明宮の祭典に奉納し「獅子舞」は村の西方、小字諏訪地内の諏訪神社の祭典に奉納したと云う。

明治新政府の方針で一村一社の「御触れ」により合祀し、中栗須は「神明宮」として、春祭りは「太々神楽」秋祭りは「獅子舞」と氏子の努力により現在まで継承されている。

尚、獅子を出すには費用がかかるので、その年に病気が流行したとか、養蚕が不作、稲作の不作等の年には式典のみで、獅子舞の奉納はなかったとのことである。

昭和52年(1977)獅子舞についての打合せ会議(世話人・区長・保存会員)で時代の移り変わりと共にこのままでは継承者が減少してしまうのではと言う事で、以降毎年奉納することに決まった。

流派は稲荷流。ラ行派である。

演目は、「打揃い」「道下り」「おかざき」「諏訪様のスリ込み」「二上がり」など。



## ❖ 稲荷流森獅子舞(藤岡市森)

**保存会名** 森獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

森飯玉神社春例大祭 3月第2土、日曜日 飯玉神社境内

立石神社春例大祭 4月29日 立石神社境内

藤岡市伝統芸能鑑賞会 5月第2日曜日隔年出場 みらい館

藤岡市ボランティア協会発表会 10月 学習センター

市内施設慰問 10月

### 概要

1712年3月15日(正徳2年)、当時森村神宮であった塚越大和守正屋は、稲の精霊とされる穀物の神様である「倉稲魂命」を祭神とする神社の建立を時の中御門天皇に申し出て裁許状を下賜され、塚越家の所有地である森村飯玉久保にお宮を安置し、飯玉大明神と命名した。大明神の神前には村民が五穀豊穰と無病息災を祈願する姿が絶えなかったそうである。

1750年4月、隣村の神明宮の春祭りで神楽や獅子舞を見るにつけ、森村も獅子頭を購入して大明神に奉納しようと気運が高まり、村民が出し合った金子を元に、村役が内山峠を越えて信州佐久から獅子頭を購入し、舞形や笛は和紙に認めていただき、近隣師匠の応援を得て1751年3月15日の大明神の春祭りで獅子舞を奉納したのが始まりである。以来、江戸時代から明治、大正、昭和と受継がれ、本年で265年の歴史を刻む。

流派は「稲荷流」で、カンカチ1人、前獅子(雄)1人、中獅子(雌)1人、後獅子(雄)1人の4人構成で舞を行う。舞は全部で27舞ある。

獅子頭は当初の物と平成19年に新調した物と2組ある。全て漆塗りで髪の毛は馬の毛である。

昭和12年から昭和21年まで時の大戦により休止となっていたが、昭和22年、獅子舞の経験者である針谷弁三氏を師匠として青年団を中心に復活した。

昭和50年からは、森子供育成会の協力を得て、従来の仕来りを排除して希望する子供達全てに舞や笛を伝授している。

演目は、「振込」「ヤレンツウロン」「岡崎」「平庭」「花スイ」など。



## ❖ 本郷寺山獅子舞(藤岡市本郷)

**保存会名** 本郷寺山獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

本郷土師神社秋祭り 10月19日に近い日曜日 土師神社

### 概要

この獅子舞は元来地元の竜田寺で保管したものを、天保時代に上村の福島家へ移管し、産土平地神社の祭りに奉納していたものという。明治42年に平地神社が土師神社に合祀後は土師神社へも奉納するようになった。獅子は3人ともじゅうばんに色ダスキ、タツツケ袴、ワラジ履き・腰幣を差し、腹に鼓をつけ、手甲した両手にバチ棒を持ち、鼓をたたいて舞う。カンカチのうち1人は菅笠・赤陣羽織・縞袴・ハバキの正装をし、他の2人は白鉢巻き、茶羽織の略装で、共にワラジを履き、短い金棒を打ち鳴らして舞う。

舞は、30庭のうち20庭を伝承する。

演目は、「ケイド下り」「幣がかり」「七五三」「剣の舞」など。

(藤岡市史 民俗編より)

## ❖ 山崎獅子舞(藤岡市藤岡)

**保存会名** 山崎獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

10月第3日曜 山崎神社 光徳寺

### 概要

庚申山の北麓が、馬蹄型に入り組んだ内ヤツの両辺に集落があり、北山側を日向、南山側を日陰と呼ぶ。古くから50～70戸ほどの家々があった。伝説では昔、弘法大師がヒョウタン池を掘って開田されたので、感謝の祭りに人々が獅子舞を奉納したのが、獅子舞の始まりだという。そのため獅子頭は龍頭で雨乞いに使われたという。巻物等は江戸時代に焼失して伝わらないが、永く代々伝えるために、家の跡取りをする長男に限って教えてきたものである。山崎の獅子舞は稲荷流と言われ、秋10月19日（現在は、10月第3日曜）鎮守山崎神社の祭礼に奉納して来た。

演目は、「剣の舞」「撥拍子」「花吸い」「女獅子隠し」など。

(藤岡市史 民俗編より)

## ❖ 神田獅子舞(藤岡市神田)

**保存会名** 神田獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

神田浅間神社春祭り 4月第1日曜 神田浅間神社  
藤岡市郷土芸能鑑賞会 2～3年おきに出場

**概要**

神田の獅子舞に伝わる巻物に明和7庚寅(1770)10月28日稲荷流ささら獅子の記録がある。

歴史的考察をすれば明和時代よりも古い江戸時代に獅子の編組が完成していたと思われる。

当時、神田地区は3人の旗本が治めていた。そして三町内に分割統治されると、人々の間に一体感を欠く意識が生まれ、互いに他地区を批判的に見たりする傾向が生まれ、その微妙な意識は人々の心に精神的な疎外感を形成してきた。領民の和合に寄与すべく、村の融和のために或る大名から獅子を贈られ三町内の和合のために獅子舞が行われる事になったと伝えられている(獅子舞により一体感を持たせ、不平不満の解消効果)。

江戸時代末期に名人獅子国(下大塚の人、本名飯塚国蔵)出て上州の稲荷流獅子の本源たる下滝(高崎市)の獅子を源流として、その天才的技能を以て藤岡近辺の多くの獅子組を再構成し、神田の獅子舞もその指導を受けたと云われている。

(飯塚国蔵氏は下滝村より藤岡の美土里村下大塚へ婿入りした人)

(三町内とは現在は宿神田、中神田、後神田と成っている)



## ❖ 坂原菅原神社獅子舞(藤岡市坂原)

**保存会名** 菅原神社獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

初天神 1月25日に近い日曜日 菅原神社

**概要**

はじめは江戸の中期頃といいつたえられている。

神流川が大洪水の時、向かいの安房沢の沢口にひっかかった桐の大株があった。

それを拾いあげ神泉は住居野の住人で彫刻師(木挽職)の手により作られた獅子頭で一般の頭よりやや大きめの作りである。これ呼んで喜楽流といった。

舞はこの地域に分布されているのと同じ系統の舞であり、中でも早い時期に伝承されている。

最初の舞方師匠は秩父方面(吉田町近郊)からの住人の手ほどきを受けたといわれるだけに舞は秩父系である。

演目は、「すりこみ」「宮めぐり」「堀がかり」「剣がかり」「綱がかり」。



## ❖ 日枝神社獅子舞(藤岡市浄法寺)

**保存会名** 日枝神社獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所** (中断中)

### 概要

元応元年(1320)に有志が下総国鹿島神宮に行き、舞を伝授されたと言われている。流派は鹿島流といわれて三頭獅子舞である。山王権現の化身(神)として鬼と猿面が獅子舞に取り入れられているのが、この日枝神社獅子舞の特徴で鬼面を付ける者が一番の上司とされている。

平成6年7月1日 藤岡市重要無形民俗文化財指定  
活動休止中。



## ❖ 御荷鉾山不動尊獅子舞(藤岡市三波川)

**保存会名** 妹ヶ谷不動尊獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

御荷鉾山不動尊例大祭 4月29日 境内広場

### 概要

この獅子舞は毎年4月29日の不動尊の祭典に奉納されている。

始まりは江戸時代、天保14年頃と伝えられているが、伝来、流派等詳細については記述がなく不明である。

戦後一時中断していたが、平成の初めに獅子舞経験者の指導の下、後継者が集まり練習を重ね、平成3年頃より再び復活したが、しかしながら現在は、若者の都市部への流出、人口の過疎高齢化が進み、この先人手不足により獅子舞の継続はかなり厳しいのが現状である。

演目は、「道ぎり」「おんべ振り」「お堂めぐり」「おかざぎ」。

平成15年3月24日 藤岡市重要無形民俗文化財指定



## ◆ 鷲神社獅子舞(藤岡市下日野)

### 保存会名

祭の行事名称・公開期日・公開場所 (中断中)

### 概要

当地区は中倉、鉦沢という字があり、ここの氏神様として現在に至る。現在の地に建立祀られたのは大正時代とされ、元は近くの場所にあった(元宮跡として現在も石宮が祀られている)。

春祭り(4月15日)秋大祭(10月15日)があり、春秋ともに実施していたか不明である。昭和30年後半頃より獅子舞(小中学生が舞う)を伝承した方の転出等により休眠となっていて、その後、教えた親が秋祭りで舞うことがあった。

昭和56年頃に有志の声掛けで再び獅子舞が復活した(20代を中心に)。

獅子舞の数はあるが、五つ程舞の良いものを選び一部復活した。その時の問題として、笛が吹けて指導できる人がおらず、カセットテープ録音。数年実施したものの休眠。平成1~3年頃テープを使用して秋祭りで復活したが、それ以降は獅子頭を秋祭りで神社に飾るだけの状況である。

現在は鉦沢地区は抜けて、中倉のみが守っている神社である。全てを伝承された方(指導者)も既に永眠しているため獅子頭、衣裳の保存披露で今後続くのかと思われる。

神社名は「鷲神社」とも言われているが、社殿には「鷲宮大明神」と記されている。

神社の管理は氏子より神社総代(1名)神社世話人(3名)で、2年任期の輪番制で維持している状況である。

祭時の衣裳等は隣接する公会堂に保管管理。

## ◆ 小柏・上平獅子舞(藤岡市上日野)

### 保存会名

祭の行事名称・公開期日・公開場所

小柏組(野々宮神社) 10月10日を挟んで上下の日曜日

上平組(諏訪神社) 10月10日を挟んで上下の日曜日

### 概要

「青葉百貫下り葉流三人舞一人獅子」と称する。上平組と小柏組(小柏、大谷、奥の反)との二組が会場を一年交替して演じている。つまり、上平組が地元になった年は同地区の鎮守諏訪神社で、小柏組の場合は野々宮神社で、それぞれの秋祭りの日(10月10日)に演じられてきた(古くは2日間の祭だったという)。ただし、台風などがきて不作の年にはやらない。特徴としては、「舞台獅子」と呼ばれ、神楽殿で行われることである。普通の獅子舞のようにワラジは履かないで草履を履き、黒足袋で床の上で演舞される「座敷獅子」である。この獅子舞は秋畑から習ったと伝えている。

演目は、「宮めぐり」「舞台がかり」「幣がかり」「弓がかり」「笹がかり」など。

(藤岡市史より)

## ❖ 星田獅子舞(富岡市星田)

**保存会名** 星田獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

八幡宮例大祭奉納 10月の第3土・日 隔年で実施  
八幡宮

傳宗寺 10月の第3土・日 隔年で実施

### 概要

星田の獅子舞は安永5年(1776)の頃、甘楽郡秋畑村梅の木平より伝承された黒熊流と言われている。獅子舞の持つ太鼓が大きく男獅子2頭女獅子1頭の勇壮な獅子舞である。

古文書を見ると安永5年は諸国全般に、はしかの大流行があったと記載されている。

それに合わせたように星田地区にも獅子舞が取り入れられたのかもしれない。

今では年に一度の鎮守様の祭礼には五穀豊穰、家内安全を八幡神社や山の神に祈願してまわり、続いて菩提寺の傳宗寺で女獅子かくしを奉納する。

演目は、「平庭」「礼ざさら」「女獅子かくし」など。



## ❖ 宇田の獅子舞(富岡市宇田)

**保存会名** 宇田獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

宇田祭り 10月 宇田地区内

富岡市どんと祭り 10月 市中心部

茂木家住宅祭り 4月 市内宮崎地区

一ノ宮地区文化芸能祭 3月 市内一ノ宮地区

富岡市伝統芸能祭 12月 市中心部

### 概要

宇田の獅子舞の始まりは、宇田に古くから残されている巻物の中に「承保元年中秋」とある。

承保元年は1075年、今から約900年前であり、約900年間も続いている。

その頃は、紙張子の獅子頭で舞っていたが、今の木の獅子頭が作られたのが宝永4年、今から約300年前である。

昔は、悪い病気が流行したり、大嵐(今の台風)があったり、また日照りで田植えが出来なかったりするとこれはすべて「神の怒り」であるとして「神様のお怒り」を鎮めるために獅子を舞って神様にお祈りしたのである。

それが次第に村祭りに「豊作と家内安全」であったことを感謝すると共に、来年の無事を祈って獅子を舞うようになった。流派は、稲荷下り葉流。

現在、宇田には9個の頭がある。約300年前(安永4年作)の3個と、今日使うものが6個ある。

3個は250年前(宝暦10年作)あとの3個は200年前(寛政6年作)のものである。

演目は、「花吸い」「弓掛け」「基盤の舞」「剣の舞」。



## ❖ 富岡市中高瀬獅子舞(富岡市中高瀬)

**保存会名** 富岡市中高瀬獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

高瀬神社春季例祭 4月第1日曜日(隔年)

高瀬神社境内・庚申山

富岡どんとまつり 10月中旬(隔年) 富岡小学校

富岡伝統芸能まつり 隔年で実施

富岡市生涯学習センター



### 概要

この獅子舞は、平安時代の承保元年、天下泰平・五穀豊穡・無病息災を願って京都に始まり、時の朝廷に召されて御前舞をした由緒ある獅子舞で、4月の第1日曜日(隔年)に保存会が中心となり、高瀬神社、及び庚申山へ奉納してきている。

流派は稲荷流の内、青葉百管下り葉流。江戸時代中頃、甘楽町の秋畑那須より伝承、舞台は九尺四方注連をめぐらし、莫座を敷いて白足袋を履き、勇壮と言うより優雅に舞うのが特徴とされている。

舞は舞台・花笠・花吸・幣掛かり・笹掛かり・弓・綱等、全部で16あり、現在は14の演舞が可能である。

「かんざし」は小学生高学年の児童7人のみで踊る舞である。獅子頭は6頭(内2頭は女獅子)である。

この獅子舞も、一時は指導者・後継者不足等により存続が危ぶまれ、テープレコーダーの笛の音で獅子舞を演舞するような時期もあったが、15年程前、このままではこの場所に生まれ、育つ子供達の思い出に残る「心のふるさと」が消滅してしまうと危機感を訴え、笛の旋律を数字で表した譜面に写し取り、小・中学生、また高校生や主婦等、獅子舞を知らない方々でも平易に吹けるよう工夫し、更に20代前半の若手後継者数名も加わり、現在では約30名により伝統保存に努めている。

演目は、「簪」「花吸」「笹掛り」「幣掛り」「澤」など14演目。

## ❖ 内匠獅子舞(富岡市内匠)

**保存会名** 内匠獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

高瀬神社祭礼 4月の第1日曜日 高瀬神社

内匠地区の秋祭り 10月15日

富岡どんと祭り 10月(隔年) 富岡小学校

富岡芸能祭 どんと祭りのない年の12月

富岡市生涯学習センター



### 概要

内匠獅子舞はその昔羊太夫が当地に伝えたと言われ、以来神事として行われている。

諏訪大明神はその起源不明なれど鳥居建立記録によれば、元禄の頃村人が官位頂戴の儀、元文3年(1738)に三原位正一位諏訪大明神の官納祭神事、大鳥居建立宝暦13年。安永6年は庵科様・吉井の争いで獅子留(止)めもあるも古来通り行われる、と記されている。

竹川様御領地は、内匠・岩染・神成・邑楽郡5ヶ所で、内匠村は、公儀御用あづかりのため獅子舞の神儀は明治3年まで毎年続けられ、諏訪大明神・内匠城・不動庵・各組氏神様に数百年にわたり奉納され、内匠村氏子一同に伝承されており、内匠城(稲崎城)があることなど、この地方県内でも最古のものと思われる。

演目は、「小庭一代記」「鎮守参り」。

## ❖ 山口獅子舞(富岡市原)

**保存会名** 山口獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

秋季例大祭 10月15日に近い日曜 丹来宇神社  
富岡どんとまつり 隔年開催10月

**概要**

山口獅子舞は、伝承に関する古文書等の存在はないが、地域に残る伝承を調査し、まとめ記したものによると、宝永年間(約300年~400年前)に甘楽町秋畑郷より伝えられたとされる。

古くから地元の丹来宇神社や貫前神社の祭礼に関わりを持ってきたと思われる、獅子舞の流派は高森敬雲稲含流とされる。貫前神社、中之嶽神社、県植樹祭、富岡まつりに奉納し、丹来宇神社に11月1日、今日では10月15日に近い日曜日に奉納している。



富岡市教育委員会提供

## ❖ 下丹生獅子舞(富岡市下丹生)

**保存会名** 下丹生獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

丹生神社秋季例大祭 10月中旬日曜 丹生神社  
富岡伝統芸能祭 12月 富岡市生涯学習センター  
老人福祉施設等慰問 9月~10月  
富岡どんとまつり 隔年開催10月

**概要**

下丹生獅子舞は、今から凡そ500年前頃、甘楽町秋畑の団体が獅子舞を伝承するため各地を回った際に伝承を受けたと言われている。

流派は高盛敬雲東岸流といい、基本の形は雄獅子2匹・雌獅子1匹のいわゆる3匹獅子であり、優雅でありながら躍動感にあふれる舞が特徴である。

毎年10月に、五穀豊穰・天下泰平・地域安定・家内安全等を祈念して、丹生神社の例大祭で獅子舞を奉納している。

保存会構成員の年齢構成は20代から60代であるが、平均年齢は40歳代と比較的若いこともあり、新たな行事に精力的に取り組むことなどを日ごろから検討している。

演目は、「幣がかり」「綱がかり」「まりがかり」「六人」「花すい」。



## ❖ 上丹生下組獅子舞(富岡市上丹生)

**保存会名** 上丹生下組獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

地区祭り

どんと祭り 隔年開催10月

富岡芸能発表会 11月隔年 生涯学習センター  
敬老会

ほたる祭り

### 概要

当地区の獅子舞は古文書、伝承によると約250年前の文化元年が起源とされている。流派は高盛東岸敬雲流といわれ、古記述が残されている。

当保存会の獅子舞は過去に最盛期を迎え、第1回富岡町商工会での競技大会で優勝。また、昭和34年に県代表となって明治神宮・靖国神社で奉納するなど大いに活躍した歴史がある。

5年前の神社・集会所の火災焼失で獅子舞のお頭・衣裳・用具を失い、今懸命に再起につとめている。演目は、舞台掛り、弊掛り、六人獅子舞。



富岡市教育委員会提供

## ❖ 南蛇井上区三耕地獅子舞(富岡市南蛇井)

**保存会名** 三耕地獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

富岡どんと祭り 隔年10月

南西神社秋祭り 10月15日に近い日曜日 南西神社

### 概要

流派は御殿流と言われている。

由来は、定かではないが、1000年位前から行われていると思われる。

演目は、道笛、弊掛り、龍掛り。



## ❖ 相野田獅子舞(富岡市相野田)

**保存会名** 相野田獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

小野地区文化祭 3月 小野小学校  
小野地区納涼祭 8月 小野小学校  
八幡神社春期祭奉納 4月8日 八幡神社  
得成寺春の礼祭 4月8日 得成寺  
富岡どんと祭り 10月隔年 富岡小学校  
富岡芸能発表会 11月隔年 生涯学習センター



### 概要

相野田に伝承されている獅子舞は古文書等なく詳細は不明だが、古老達の言い伝えによると獅子頭の彫刻から見て、徳川三代将軍家光の頃と云われ約350年前と推定される。

流派は岡咲流(舞)下り葉(笛)である。構成は風流系一人立ちで、獅子三頭、猿一頭、花笠(娘)二人である。

演目は、お宮参り、花吸い、弊掛り、笹掛りなど9演目である。

## ❖ 下高尾獅子舞(富岡市下高尾)

**保存会名** 下高尾獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

下高尾秋祭り 10月 下高尾区の神社  
(諏訪神社、八坂神社)  
地区の文化祭 小野小学校体育館  
富岡どんと祭り 10月 富岡小学校校庭  
郷土芸能祭り 11月 富岡市学習センター  
地区の子供会イベント 小野地区公民館



### 概要

獅子舞は昔、天竺地方より推古朝20年(1300有余年前頃)から来朝したと伝えられ又一説には聖徳太子の頃伝来したとも言うが、各種の信仰と関連しつつ社会教育の一環として意義を有し、悪魔を祓う行事として行われ、吾が下高尾にも今を去る380年前より始まり今日に及んで居る。

尚、下高尾の獅子舞は長年の空白を置いて昭和46年に五穀豊穰、家内安全、災疫排除等の祈願をして春祭りが開催された。その後、昭和51年10月に「下高尾獅子舞保存会」が結成され、富岡市教育委員会郷土芸能保存会に加入を申請し、之を認められた。

獅子舞の流派は、青花百貫下り藤流(青花流)。獅子頭は雄獅子2頭、雌獅子1頭、狐1頭合わせて4頭で舞う。

他に猿1頭、花笠2頭が有る。舞は弊掛り、花吸い、笹掛り等、全部で9庭有る。

## ◆ 中北獅子舞(富岡市南後箇)

**保存会名** 中北獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

新春子供フェスティバル 1月 額部公民館  
額部地区文化祭 3月 額部公民館  
額部地区敬老会 9月 額部小学校体育館  
富岡どんと祭り 隔年10月 富岡市生涯学習センター  
富岡市伝統芸能祭 隔年11月 富岡市生涯学習センター

### 概要

中北獅子舞は江戸時代に茶白山古墳の南麓に住んで養蚕・米麦作りをする30戸ほどの農家の人達によって始められ、例年10月15日の額部神社(天神様)の祭りに豊年、無病息災を願って奉納された。

祭りは前夜祭と当日の祭典に区別されるが、前夜祭は組の組長宅を宿として夕食後から開始された。

祭りのプログラムは十一庭もあり、その中休みを取るのもので、夜中の12時くらいまでかかった。

子供達にとっては10時の中休みに手作りのおやつが出るので、それを頂くことが何よりの楽しみであった。

手作りのおやつとは決まって炒り大豆の黒砂糖まぶしと、焼き餅の角切り味噌よごしであった。

祭りの当日は村人が行列をつくり天神様までパレードしたのである。行列には大太鼓を打つ人、万燈を持つ人が加わり、たいそうにぎやかであった。神社奉納舞の後は宿に戻って前夜祭と同様にプログラムを進めて剣の舞をもって祭りは終了した。

中北獅子舞は江戸の昔から世の歴史とともに歩いて来たのであるが、創設当時の状況や伝承の経緯を知る資料、文書が全く見当たらないので、詳しいことが分からないのが残念であるが、笛や歌、舞などから「黒熊流」では、と言われている。

演目は、舞台掛り、弊掛り、弓掛りなど8演目。



## ◆ 横瀬獅子舞(富岡市上高瀬)

**保存会名** 横瀬獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

春の奉納 毎年4月第1または第2日曜日 高瀬神社  
秋の奉納 10月15日 横瀬八幡宮  
富岡どんと祭り 10月 富岡小学校校庭  
郷土芸能祭り 11月隔年 富岡市学習センター

### 概要

横瀬地区に昔から祭られて来た八幡神社の神様が有り、そこで獅子舞を舞っていた。古くは江戸時代の後期文政の頃から伝えられて来た。途中中断したが、7年前に29年ぶりに復活して、今回で6回目の秋祭りをおこなった。

流派は、柳葉流獅子笛で、獅子頭6頭でかんざし4人、花笠2人、やっこ3人の構成する勇壮な舞である。



富岡市教育委員会提供

## ❖ 南蛇井原組獅子舞(富岡市南蛇井)

**保存会名** 南蛇井原組獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

南西神社奉納 10月第2土曜日 南西神社

### 概要

250年程前に先人達は秋畑の那須地区に泊まりで習いに行ったり、教えに来てもらって習った。

舞の流派は不明。笛は降葉流と言われるので、舞も同じか。

獅子頭は舞が激しいので小さめで、中獅子は朱色で額に宝珠を付けている。

前と後ろは刀をくわえるので口を少しあけているが、前のあけかたの方が大きい。

演目は、獅子道、鎮守参りの舞、弊の舞、笹の舞。



## ❖ 下後閑威徳神社獅子舞(安中市下後閑)

**保存会名** 威徳神社ゆかりの獅子舞ゆうしの会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

威徳神社奉納 毎年10月15日前後の日曜日 威徳神社

あんあか祭り 10月(隔年)

老人施設慰問 随時(安中、高崎市)

### 概要

今よりおよそ290年前、下後閑宮貝戸に大宮姫宮明神という神社があり、ここで西上秋間の飽間神社の獅子舞を習い、同神社の古い獅子頭と衣装一式を譲り受け、春秋の祭りに奉納してきたものという。

明治43年4月、神社合併により大宮姫宮神社が威徳神社に合併になり、以降、威徳神社の獅子舞として伝承されてきた。

演目は、庭掛り、ちゃーらり、さわ、おかざぎ、どじょふみなど11演目。



## ◆ 野殿獅子舞(安中市野殿)

**保存会名** 中野殿獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

村の神社秋期大祭奉納 10月12日 菅原神社

白山比咩神社秋期大祭奉納 10月14日

野殿白山比咩神社

寺社奉納 10月14日 菩提寺宗泉寺

### 概要

野殿獅子舞は甘楽の小幡領であった秋畑村から伝わった稻荷流で、いつ頃のものか定かでない。

詩の中に岡崎とあるので徳川時代以前からの伝承と思われる。

毎年10月12日村の天神様、庚申様に奉納して来た。更に10月14日白山神社と菩提寺宗泉寺に奉納し五穀豊穰を祈願した。

踊りは狐、雌雄の獅子で腰に小太鼓を付けて踊る。戦後一時中断していたが、平成2年の秋21年振りに復活し現在に至る。

演目は、ふりこみの舞、ばちあわせの舞、はちかつぎの舞。



## ◆ 磯部赤城神社獅子舞(安中市磯部)

**保存会名** 上磯部獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

上磯部公会堂

赤城神社奉納 10月の第3日曜日 赤城神社

### 概要

青葉百卷柳葉流(青葉の笛)と云われ、およそ300年前甘楽郡秋畑村(現甘楽町大字秋畑)の那須より伝授されたと言われている。

獅子頭は昔、重箱獅子と云われる貴重な物であったが、古くなったので明治25年新調したものが現在の獅子頭である。

村の(新寺)諏訪神社の獅子舞として伝承され、秋祭りに奉納されてきた。大正の初期に諏訪神社が磯部の赤城神社と合併してご神体を移したため、獅子舞も赤城神社に奉納することになり、秋の例祭に上演している。

戦争中中断していたが、昭和31年新井南花先生の指導のもとで明治神宮靖国神社へ奉納致した。

演目は、奉賀の舞、礼佐々良、弊掛り、花吸いなど12演目。

## ❖ 新田獅子舞(安中市松井田町松井田)

**保存会名** 新田無形文化財保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所** (中断中)

10月15日 松井田八間宮

### 概要

八幡宮の祭礼の際、御神輿の先導役として天狗・キツネの次に新田の獅子が務めた。新田の御旅所からいくつかのコースがあり、それらの先導役を務めた。先導役だったので、他の獅子舞のように色々な振り付けがあるわけではなく、腰太鼓をたたきながら簡単な身振り手振りがあった程度だという。腰太鼓や道具箱に文政13年8月の紀年があるので江戸時代から伝わるものと推定される。

獅子舞研究家の新井南花氏によれば、「笛の符は、稻荷流下り派に少し飽間流が混じったものと鑑定された。元々は、行進獅子ではなく舞もあったのであろう。宝暦年間江戸より伝わったこの獅子は、祭礼行列のため舞が後につかえて出来なくなり、次第に舞を略して行進のみになったのではないかと氏は、推測している。獅子頭は小型衣装も子供用であるが金糸銀糸の華やかな衣装である。



安中市教育委員会提供

## ❖ 行田(おくなだ)獅子舞(安中市松井田町行田)

**保存会名** 行田獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

気佐石神社例祭 10月第2日曜日 気佐石神社

碓氷関所祭 5月第2日曜日 碓氷関所跡

### 概要

行田獅子舞は、いつどこから伝わったかは不明であるが、その道の専門家によれば300年以上の歴史を感じさせる舞であるという。また、獅子頭を見た某彫刻師によれば500年位前の作だという。いずれにしても道具の箱書きに文化・天保の紀年名があることから、江戸時代にはこの地で舞われ大切に伝承されてきたものである。

昔、妙義神社の御殿に宮様がおいでの際、宮様の無聊をお慰めする為に行田の獅子舞を上覧に供したことがあって以来、行田の獅子に錦の肩衣を着飾り、十六辯の菊の御紋章入りの高張提灯を先頭にした格式の高い行列をするようになったとのことである。妙義町の大牛・小坂村へ教えに行ったこともあるという。

流派は、黒熊流下総派と言われている。黒熊流の特徴は、荒々しい舞姿にあると言われている。白足袋に草履をきりっと履いた獅子が全身バネを活かして前後左右上下に激しく振り、そして跳ねる所作は、真にその名に相応しいものであると自負している。また、荒々しい獅子と対照的に着物姿の愛らしい少女2人が「ささらすり」の役で参加するのも特徴である。演目は、花吸い、岡崎、山がら、等である。



## ❖ 国衙(こくが)獅子舞(安中市松井田町国衙)

**保存会名** 国衙獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

津雲神社秋季例祭 10月15日例祭前後 津雲神社

### 概要

国衙獅子舞は、流派は、稻荷流天下一角兵衛派と言われる。稻荷流は、京都が発祥とされるが、国衙に伝わったのは、甘楽郡秋畑からだという言い伝えがある。

いつ頃から伝えられたかはっきりした記録は無いが数百年の伝統があると言われている。幕末の文久2(1862)年9月1日安中藩内各村より数十組の獅子舞が参加競演して城内で舞を披露したとき、国衙の獅子舞が見事なため、藩主板倉勝股侯から今一度舞うように求められ大いに面目を施したと伝えられている。

また、天保11年と明治4年の「祭礼餞受納覚帳」が残されており、これによると近隣の村々からも多くの餞(寄附)が寄せられており、国衙の獅子舞が近隣でも有名だった事が窺える。

演目は、花吸い、剣の舞、オカザキ、泥鰯ふみ。



安中市教育委員会提供

## ❖ 土塩(ひじしお)上村獅子舞(安中市松井田町土塩)

**保存会名** 土塩上村獅子舞

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

神明宮秋季例祭奉納 10月15日に近い日曜日  
神明宮ほか5ヵ所

### 概要

当獅子舞は約300年前に天下泰平、五穀豊穰、部落繁栄、家内安全を祈念して伝来したと考えられる。

判官流判官派で太鼓を胸の高い位置に付け、腰を低く下げ、ゆっくりと「優雅に舞う」ことを基本としている。

舞は前庭六場、後庭六場で、この間に舞児や笛吹は休憩を取る。この休憩時間を利用して道化万才(恵比寿大黒)により場繋ぎを行う。

この道化万才(餅つき甚句と住送り)は、他地区の獅子にはないため珍しく、また面白おかしく演じられるので大変人気が高い出し物となっている。

昭和33年に靖国神社・明治神宮に群馬県代表として奉納したが、昭和35年頃か休止状態となった。昭和54年、吉井町文化会館落慶記念行事の群馬県選抜獅子舞大会出場を目指し復活し現在に至っている。

演目は、振り込み、剣、大岡崎、しりこけ、かたまわりなど12演目。



## ❖ 土塩(ひじしお)中組獅子舞(安中市松井田町土塩)

**保存会名** 土塩中組獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

神明宮秋季例祭奉納 10月15日に近い日曜日  
神明宮、山の神、熊野神社他

### 概要

土塩中組獅子舞は、新井獅子舞と同じ鷹森（東岸）慶雲流であることから新井から300年ほど前に伝えられたと考えられている。確かな記録としては江戸時代後期の弘化2年に神明宮に獅子舞を奉納した記録が残されているので、この頃には盛んに舞われていたことになる（明治・大正期の祭礼帳簿が多数残されている）。昭和34年の皇太子ご成婚記念奉祝獅子舞大会に松井田高校で舞って以後低調になり、昭和40年頃小学校で舞ったのを最後に中断した。昭和52年に地域の若い方々の協力で復活し現在に至っている。

演目は、れいれん切り、弊がかり、花吸いなど8演目。



安中市教育委員会提供

## ❖ 新井諏訪神社獅子舞(安中市松井田新井)

**保存会名** 新井諏訪神社獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

新井諏訪神社奉納 10月15日近い日曜日 新井諏訪神社  
碓氷関所祭 平成25年5月 碓氷関所跡

### 概要

獅子舞の発祥は明かではないが、江戸時代中期、甘楽秋畑から伝承されたとも云われている。

流派は「鷹盛慶雲流」とあるが、この地域に根ざしはぐくまれ育てられたものと考えられる。

舞い始めの詞に「柳々日の本開く天神七代国常建命目出度う世を治め給う 然るに諸々の悪鬼人界を絶やさんず末世の如し 時に天竺の王これを憐れみ 人民安全の方便を以て ありがたや天竺よりこの獅子来り 天下太平当村安全と舞い給う 獅子は鷹盛慶雲流」とあり、舞は力強く勇壮そのものである。祭りの日は氏子が集まり宮司の司祭により豊作・家内安全・子孫繁栄等の祭事が行われ七庭の奉納が終日つづく。

その舞風は、代々の名人師匠に引き継がれ、戦時中も休むことなく稽古を続け、後継者の育成に努めてきた。しかし急速に進む少子化の波は新井地区にも押し寄せ、最近では舞子をはじめ、笛吹、指導者等も減ってきて維持に苦勞せざるを得ない状況になっている。

演目は、雷電ぎり、弊掛り、剣、花吸いなど7演目。



## ◆ 上増田獅子舞 (通称大和田獅子舞) (安中市松井田町上増田)

**保存会名** 上増田獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

八坂神社秋の祭典 10月15日に一番近い日曜日  
八坂神社

### 概要

流派は三国判官流稲荷派。

この獅子舞は今から250年～260年くらい前の宝暦年間(1750年～1764年)に、大和田諏訪神社の氏子萩原半左衛門が吾妻方面から用具を買って来て、諏訪神社に奉納したことに始まると言われている。

獅子舞研究家の新井南花氏によれば「獅子頭は龍体頭で塗りもよく、太鼓(腰鼓)の紐も紫で往時は立派なものだったでしょう。笛は三国判官派で、舞は黒熊流が混じっている。笛の調子が早く、舞は活発勇壮なものである」とのことだった。

昭和29年に保存会を結成し、伝統文化の保存に努めている。

戦後の混乱期には、獅子舞を奉納する機会は少なくなり休んでいた時期もあったが、昭和48年頃より復活し、小中学生に舞を教え、再び神社への奉納ができるようになった。

演目は、チンリヤリヤ、ヘイカガリ、片岡崎、三拍子など9演目。



## ◆ 横川諏訪神社獅子舞 (安中市松井田町横川)

**保存会名** 横川獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所** (中断中)

碓氷関所大祭 5月 碓氷関所跡  
諏訪神社大祭 9月 諏訪神社

### 概要

横川獅子舞は、今から300年ほど前江戸中期に始まると云われている(元治元年(1864)の太鼓張り替えの記録がある)。本来諏訪神社に属する獅子舞であったが、獅子舞が伝えられてから50年ほど経ったある年、疫病が大流行し、関所役人までバタバタと倒れる有様だった。そこ

で関所役人が疫病退散の獅子舞を村人に命じ、関所上段の間にてわらじばきのまま舞ったところ、大いに効き目があったので、役人たちは大いに喜び関所奉納が恒例となった。このようなわけで諏訪神社祭礼と関所に奉納されてきた。

当獅子舞は、黒熊流下総派と云われており、甘楽方面に多い舞であるのでそちらから伝わったのかも知れない(明治28年頃上丹生の高橋竹次郎という人物に教えを受けたという話や武井末吉氏の先祖が小竹村から智養子に来て小竹の獅子舞を教えたという話もある)。現在活動休止中であるが、当時は、本番15日くらい前から矢ノ沢の武井茶屋本陣の庭で練習を行い、本番2日前にブツォロイ(総練習)をやり、前日は、休養をとり本番に備えた。本番は、宿から諏訪神社(踊る場所)まで笛を吹きながら道行(行進)をする。本番が終わるとカサヌギ(慰労会)をその日のうちにやった。関所まつり(5月3日)と諏訪神社秋季例祭(9月15日)に毎年奉納してきた。

平成に入ると度々中断があったが、平成8年に子供獅子で復活、その後数年活動したが後継者不足から平成14年9月15日の諏訪神社奉納を最後に再び中断している。

演目は、四方固め、弊掛り、天狗拍子、花吸いなど7演目。



## ❖ 板鼻八坂神社獅子舞(安中市板鼻)

保存会名 安中市板鼻5区

祭の行事名称・公開期日・公開場所 (中断中)

### 概要

現在は獅子頭のみ保存している。

伝承は不明。地区の文化財として今後も保存したいが、修理が必要。

修理の予定なし。

安中市板鼻5区として保存。保存責任者は区長。

## ❖ 小竹獅子舞(安中市松井田町五料)

保存会名 小竹獅子舞保存会

祭の行事名称・公開期日・公開場所 (中断中)

碓氷神社奉納 4月3日 碓氷神社

### 概要

一説には、天明3年の浅間焼けの砂降りの後疫病がはやったので、それを鎮めるため下総の行者が伝えたという(甘楽方面から伝わったとも明治初年に始められたともいう)。嘉永3年9月に天狗の衣装を新調した記録が残っている。また、「獅子衣服新調 明治20年9月 寄附連名」という記録や「明治22年9月創始祭典規約波古曾神社氏子壺統」という記録があり、この中の第4条に「若者獅子役者共取締世話係の指揮に背く事を得ず」の言葉が出てくるのでこの頃は盛んであった事が窺える。獅子舞研究家の新井南花氏によれば、「長い間の中絶で、笛、特に舞が崩れてしまっているが伝承者の武井竹次氏の熱心な指導で復活も可能である」としている。舞は古老の言い伝えでは、かつて48庭も演目があったというが残された道具の豊富さからも窺い知ることができる。

昭和34年に皇太子ご成婚記念奉祝獅子舞大会に参加して以来、上演していない。昭和40年頃衣装だけ着て神社まで行列したのが最後である。

年に1回道具の虫干しをしているが、獅子頭の塗りが剥げており衣装も傷みが激しく、伝承者の高齢化と共に道具の傷みが復活を難しくしている状況である。



安中市教育委員会提供

## ❖ 大王寺獅子舞(安中市松井田町人見)

**保存会名** 大王寺獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所** (中断中)

諏訪神社秋季例祭 10月15日 諏訪神社

### 概要

大王寺の獅子舞は、村内の諏訪神社の祭礼に奉納されてきた。由来は、不明であるが江戸時代に甘楽郡秋畑から伝わったといわれている。流派は、稲荷流下り葉派で、靖国神社へ奉納したこともある。昭和34年の皇太子ご成婚記念奉祝獅子舞大会にも参加している。当時の代表者は、須藤牧太郎氏である。

上演可能な頃は、本番15日くらい前から地元の公会堂で練習を始めた。本番2日前には、ブツォロイ（総練習）して、本番前日は、休養日とし、本番に備えた。当日は、宿から諏訪神社まで笛を吹きながら道行（行進）をした。本番が終わるとその日にカサヌギ（慰労会）をした。

演目は、シャギリ、鞠掛り、花吸い等。残念ながら現在中断中である。

4月3日の春季例祭日と10月15日の秋季例祭日に獅子の展示と衣装の虫干しをしている。



安中市教育委員会提供

## ❖ 小中獅子舞(みどり市東町)

**保存会名** 小中獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

小中秋祭り 9月第1日曜日 小中鳥海神社

東町文化祭三大祭り 10月 童謡ふるさと館

鳥海神社初詣 1月 小中鳥海神社

### 概要

奥州（東北地方）の大豪族・阿部貞任は朝廷に逆らい、源頼義率いる大軍に討ちとられた。前9年の役（1062年）貞任の弟宗任は俘囚となり、京に送られる際、宗任を慕った一部の家来たちは現在の沢入地区まで同道したが、朝廷の命により京に上ることを許されず、やむなく当地に土着した。後、宗任を慕った家来たちは宗任を祀り、鳥海神社と名付け、村の鎮守とした。

その宗任の伝説との関係から、中世の頃、京より「ささらすり」の獅子舞がこの地区に伝わった。

田楽を発祥とした、田植え・害虫除け・収穫に至る田の神の神事舞で豊年を祈願、さらに村の安全・疫病除けを祈願して舞われたと伝えられている。

流派は鷺畑権兵衛火狭流といわれ、小林伊兵衛によって広く流布され、今日に至っている。

毎年旧暦の6月15日と9月19日に獅子舞を奉納していたが、現在は毎年9月の第1日曜日を祭日とし、鳥海神社境内で舞われている。

演目は、御入堂、広庭、ささがかりなど6演目。



## ❖ 下八幡宮獅子舞(吉岡町南下)

**保存会名** 下八幡宮獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

下八幡宮春季祭典 4月第1日曜日 下八幡宮神社  
町民文化祭・伝統文化発表会 11月3日  
吉岡町民文化センター

### 概要

下八幡宮獅子舞の確かな起源・伝来等の記録はないが、下八幡(吉岡町)より野良犬(前橋市)に獅子舞が伝えられたのが慶長年間(1600年頃)と言われているので室町時代まで遡ると思われる。又、獅子頭の塗り替えが安永6年(1777)に行われた事が頭に記されている。

流派は県内では極めて数の少ない、関白龍天流。

頭は桐の巨木の掘抜で、人の頭が中に入る造りになっている。雄獅子は、三本振りの螺旋状に彫刻された角を持つ。

舞は腰を低く落とし、手足を大きく左右に振り、強靱にして素朴に舞う努力を怠ってはならないと戒められている。

演目は、振り込み、岡崎、トロラリ、ヒーラリなど8演目。

平成15年5月22日 吉岡町重要無形文化財指定



## ❖ 溝祭三宮神社獅子舞(吉岡町大久保)

**保存会名** 吉岡町溝祭獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

三宮神社春季例大祭 4月第1日曜日 三宮神社  
(溝祭自治会) 溝祭夏祭り 8月上旬 三宮神社  
町民文化祭・伝統芸能発表会 11月上旬  
吉岡町文化センター

### 概要

当獅子舞は稲荷流佐々良獅子舞といい、天正年間からあったと伝えられ、氏神である三宮神社の祭典に奉納されてきた。

鶏の羽で作られている獅子頭が多い中で、毛獅子であることが特徴であり、先獅子、中獅子、後獅子とカンカチで舞う。

十数年ごとに行われてきた三宮神社の本祭礼では、当町の久保地区の屋台の先頭に立って神社に奉納されてきた。

また、早魃で作物が枯れるような年には、当町の船尾滝まで登り、雨乞いをするると必ず恵みの雨が降るといので「雨乞い獅子」としても知られ、遠くの村々まで評判であったと伝えられている。

慶応2年、村中で稽古をした後、明治10年に唱歌がまとめられ、その本をもとに作成された冊子が教本として今日まで練習に生かされている。

演目は、岡崎、宮廻り、沢の平、劔の舞など12演目。

平成15年5月22日 吉岡町重要無形文化財指定



## ❖ 大藪獅子舞(吉岡町南下)

**保存会名** 吉岡町大藪獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

八幡神社春祭 4月第2日曜日 八幡神社

### 概要

大藪獅子舞は、大永3年(1523年)桃井播磨守が守刀2振りとともに上八幡神社に奉納をしたことが始まりと伝えられている。

天下泰平・家内安全・五穀豊穰・春期祭典など守神として地元住民のよりどころである。

流派は稲荷流佐々良獅子で一人立ち三頭連れの舞である。頭は獅子でなく、枝角を2本付けた竜で、手甲・タッケ・白足袋・草履の衣装で腰に付けた太鼓を打ち鳴らして舞う。

舞いの振りは30通り、歌が21通り、通り笛が6通り。威勢のよい振りと数の多さは近隣にないものである。

演目は、「剣の舞」「振込み」「梵天」「お暇」「綱」など。

平成15年5月22日 吉岡町指定重要無形文化財指定



## ❖ 下仁田町鎌田獅子舞(下仁田町馬山)

**保存会名** 鎌田獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

鎌田神社秋期大祭奉納 10月16日17日に近い土曜日  
鎌田神社

### 概要

天下泰平・国家安全・五穀豊穰・悪霊退散を社宮子天神宮に祈願するこの獅子舞は、約300年程前よりこの地区に伝わり、毎年祭礼に奉納する。

その昔は、9月15日であったが大正の中期より晩秋蚕の普及に伴い10月17日と改定され今日に至る。

獅子舞は、佐加利葉流にて、頭(かしら)は2組(6頭)あり、他に白狐・猿・花笠・太夫・やっこ・鬼狂言等、約30種類ある獅子舞は舞台掛けより最後は剣の舞、本日奉納の笛掛けは剣の舞の足固めといい、女獅子隠しと共に獅子舞の三役であり、家を相続する長男が舞う。女獅子隠しは、男獅子同志が女獅子を奪い合い、白狐が仲裁して女獅子を一度づつ授けるといいう、笛の合間に恋に絡まる歌が20余りある獅子舞のドラマである。

剣の舞は、舞台四方を固め最後に注連を切る。

演目は、「舞台掛け」「幣掛け」「笛掛け」「剣の舞」など。



## ❖ 若宮組獅子舞(下仁田町大字馬山若宮)

保存会名 若宮組

(下仁田町大字馬山字若宮を範囲とする地域)

### 祭の行事名称・公開期日・公開場所

馬山神社秋期大祭宵祭り 10月16・17日に近い土曜

馬山神社境内

馬山神社秋期大祭奉納 宵祭り翌日の日曜

馬山神社境内

ぶつつおーれ 宵祭り前々日の木曜 若宮組集会所



### 概要

昭和12年発行の郷土史「郷土調査」によれば「百五六十一年の歴史を有す。其の始めについては詳かならず。」「さがりは流にて秋畑村の那須より傳ふ。」とされる。今から230年～240年前に、甘楽町秋畑の那須から伝承されたものとする。

村人の無病息災、家内安全、五穀豊穰を願って若宮八幡宮に奉納されていたが、明治12年村(旧馬山村)内の主な社が合祀され馬山神社が造営されてからは馬山神社の例大祭に奉納されるようになった。古くは馬山地区の獅子舞が一同に会し村民の心情を鼓舞したようだが、平成になってからは馬山神社に奉納するのは若宮獅子舞のみになり現在に至る。

獅子は二頭の雄獅子(黒色)と一頭の雌獅子(赤色)の三頭獅子で、それぞれ一人立ちの三頭一組で舞う。獅子頭は漆塗りで頂に山鳥の羽を挿す。頭に続く部分は、山鳥の羽毛が舞手の背に垂れ下がるように編まれている。

流派は稲荷流(下り葉流)とされる。舞方は、腰に結わえた太鼓を撥で叩き、足さばき・姿勢を3人揃えて舞う。笛方は、笛頭その他、数名の笛吹きが努め、舞の始めと終わりに大太鼓が入る。

演目は、鎮守詣り、弊掛り、花吸い、綱掛り等九庭あるが、地域住民が減少する今後への課題が残る。

## ❖ 蒔田獅子舞(下仁田町馬山蒔田)

保存会名 蒔田自治会

### 祭の行事名称・公開期日・公開場所

10月中旬 蒔田区集会所

### 概要

今からおよそ200年前頃、甘楽町秋畑より伝わったと言われる。

演目は、鎮守詣り、弊掛り、花掛り、綱掛り、蛇掛りなど11演目。



## ❖ 白山神社獅子舞(下仁田町大字白山)

**保存会名** 白山神社獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

秋祭り 10月 日は未定 白山神社・公会堂

### 概要

古文書に依ると、加賀の白山権現〈村上天皇の皇子村兵部少輔の氏神〉を信州小懸郡真田へ引鎮座その頃が天亀3年。真田より西上州甘楽郡白山へ引鎮座その頃が天正2年とあり、今より約400年前である。その後、白山神社の神殿神楽殿倉庫が火災に遇い、その時、獅子頭諸道具古文書を焼失した為、獅子舞の起源由来について詳らかでない。

古老の言伝に依ると、天明年間に現在の所に神殿を再建し、その時代に作った獅子頭を現在伝承致しているそうだ。白山の重箱獅子と呼ばれ近郷より親しまれ、毎年10月の白山神社例祭の宵祭りには天下泰平五穀豊穰悪疫退散を祈願し、夜の明けるまで舞を奉納し、昭和38年迄続けて来た。その後中断していたが、最近郷土芸能が盛んになり白山も獅子舞再開の気運が盛り上がり、昭和54年1月部落新年会に獅子舞保存会を設立した。

演目は、基盤、松掛、笹掛、綱掛、弊掛。



## ❖ 下小坂獅子舞(下仁田町大字中小坂)

**保存会名** 下小坂芸能保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

秋祭り 体育の日前(土曜日、日曜日) 2区公会堂

### 概要

大正3年11月からの記録が在るが、現在伝承されているものは、甘楽町那須の獅子舞の流れを汲むもので、戦後復活したものと聞いている。

本来は屋外で踊ったものであろうが現在は畳の上で踊っている。

五穀豊穰・無病息災・家内安全を願ったものと思われる。

演目は、舞台、御弊、碁坂、花吸い、笹、弓、剣である。



## ❖ 芦の平獅子舞(下仁田町南野牧)

**保存会名** 仲良獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

荒船神社奉納 10月の第2日曜日 荒船神社

### 概要

この獅子舞は約160年くらい前、松井田町小竹地区より伝わると聞いている。

天下泰平・五穀豊穰・家内安全・部落の繁栄を祝い、毎年10月14日は諏訪神社及び芦の平・道平・中丸の4部落の代表宅で交替で奉納する。翌15日は荒船神社へ奉納する。

この獅子は約160年間休止することなく継承され現在にいたる。

流派は黒熊下総流。

演目は、下総、花吸、天神森、弊掛である。



## ❖ 中小坂の獅子舞(下仁田町中小坂)

**保存会名** 中小坂組

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

野栗神社秋祭り奉納 10月第2日曜日 野栗神社

### 概要

由来の詳細はないが、富岡の宇芸神社から教わって来て始まった。

流派は青葉奈流（荒熊流）。

演目は、弊掛り、花吸い、六人獅子、山崩、丸掛り。



## ❖ 那須獅子舞(甘楽町秋畑)

**保存会名** 那須獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

10月第1日曜日 稲含神社と地区住民センター  
町文化祭 11月3日 甘楽町文化会館

### 概要

この獅子舞は、第43代元明天皇の和銅年間、日本全国各地域から20人が京都に集まり獅子舞の振付をし、それぞれの地域に持ち帰り、祭礼に奉納すべく伝授された中の一人に、田村市郎左衛門教重という人がいてこの那須の地に伝えたのが始まりで、以来、天下泰平・国家安全・家内隆昌・五穀豊穰・無病息災・雨乞いを祈念し、悪魔・伝染病を追い払う守り神として、その徳をたたえたものと言われている。

こうして伝えられた那須獅子舞は、守護神である稲含神社の祭礼に奉納し、住民が安心して生活できるよう祈念して、今日まで延々1300年という長い年月伝えられた。伝統ある獅子舞を、長く後世に伝え保存すべく昭和26年4月県下に先駆けて、那須獅子舞保存会が結成される。

昭和37年甘楽町重要無形民俗文化財第1号に指定される。

平成13年3月23日県指定重要無形民俗文化財に指定される。獅子舞としては、県指定第1号である。

このように永く伝統を保持し、継承してきた那須獅子舞は、獅子三家という特別な家柄があり、代が変わってもその家が続けていく世襲制で、他では見られない特殊なものである。

獅子三家とは

- ・その一の家役割としては、獅子の道具（衣装・太鼓等）を保管したり、いろいろな会議を司る。
- ・その二の家役割としては、祭礼のある時・獅子舞の稽古等を司る。
- ・その三の家役割としては、笛の吹き方・舞の振付・手ほどきを伝授することを司る。

流派は稲荷流、笛の流派は下葉流である。

演目は、舞台掛、弊掛、笹掛、鞠掛など18演目。



## ❖ 天引の獅子舞(甘楽町天引)

**保存会名** 諏訪神社天引獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

諏訪神社秋祭り 10月第3日曜日 諏訪神社  
甘楽町芸能文化祭 11月3日 甘楽町文化会館

### 概要

室町時代の永禄13年(1570)向陽寺が開山し、その以前から当地は宿場として栄えた様である。

この頃から獅子舞が始まったようである。専門家によれば獅子頭の形状や衣装その他から判断して江戸中期のもので、特に口に色紙を喰わえているのは非常に珍しく、県下で一ヶ所しかないとのことである。

獅子は三頭で前獅子(牡)、中(牝)、後(牡)で、それぞれ色紙を黄赤青と口に喰わえ、他に「カンカチ」の案内役その他がいる。舞は、綱掛り、華吸、道振り、庭振りがある。

舞は昭和30年(1955)以後途絶えていたが、62年(1987)諏訪神社の改築を機に「村づくり運動」の一環として復活した。

昭和63年12月6日 甘楽町重要無形民俗文化財指定



## ❖ 造石獅子舞(甘楽町造石)

**保存会名** 造石獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

甘楽町文化祭 11月3日

### 概要

造石獅子舞は、徳川中期以降、文政年代の頃、熊倉流を継承。特に盛んに舞うようになったのは、明治16年頃からと伝えられている。

熊倉流を継承するものに、笹掛かりがあり、鞠掛かり、綱掛かりと共に造石獅子舞を代表するものである。その他に梵天(ぼんでん)、花笠、剣(つるぎ)、平庭としてもどり木、耳かき、羽休め、しづめ、だきばち、女獅子(めじし)隠しがあり、以上の十二庭で形成されている。

又、入羽には、ひいとれろん、街道くんだり、ひいひゃーりつ、ちゅうひやりこ、どじょう猫他があり、道笛として、岡崎、花岡崎、岡崎くずし、花岡崎くずし、ひきわくずし、とうるとうひよひよる、とうひいひゃーひ、等がある。



甘楽町教育委員会提供

## ❖ 十二区下盛羽流獅子舞(甘楽町秋畑)

**保存会名** 十二区下盛羽流獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

甘楽町民俗芸能大会 11月3日 甘楽ふれあいの丘

秋畑十二区公会堂 11月3日 十二区下公会堂

### 概要

十二区のうち赤谷、赤谷平、百々瀬の三集落に受け継がれている獅子舞で、わずか25戸の小集落ながら若手から年配者まで全戸参加の体制で継承している。

演目は、舞台掛、弊掛、鞠掛、弓掛など9演目である。



## ❖ 梅ノ木平の獅子舞(甘楽町秋畑)

**保存会名** 梅ノ木平獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

例大祭 隔年 10月第1土曜 旧第3中学校体育館  
甘楽町産業文化祭 民俗芸能大会 11月3日  
甘楽町陸上競技場

### 概要

この獅子舞は、平安時代最末期の源平合戦(寿永4年、1185)で源義経軍に加わり、屋島(香川県)の合戦で扇の的を射ぬいて武勇を馳せた那須与一宗高が出陣の際に伝授したものと言われている。与一の兄が富岡市野上を領しており、兄を頼って野上に来て、その後、秋畑那須地区に一時期移住していた。与一が信仰した八幡様は「与一八幡宮」として祀られ、与一が弓を練習した場所が「的場」として残っている。

黒熊流の筆頭と伝えられ、服装も手甲・脚絆・草鞋ばきとして特徴がある。

獅子舞は、一人立ち三頭獅子であり、舞は13庭あったが、現在では宮まいり・剣の舞・小庭・兎切り・天狗拍子・雌獅子隠しなどが舞われている。

近年より10月の第2土・日曜日を例祭日とし各年で行われている。土曜日は宵祭り、日曜日には、地区内にある7つの神社を巡る『七社巡り』が行われ、2日間にわたって舞が奉納される。

小集落ながら若手から年配者まで全戸参加の体制で継承している。

演目は、舞台掛、弊掛、鞠掛、弓掛など9演目である。

昭和45年3月26日 甘楽町重要無形民俗文化財指定



## ❖ ニツ石組獅子舞(甘楽町秋畑)

**保存会名** ニツ石組獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

甘楽町郷土芸能大会 11月3日 甘楽町ふれあいの丘  
貫前神社大祭奉納 3月15日(12年に一度) 貫前神社  
地元の秋祭 10月

### 概要

この獅子舞は稲荷流の青葉下り葉流であり、起源は不詳であるが、産土神(土地を守る神又は氏族の先祖としてまつる神)である雷電神社(明治40年(1907)富岡市の貫前神社に合祀)に奉納されたものである。

獅子頭は2組(6体)あり、1組は大形で他の1組は中形で精巧な彫りである。御殿獅子と言われ、白足袋をはいて舞う優雅な姿が特徴で、昔の地元の人達が甘楽町秋畑那須地区の獅子舞を習ったと言われている。

演目は、弊掛、花吸、弓、笛、綱、まり、碁盤、獅子六人である。

平成6年5月17日 甘楽町重要無形民俗文化財指定



甘楽町教育委員会提供

## ❖ 反下獅子舞(中之条町上沢渡)

**保存会名** 反下獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

反下諏訪神社大祭 4月29日 反下諏訪神社

### 概要

年代は詳しくではないが大岩の獅子から分かれたもの  
と  
言い伝えられている。

参加者は、昔から限定されていない。村に住む男子は  
誰でも参加できる。練習場所は、昔は「宿(やど)」と呼  
び、各家をまわり、練習し「獅子ならい」と言ったが、  
公民館ができてから公民館で練習するようになった。昔  
から精進潔斎する。

演目は、御神獅子、七道、でんでこ、でんがら、荒切、  
抜ばち、けだし、女獅子。  
(中之条の獅子舞より)



中之条町教育委員会提供

## ❖ 大岩獅子舞(中之条町上沢渡大岩)

**保存会名** 大岩獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

諏訪神社秋祭り 9月最終日曜日 諏訪神社

### 概要

今から三百年から四百年ぐらい前のものといわれてい  
る。獅子舞に使う幕に嘉永3年(1850)の墨書銘がある。  
それ以前から使われている幕も存在する。

類似の獅子舞は同じ大字上沢渡の反下獅子舞で、大岩  
で教えたものといわれている。

この獅子舞は、勇壮そのものである。頭が大きく、動  
きが大きく、敏捷で誰が見てもすばらしい一語につき  
るほどである。頭が重いので演目を二つぐらいで交替し  
なければならぬので、昔から出入りのはげしいことを大  
岩の獅子のようだといわれている。見るものに感動を与  
えるこの舞は他に類例を見ないと言っても過言ではな  
いと思われる。また、保存会の組織についても昔から伝  
統を良く守り、集落全体がひとつかたまりになっている  
姿は誠に立派なものである。

演目は、「御神事」「七道」「でんがら」「ぬきばち」「あらぎり」など。



中之条町教育委員会提供

## ❖ 下沢渡獅子舞(中之条町下沢渡)

**保存会名** 下沢渡芸能保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

下沢渡諏訪神社秋祭り 9月第2日曜日  
下沢渡諏訪神社

**概要**

江戸時代より約300年は続いていると言えられている。農家の長男に限り舞うことが出来た。

現在は誰でも舞うことが出来、9月19日が当たり日だが、今は9月第2日曜日に奉納している。

演目は初庭、中庭、末庭。



## ❖ 折田獅子舞(中之条町折田)

**保存会名** 折田獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

春 4月28日または29日 成田不動尊  
秋 9月29日に近い日曜日 折田報特神社

**概要**

記録がないためはっきりしたことはわからないが、寛政九年(1797年)五反田村から借りて獅子舞をしているので、この頃にすでに舞が行われていたのである。道具を入れる箱に嘉永(1848年)と記してあるので、寛政九年以後頭などを作ったのではないと思われる。

参加できる人は昔は長男に限った時代もあったが現在は誰でも参加できる。

演目は、「七度めぐり」「ふり出し」「わたりびょうし」「おかざぎ」など。  
(中之条町の獅子舞より)



中之条町教育委員会提供

## ❖ 山田獅子舞(中之条町山田)

**保存会名** 山田獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

春 4月8日または4月第1・第2日曜日 吾孀神社  
秋 敬老の日 吾孀神社

### 概要

いつの頃始められたかはわからないが、山田村大竹部落の諏訪神社に奉納されていたもので、獅子頭保管箱に付随している祭典記録には、寛永、享保年間のものがある。

明治時代に諏訪神社は、吾孀神社に合併されたが、獅子舞は大竹部落に残り、40戸余りの部落民の手で保護運営され、吾孀神社の要請を受けて春秋2回の祭典に奉納し、亦善光寺三尊仏の御開帳の際にも奉納していた。

昭和47年に至り、後継者のないことと小部落での運営困難な事情など保存・運営一切を吾孀神社に移した。現在は神社側の熱意と氏子有志の努力により山田獅子舞として活躍している。

獅子頭は鹿系統で装飾に障子紙、中継の切り下げを着ける。

演目は、「しゃぎり」「渡拍子」「岡崎」「めじしがくし」「ふりこみ」など。

(中之条の獅子舞より)



中之条町教育委員会提供

## ❖ 大道獅子舞(中之条町大道)

**保存会名** 大道獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

八坂神社奉納 5月3日 八坂神社

### 概要

天保2年(1831)卯10月隣村の栃窪村から獅子頭をはじめとする道具一式を購入し、村の10数名で獅子連を結成し、隣村蟻川村行沢から師匠を頼み、舞の振り付けその他を伝授されたものである。その後村の白山神社に奉納してきたものであるが、明治の神社合併により蟻川村の熊野神社へ白山神社が合祀となったので、熊野神社へ奉納するようになった。道具の中の「ピンササラ」は非常にめずらしいものといわれている。

演目は、振り出し、渡り拍子、綱切りなど。



## ❖ 岩本獅子舞(中之条町岩本)

**保存会名** 岩本郷土芸能保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

岩本諏訪神社奉納 9月27日に近い日曜日  
岩本諏訪神社

### 概要

岩本には上組と下組とそれぞれ諏訪神社があり、それぞれ獅子組があったが神社合併により獅子組も一つにまとめられた。現在の獅子舞は、収納箱に安永4年(1775)末7月吉日と記されていることから、この年につくられたものと考えられるが、断定できない。しかし、この頃より獅子舞が行われていたのは事実である。この獅子組は非常に古いもので村内の清滝寺にあった頭は町内で最も古く桃山時代のものであろうと言われる。

獅子組には、現在誰でも参加できるが、昔から長男を主体としたものであり、一時は、村の有力者の子弟が優先的に頭を振った時代もあったようである。この獅子組は昔から大切にされ、練習中は上組・中組・下組交代で飲食物を競って持ちよせたといわれる。また、獅子舞は神聖なものとして、練習中から身を潔めて舞わなければならないことになっていたといわれる。頭は前獅子、中獅子、後獅子と呼び、道中獅子といわれるものである。

(中之条の獅子舞より)



中之条町教育委員会提供

## ❖ 平獅子舞(中之条町平)

**保存会名** 平獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

毘沙門天大祭 3月彼岸中日 毘沙門天裏庭  
吾妻神社大祭 9月敬老の日前後 吾妻神社庭  
郷土芸能による町おこし 10月上旬  
中之条町郷土芸能発表会 10月及び11月上旬

### 概要

古文書もなく、正確な言い伝えもないのでいつ頃始められたかははっきりしないが、獅子頭を保管する箱に「宝暦8年(1758)」と書かれているのでそれ以前から舞が行われていることは確実であると考えられる。

明治の神社合併以前は、大字平字柳田に諏訪神社があり毎年8月21日に奉納されていたのである。神社合併によって吾妻神社に春秋2回奉納されていたのであるが、だんだん衰微の一途をたどり、昭和9年、14年、それと34年に春秋2回奉納されたままでとだえていた。

46年復活の声があがり青年同志会員の努力により立派に復活され現在に至っている。



## ❖ 蟻川獅子舞(中之条町蟻川)

**保存会名** 蟻川郷土芸能保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

蟻川熊野神社 9月第1日曜 蟻川熊野神社

**概要**

蟻川は上組・下組にわかれ、それぞれ獅子組があったので、二組の獅子頭が現存している。

いつの頃からはじめられたかは不詳であるが、箱に文政12年(1829)丑中秋吉日と墨書があるのでこの時代には行われていたことをものがたるものである。

神社は昔熊野神社が総鎮守で上組に白山神社、下組に鹿島神社があり、9月9日に熊野神社は毎年、白山・鹿島には一年おきに奉納してきたが、神社の合併により現在は、9月の第1日曜日に熊野神社への奉納となっている。戦中・戦後の混乱期に一時中断したがその後復活し現在に続いている。



中之条町教育委員会提供

## ❖ 大塚獅子舞(中之条町大塚)

**保存会名** 大塚獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

吾妻神社奉納 4月1日、9月第2日曜 吾妻神社

不動尊 春または秋

諏訪神社 春または秋

八幡宮 春または秋

町文化祭

**概要**

大塚獅子舞は流派は不明である。参加できる資格は昔から限定されない。

村内の男子なら誰でも参加でき、頭(カシラ)を振る者も限定されない。

1人立で先獅子(雄)中獅子(雌)後獅子(雄)とカシラをかぶらない頭太鼓と野猿(2匹)がいつしよに舞う。

演目は、思弥喜里、ガラリン、四ツ帰り、庭見などがある。



## ❖ 西中之条獅子舞(中之条町西中之条)

**保存会名** 紫宮神社芸能保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

紫宮神社例大祭 3月第3日曜日 境内

町文化祭 11月第1日曜日 つむじ庭

### 概要

今から490年程前、村民の悪病退散、五穀豊穰を神社に祈念するためにこの獅子舞が始まったと言い伝えられている(絞め太鼓の胴の内側に「安政三丙辰三月吉日」と記したものがあつた。一方他村の獅子組から明治20年頃教わつたという記録もあるので、定かではない)。



いつの頃か何者かに獅子頭を奪われ、手痛い打撃をうけたが、村民の熱意により獅子頭を遠方より取り寄せ獅子舞の奉納がなされ、現在に至つているという。

昔はこの厳肅な舞いは村の長男しか舞う権利がなかつたそうだが、現在は多様な人々によつて継承されている。系統としては、一人立ちの鹿系統だが流派は不明(中之条町内で流派がはっきりわかるものはない)。

①先獅子(雄) 黒色で角二本。②中獅子(雌) 赤色で宝珠をのせる。③後獅子(雄) 黒色で角二本。

先獅子、後獅子共に雄獅子であるが、よく見ると彫り物の形が異なる。頭には鳥の羽をさすが昔は在来の「カシワ」鳥の羽を使ったが、現在は山鳥等の羽を使つている。

三月の紫宮神社例大祭に、境内中央に万燈にカサボコを立て、その周りで舞う。狐、鬼、猿がそれぞれ舞の合間に、参拝客とのじゃれ合いもあり、特に子どもたちとの軽妙なやりとりは子どもたちにとって神社での忘れられない思い出となる。

平成3年までは、曜日に関係なく毎年3月19日に例大祭を行つてきたが近年の社会状況を踏まえ平成4年から3月の第3日曜日(第三日曜が彼岸の中日にあたる場合は翌日)に大祭を行い、獅子舞もこれに合わせて奉納している。

演目は、初庭、中庭、雌獅子がくし。

## ❖ 駒岩獅子舞(中之条町四万)

**保存会名** 駒岩獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

春季大祭 5月3日 稲裏神社

町主催郷土芸能発表会 隔年(11月頃開催)

### 概要

駒岩に諏訪神社があつたが、神社の合併により稲神社に合祀されている。

この神社に奉納してゐたのが駒岩獅子舞である。現在は5月3日の大祭に稲裏神社に奉納している。村の伝えによれば400年以上も前から続けられているのだという。昔は8月27日の祭りに毎戸をまわつたという。



中之条町教育委員会提供

組は村に住む長男に限るといふ時代もあつたといふが、現在は誰でも舞に参加でき村中で保存に力を入れている。

演目は、初庭、中庭、末庭。

## ❖ 羽根尾獅子舞(長野原町羽根尾)

**保存会名** 羽根尾獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

春季祭典 宵祭り 4月10日 村内全戸

春季祭典 神社奉納舞 4月11日 羽根尾神社

### 概要

羽根尾の獅子舞の創始は明らかでないが、1570頃、羽根尾城主の海野一家が諏訪神社に奉納したのが始まりとの伝承もある。現在の舞は明治の頃の様式を伝えているという。大正5年頃、孀恋村大笹に伝わる獅子舞より伝授を受けておりこのことにより長野原の獅子舞と同じ流れを汲むとも考えられる（「長野原町の民俗」参照）。

毎年、羽根尾神社の春祭りに演じられている。まず4月10日午後3時頃、神社の社務所にて舞初めをし二手に分かれ地区内を各戸まわりする。翌11日の祭典当日神社にて奉納舞が行われる。昭和47年「羽根尾獅子舞保存会」が結成され伝承に努めている。

演目は、道中ばやし、幕の内、本舞である。



長野原町教育委員会提供

## ❖ 寿獅子(長野原町長野原)

**保存会名** 長野原文化会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

春季大祭奉納 4月25日 長野原諏訪神社

巡回 4月25日 毎戸

### 概要

大正末期頃、吾妻町（現東吾妻町）大柏木地区で行われていた大神楽の演技が伝わったと言われている。昭和12年の支那事変の勃発により戦時色が濃厚となり14年頃より活動停止となった。22年、獅子舞復活の気運が高まったものの、停止期間が長かったことや戦争で疲弊しきった住民に笑顔を取り戻してもらうにはこれまでの演技では不十分と思われた。そこで前橋市で大道芸一座を率いていた小虎師匠の門を叩き、獅子舞等の演技指導を懇願したところ快諾を得られた。

そこで10名の青年有志が22年11月から2ヶ月間に及ぶ特訓を受け「長野原文化会」を名乗った。

翌年から地域の毎戸を悪魔払いする巡回が始まった。この行事は31年から4月25日の諏訪神社春季大祭に行われるようになり、後に拝殿でも奉納するようになった。その他結婚披露宴、イベントでは寿獅子、建物の完成祝等では緑の舞（四方固め）を演じている。

流派は不明。

演目は、寿獅子、緑の舞、剣の舞、鈴の舞などである。



## ❖ 前口獅子舞(草津町前口)

**保存会名** 前口獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

前口区運動会 9月上旬 前口区民館グランド  
草津町芸能発表会 10月下旬 草津町コンサートホール  
諏訪神社奉納 1月1日 前口諏訪神社  
姉妹都市交流並びに町内記念行事等出演 随時



### 概要

前口諏訪神社に伝わる獅子舞は明治の初年に長野原町大字応桑に住む古老を師匠に、前口諏訪神社の氏子に長野県諏訪神社の祭典に伝わる遠州流の流儀を汲むと伝えられる獅子舞を教授され、今日まで伝承されてきた。

形式は、一頭の獅子が氏子の繁栄と安泰を願い五穀の豊穰と悪魔払いの祈祷をするものである。

舞は、獅子が太鼓に合わせて踊りながら悪魔を調伏して、しばし怒り狂いつつ神を慰め楽しませて静かな眠りに入る。そのとき、ひょっとことおかめが出て来て春秋の歌に合わせて、おどけた調子で踊りながら、獅子の眠りをさますという舞である。

演目は、神込め及び神鎮めの舞い、ひょっとこ・おかめの舞いなど。

## ❖ 榛名神社の獅子舞(東吾妻町岡崎)

**保存会名** 岡崎獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

榛名神社例祭獅子舞 4月8日 いずれも直近の日曜日  
榛名神社例祭獅子舞 9月29日直近の日曜日

### 概要

この獅子舞は、もと諏訪神社のものであったが、合祀により現在の場所に移動したものである。諏訪神社の「明細帳」によると社宝右の獅子頭は文化10年(1813)に奉納されたとある。

獅子舞は1人立ちで雄獅子2人雌獅子1人の3人一組で舞う。

舞は初庭、中庭、奥庭の三部に分かれ歌詞がある。

中庭の「雌獅子隠し」の場面では、2頭の雄獅子が雌獅子に関心を持ち、雌獅子を奪い合う激しい場面もある。春は4月、秋は9月に奉納される。

昭和48年3月23日 吾妻町重要無形民俗文化財指定



東吾妻町教育委員会提供

## ❖ 松谷ささら師子舞(東吾妻町松谷)

**保存会名** 松谷ささら師子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

春期大祭奉納 5月2日 松谷神社

秋期大祭奉納 11月23日 松谷神社

### 概要

水出幾男氏所蔵の寛政2年(1789)の古文書によると、この師子舞の由来は昔からこの村の諏訪の森で師子舞が行われていたが、およそ60年ほど前(この文書の書かれた寛政2年から逆算して享保15年ごろ)に凶作の年があって中断し、その後戊年(享保2年)の出水や、宝暦11年(1761)の火災などのために長い間中断していた。

としてある。それを寛政2年9月にいたって再興したものである。

舞の系統は判官流と称せられる。

師子頭は勢多郡花輪村(現東村花輪)の名工星野万之助作の竜頭形。

演目は、おかざき、ぎんぎゃく、しゃぎり等で、神楽殿で上演される。

この師子舞は昭和29年には郡代表として護国神社に、また昭和34年には県代表として靖国神社・明治神宮等に奉納された事もあって、民俗芸能としての優秀性は早くから知られている。特に昭和41年11月には第15回青年大会郷土芸能の部において優秀賞を受け、文部大臣表彰の栄に浴している。

昭和47年3月1日 吾妻町重要無形民俗文化財指定



東吾妻町教育委員会提供

## ❖ 泉沢八幡宮獅子舞(東吾妻町泉沢)

**保存会名** 泉沢獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

春期例大祭奉納 4月15日に近い日曜日 泉沢八幡宮

秋期例大祭奉納 9月15日に近い日曜日 泉沢八幡宮

### 概要

泉沢の獅子舞は約350年ほど前の江戸時代よりの伝統を持つといわれ、正式な記録がないのが残念であるが太平洋戦争中も休むことなく続けられ、泉沢地域の家内安全と五穀豊穰(天下泰平)を祈願して奉納されてきた。

八幡神社宝として鉄扇と以前の獅子頭があり、桐を薄くくりぬいた白木の面に毛を植え込んだ跡があり鼻は大きく全面的に四角い重箱型であり、よほどの名人の作品と思われる。

冊子「榛名町の獅子舞」の斉渡北野神社獅子舞の項に「今より約200余年前の天明年間の頃、信州より吾妻郡を経て当地方に伝わり、斉渡村北野神社獅子舞として定着……」とあり古くより泉沢八幡宮獅子舞、大戸古賀良神社の獅子舞との舞の交流があり、泉沢でも明治時代、斉渡より師匠を迎え、長い間に振り崩した獅子舞を正統なものに直したということである。

今現在の資料によると、曲名、題名、唄等似ているものが多くあり、長い年月の語り継ぎの中で少しずつ変化していったと考えられる。

流派は三国判官流といわれる。

演目は、「振込」「辻がため」「おかざき」「トヒヤリ三国獅子」など。



## ❖ 四戸の獅子舞(東吾妻町三島四戸)

**保存会名** 四戸獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

三島鳥頭神社の例祭 11月3日 三島鳥頭神社

### 概要

四戸の獅子舞は嘉永5年9月19日、三島の鳥頭神社の例祭に四戸、生原両組で共同して奉納したのが最初である。

両組の氏子は神に豊作のお礼をしようという気持から、今後毎年鳥頭神社に獅子舞を奉納することにした。

明治18年12月四戸に大火災があり、保存してあった獅子頭、付属品が焼失してしまった。

なんとかして獅子舞奉納を継続したいという熱望から協議の末、獅子頭等を自作して奉納を継続するようになった。現在に至る。

演目は、振り出し、おかざき、ちゃぐらなど10演目。



## ❖ 古賀良神社獅子舞(東吾妻町大戸)

**保存会名** 大戸獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

春期例大祭奉納 4月11日近くの土、日曜いずれか  
畦宇治神社

秋期例大祭奉納 11月18日近くの土、日曜いずれか  
畦宇治神社

秋期例大祭奉納 11月19日 古賀良神社

### 概要

流派は三国法眼流。

獅子舞がいつ頃からはじめられたかは定かではないが、口伝によると、往古上大戸に諏訪神社があり、本殿修復のため境内の大木を処分した際に、売上金の一部で獅子頭を購入した。村民の家内安全と五穀豊穡を神社に祈願する折りに獅子舞を奉納したのが始まりで、およそ300余年前と言われている。

前群馬郡榛名町齊渡の「北野神社奉納獅子舞」の口伝に、天明年間の頃に、信州より吾妻郡を経て当群馬郡につたわるとのこと。そのため古くから吾妻郡の泉沢や古賀良神社獅子舞と舞の交流があったといわれている。

村に居住する長男、または次男を主体として行い、稽古は、当番にあたる宿の土間や板の間で厳しく行われていたが、晴れの舞台となる祭礼当日は、指導者は振り子に対し一切の苦言は申さなかったという。

残念ながら後継者不足にて12年の中断があったが大戸区全体に呼びかけ、昭和62年に獅子舞保存会が結成され復活となり現在に至っている。

演目は、宮振り、どじょう猫、岡崎、デンヂ、チャーリャウトなど。



## ❖ 道泉谷戸神楽獅子舞(東吾妻町本宿)

**保存会名** 道泉谷戸獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

1月の第2日曜日午後6時より 熊野神社 日向会館  
道泉谷戸の毎戸

### 概要

年代は不詳なるも古老の口伝えによれば、道泉谷戸の産土神として、熊野神社を紀州(和歌山県)熊野より勧請した際、神楽として奏した。

以後2月15日、11月15日の春、秋の例祭に舞ったのが起こりという。

正月に転じた理由、年代は定かでないが古老の記憶によれば、「神社の合祀に伴う明治39年頃ではなかったか」とのことである。

奉納獅子であり昭和37年11月吾妻郡代表として、高崎市の護国神社例祭に奉納、さらに62年3月に高崎市の県立歴史博物館主催企画展「上州の正月」の一環としての「春を呼ぶ正月芸能」に出演、最近では平成22年1月ベシア文化ホールでの第33回県民芸術祭参加「群馬郷土芸能の祭典」にも出演した。

演目は、四方がため、御幣の舞、神の舞である。



## ❖ 藤原の師子舞(武尊師子)(みなかみ町藤原)

**保存会名** 武尊師子保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

秋祭り 8月17日 諏訪神社

### 概要

藤原の諏訪神社では毎年8月17日に祭礼が行なわれ、歌舞伎舞台において師子舞の奉納があり、また余興として地元の子どもたちによる奉納相撲も行なわれる。

師子舞がはじまったのは古く、建久2年(1191年)に源頼朝の家臣によって伝えられたという記録が残っている。この師子舞が奉納される舞台はもともと地方歌舞伎が演じられていた歌舞伎舞台で、寛保2年(1742年)に建てられている。

藤原には、3団体の師子舞保存会があり、各団体の会長が2年ごとに藤原の師子舞の会長になる。この師子は、座敷で舞うもので師の字に獣偏がつかない。

演目は、国久保、日本懸かり、耶魔懸かり、大吉利。

昭和60年7月19日 みなかみ町重要無形民俗文化財指定



みなかみ町教育委員会提供

## ◆ 羽場日枝神社獅子舞(みなかみ町羽場)

**保存会名** 羽場日枝神社獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

春季例大祭奉納 5月3日 羽場日枝神社

### 概要

足利時代、天文2年(1533)5月、伊勢の国の元神官と名乗る夫婦が今の上羽場区北部にたどり着いた。男は才八、女はたんと名乗り、住民に一夜の宿を請うたが農繁期の事とて泊めてくれる家もなく、やむなく一字の堂を借りて夜を過ごした。

長旅の疲れか夜明け頃から才八の腰が痛み出し、たんの必死の看病も効果なく、見かねた住民達も医者よ薬よと世話を惜しまなかったが病は重くなるばかり。この上は神仏に頼るしかないと心に決めたたんはこの村の氏神である山王宮に17日間の火物断ちを誓い身を浄め丑の刻参りを実行した。

そして満願の夜、一心に祈る最中白髪の老人が現れて「私は山王権現である。お前の夫を思う心に感心したので病を治してやろう。以後この地に住まい私の氏子となって才八が習い覚えし獅子舞を氏子に伝え、毎年の祭りに奉納させよ、さすれば来年の夏は流行病に悩ませられようが私が諸神の力を借りてこれを阻止する。帰ってこの事を村人に伝えるが良い」と告げて消えた。夢か現実かハッと気がついたたんは飛ぶように帰宅し夫にこの不思議な体験を話すと、寝ていた病人が起き上がり、手を合わせ三拝した。

たんは夫が起き上がったのを見て驚き、夫は難病を即座に治してくれた氏神とたんの貞節に対して感謝の涙に暮れたと云う。翌朝、この事を村人に知らせたところ、不思議な事と思いながらもたんの真心、神の御心に感じ入った様子であった。

この地に住居を得た夫婦は翌天文3年甲午正月、神との約束の獅子舞のことを村人、村役等に話したところ皆もつもの事と同意し、早速若者を集めて稽古を始めたところ、珍しい事と見物市をなす有様で、お囃子の調子からデツク舞とも云われた。村人は獅子頭を三頭彫刻して、舞に必要な諸道具を調べ、4月中の申の日の山王権現例祭の7日前から修行に励んで奉納した。

その年6月、全国的に流行病が蔓延して多くの死者が出たが、羽場の山王様の氏子からは一人の罹患者も出なかったと云う。

才八、たんの夫婦は約二反歩の田を開墾し、生涯を過ごした。夫婦の墓は自分の田を見渡せる「おたんどん」にある。そして夫が舞い、妻がお囃子を担当した事から此の地を(女囃子)と云い後に(女林)に変わったと云う。

それから約480年、絶えることなく奉納され続けた獅子舞は今、毎年5月3日の羽場日枝神社例大祭に天下泰平、国家安寧、五穀豊穰を祈願し奉納される。

演目は、社吉利、初吉利、中吉利、後吉利である。

昭和49年3月18日 みなかみ町重要無形民俗文化財指定



## ❖ 面神楽(みなかみ町永井)

**保存会名** 永井郷土保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

4月12日 みなかみ町永井本村毎戸

### 概要

永井の神楽舞は天保10年に始まったもので、古い歴史がある。

明治初期一回休んだことがあったが、その年疫病が大流行して何人か亡くなってしまった。それからは、一回も休むことなく続いている。

永井の神楽舞には各戸一人は参加して、村民全員で祭を楽しんでいる。



## ❖ 島耕地の獅子舞(板倉町大高島)

**保存会名** 島和会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

祭り 3月

### 概要

この獅子舞の創設がいつ、誰によって行われたのかは不詳だが、現存する祭礼引継帳によると、嘉永元年(1848)の記載があるのでそれ以前から行われていたことは確かである。

古来からの伝統を現在は島和会員により継承・保存されている。

獅子舞は春・秋(今は行っていない)の祭りが中心だが、早魃の時には評議員と世話人で協議して獅子を出し、利根川へ獅子頭ごと入って舞踊して「雨乞い」をする。安易に出すと水神の怒りをかい、雨が止まず大洪水になるため余程困った時以外は獅子はしない。

演目も多く伝統を感じさせる。

流派は坂東祐作流である。

演目は、イレハ、社切り、小笹の舞、須賀崎、岡崎、大川崎など。



## ❖ 飯野本村日光助作流獅子舞 (板倉町飯野)

**保存会名** 飯野ささら保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

八坂神社奉納 7月14・15・16日前の土日 八坂神社

**概要**

由来について現在語れる人がいない。  
流派なども不明である。

## ❖ 下江黒ささら (明和町下江黒)

**保存会名** 下江黒地区

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

八坂神社の祭典 7月の第3日曜日 八坂神社

**概要**

起源については、つまびらかでないが、昔、埼玉県の大越地方から伝えられたといわれ、獅子舞の道具を格納してある長持ちに元治元年（1864）と記載されてあるところからおそらくそれ以前より行われていたものと推定されるものの詳しくは不明である。

祭日は7月13日から3日間行われたが、現在では7月の第3日曜とし、前日は準備当日の午前を本祭り、午後は厄神除けを行っている。

流派は不明であるが、舞のやり方は前、中、後の三頭の獅子が竜頭をつけ上衣、はかまわらじをはき、太鼓を前腰につけ、叩きながら笛に合わせて四隅に花笠をのせた子供が立つ中で舞う。



## ❖ 仙石ささら舞い(大泉町仙石)

保存会名 仙石ささら保存会

祭の行事名称・公開期日・公開場所

神明宮春祭 4月27日 神明宮

農休み 7月上旬 神明宮

夏祭り 7月下旬 神明宮

神明宮秋祭 10月19日 神明宮

新穀祭 11月2日 神明宮

元旦祭 1月1日 神明宮

### 概要

登場する獅子には、牡獅子、牝獅子、ほうがん獅子の3種類があり、これらの獅子が竹を細かく割り裂き束ねた「ささら」の音に合わせて舞いを舞う。

元禄年間(1688～1704)から伝承されているものともいわれ、その踊子は農家の長男とされている。舞いは「平ささら」「橋がかり」「牝獅子かくし」の三つから成り、正月、春、夏、秋祭等に演じられている。

ささら舞いは天災、人災を防ぎ、病魔除けとして、神の怒りを鎮める鎮魂の儀式が変化したものといわれ、1983(昭和58)年12月、町の重要無形文化財にも指定され今日に至っている。



## ❖ 役原獅子舞(高山村尻高)

保存会名 役原地区

祭の行事名称・公開期日・公開場所

諏訪神社夏祭り 夏休み最終土日 諏訪神社

### 概要

役原獅子は、室町時代、尻高城城主、尻高左馬頭重儀が役原城に隠居し、諏訪神社を建立したときに重儀が少年時代過ごした、埼玉県寄居町の鉢形城にある諏訪神社に伝わる獅子舞(遠州流獅子舞)を習わせ、一族の繁栄と領民の安泰を願う氏神として祭ったのが始まりと言われている。尻高城、役原城も真田軍の攻撃を受け落城、集落も戦禍に会い、獅子舞も途絶えた。

その後江戸時代になり、旗本領となったが領主の肝いりで、獅子舞が復興され、諏訪神社に五穀豊穡、悪魔退散、氏子安泰を願って奉納され現在に至って居る。今の獅子頭は徳川末期の弘化3年(1846年)に作られたものである。

獅子舞は大太鼓をつけた頭、笛吹三人、万燈及び太鼓を持った三人の獅子(これを先獅子、中獅子、後獅子とよび、中獅子は牝獅子といわれている)、それに「ささら」という竹の楽器をもった踊り子を各獅子に組ませ、舞を賑やかにしている。昔はそれに「ひょっとこ」と「おかめ」の面をつけた二人が舞の間合いを踊りつないで、獅子舞を更に賑やかにしていた。

演目は、「七道」「前庭」「後庭」。

昭和40年6月1日 高山村重要無形民俗文化財指定



## ❖ 南新井獅子舞(榛東村新井)

**保存会名** 南新井獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

八幡神社ホタル祭 6月 八幡神社  
9区夏祭り 8月 9区コミュニティーセンター  
浅間様火祭り 9月 9区コミュニティーセンター  
八幡神社秋の礼大祭10月 八幡神社  
老人保養施設慰問 榛東苑 喜望峰



### 概要

享保年間より伝承されたと伝えられ、又現甘楽町那須から伝えられたとも云われ二説あるが、定かではない。

創設時地域戸数40戸と云われた江戸期新井村が、南北に分割統治されていた時代に北と南に各一組の獅子連を持ちながら北組は幕末に廃絶したが、南組は現在の「榛東村第9区」住民によって継承されており、推定460年位の歴史を有していると記録があり、流派は稲荷流(別名:柳流)とされている。

毎年春は4月15日、秋は10月9日の八幡宮礼祭にて「天下泰平五穀豊穰・悪疫退散家内安全」を祈念して舞を奉納して来たが、近年は秋の礼祭のみの奉納で、他に毎年9区夏祭り、浅間様火祭り、村内幼稚園行事と老人保養施設に慰問事業として演舞活動を実施している。

活動経費は9区住民からの年間毎戸会費による浄財と、榛東村無形文化財事業支援経費により運営されている。

本文化財保存・継承も、若い後継者の確保に苦悩しており先人から受け継いだ無形文化財の継承に地域住民の暖かい御理解とご支援を仰ぐ次第である。

演目は、振り込み、花吸い、ぼんてん、橋がかりなど。

昭和46年5月10日 榛東村重要無形民俗文化財指定

## ❖ 鎌原獅子舞(嬭恋村鎌原)

**保存会名** 鎌原獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

元日 1月1日 鎌原神社  
鎌原観音堂 供養祭 8月5日 鎌原観音堂  
春祭典 4月30日 鎌原神社・鎌原区6ヶ所  
秋祭典 10月9日 鎌原神社・鎌原区6ヶ所  
その他 鎌原獅子舞の奉納の依頼があった場合で、適当であるもの



### 概要

今から約220年前、天明3年7月(旧暦)、浅間山大燃発により押し出した熱泥流により鎌原集落は埋没し、壊滅的打撃を受けた(人命477人、馬165頭を失う)。

その時かろうじて生き残った僅か93人の村人たちによって、集落の再建が始まった。

丁度その頃、この災害に追い打ちをかけるがごとく悪疫が流行し村人達を苦しめた。

そこで村人達は氏神様のご本尊である長野県諏訪地方から厄払いのため獅子舞をお願いしたのが始まりだと伝えられ、今でも春と秋の祭典に無病息災、五穀豊穰を願い、近年では毎年正月元旦には鎌原神社境内において奉納し、又先の浅間山大燃発による鎌原集落が埋没した8月5日、鎌原観音堂の供養祭に鎌原観音堂前にて奉納している。

演目は、序の舞、鈴の舞、弊の舞、悪魔払いの舞である。

## ❖ 大前獅子舞(婦恋村大前)

**保存会名** 大前祭典団

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

大前諏訪神社八十八夜祭 5月2、3日 大前神社、大前区内

### 概要

大前区に古くから伝わる諏訪神社の春祭は五穀豊穰、悪魔払い、区民安全など諸々の願いを込めて始められた。

大前獅子舞は大正12年信州真田より師匠を招聘し伝習したものであり、当時は青年団が中心となって行っていた(明治頃から遊び感覚で行われていたとも言われている)。

戦後の昭和34、5年頃青年団の激減により困難となり、そこで青年団OBの参加協力で「大前八十八夜祭典団」が結成され区長が責任者となって継続されている。

近年は祭典団長の尽力により子供獅子もでき、テント方式による区民参加が基本となった。

舞は、幕の内、切笛、御幣、本舞の順で構成されている。



## ❖ 稲荷神社獅子舞(玉村町上新田)

**保存会名** 上新田稲荷神社獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

春の祭礼 2月11日 稲荷神社

### 概要

上新田の稲荷神社に所属している獅子舞で、現在でも毎年2月11日の当社の祭礼日に氏子たちによって演じられている。その起源は、江戸時代元禄年間より伝えられているものとされ、流派は稲荷流を称している。一人立ち三頭舞系の獅子舞で、これにより付人としてオトウカ(お稲荷)とカンカチ各一名および囃子方(笛)によって構成されている。



三頭の獅子はそれぞれ前獅子(法眼ともいい牡獅子)、中獅子(牝獅子)、後獅子(牡獅子)と呼んでいる。舞手は「踊りっ子」ともいわれ、現在では主に子どもたちによって舞われているが先導役のオトウカ役は年輩者が務めている。なお、舞手は昭和初年の頃まで氏子の長男に限られていたという。

囃子の楽器は笛(若干名)と三頭の獅子がそれぞれ胴に着けた胴太鼓、およびカンカチ役が持つカンカチとから成っている。カンカチとは長さ30cmほどの細い金棒で、これを左右の手に持ってカチン、カチンと打ち鳴らし、行進や舞の時の調子をとる一種の打楽器である。

演目は、花酔、花崩し、ボンデン、剣の舞など。

昭和46年4月1日 玉村町重要無形民俗文化財指定

## ❖ 川和の獅子舞(上野村川和)

**保存会名** 川和獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

諏訪神社祭典 9月27日に近い日曜日 諏訪神社

### 概要

由来は詳らかでないが、長野県の諏訪神社関係の人が明治の初めに、川和と尾附に教えにきたと言われている。大正の半ば頃、獅子舞は廃れていたが、江川一松という目の不自由な人が笛をよく知っていて、村人にお囃子を教え獅子舞を復興させたと言われている。一人立で三頭の獅子舞である。宿から子供獅子がスリ出して七庭舞ってから集落を一巡し神社に行き、大人達と交替する。舞台で七庭舞い終わると神社から降りてきて翌年の宿にスリ込みをする。宿は順番に務めてきたが、最近ではスリ出しスリ込みはお寺を使うようになった。

昭和55年7月7日 上野村重要無形民俗文化財指定



上野村教育委員会提供

## ❖ 野栗沢の獅子舞(上野村野栗沢)

**保存会名** 野栗沢獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

野栗沢神社祭典 10月2日 野栗沢神社

### 概要

明治42年に新羽神社、野栗神社、野栗沢神社が合併して新羽神社となった。合併したが建物は残っていたので、野栗、野栗沢は祭りを従来どおりに行っていた。新羽神社の祭りは10月1日で、この祭りは新羽、野栗、野栗沢の3集落合同で行った。野栗神社の祭りは8月1日、野栗沢神社の祭りは10月2日であったので、野栗は8月1日と10月1日、野栗沢は10月1日と2日、年2回の祭りを行った。野栗の神楽、野栗沢の獅子舞は2回奉納された。

村にある5組の獅子舞のうち野栗沢だけ獅子頭(かしら)が違っている。他の獅子頭は頭に乘せる大きさで頭(かしら)の顎から下がった布を通して外を見るのであるが、野栗沢の獅子頭は頭からすっぽり被り、頭(かしら)の口から外を見るようになっている。

5組の獅子舞の由来はいずれも詳らかでないが、野栗沢の場合、現在使用している獅子頭の保管箱に「寛政六年寅八月吉日 獅子箱 野栗沢」と書かれてある。

寛政六年は1794年であるから200年以上も続いている。

前獅子と後獅子が雄で、頭は黒で共に角を持っている。雌獅子は朱色で角はなく額に宝珠を乗せている。村にある5組の獅子舞のうち野栗沢だけ獅子頭が違っている。他の獅子頭は頭に乘せる。

昭和55年7月7日 上野村重要無形民俗文化財指定



上野村教育委員会提供

## ◆ 塩ノ沢獅子舞(上野村塩ノ沢)

**保存会名** 塩ノ沢獅子舞保存会

**祭の行事名称・公開期日・公開場所**

熊野神社例大祭 9月中旬の土・日曜日 熊野神社

### 概要

塩ノ沢の獅子舞いは甘楽郡の大仁田から伝えられたもので「雲切り流」と言われている。獅子頭は、雌獅子1・雄獅子2の計3、雌獅子の頭・地は朱塗りで眼球と歯が金色、高さは20cmキャップ型口閉塞式、耳一木式、鳥毛飾りである。雄獅子の頭は高さが30cm、他は雌獅子と同じである。もとは多くの曲目を持っていたようであるが、現在は九庭しか舞えない。曲目は村内の他の獅子組と共通するものが多い。

1) ヒラ、2) 森にてヒラ、3) ツクバ獅子、4) 笹がかり、5) カラバツ、6) 花がかり、7) 女獅子がかり、8) 天狗拍子、9) 銀ぎゃく獅子唄も多く残っている。唄を持っている獅子組はたくさんあるが、他に例を見ない、姑が嫁に難題を吹っ掛けた民話が唄になっている。筋は「岩を袴に縫え」と言う難題である。すると嫁は「縫いましょうから小砂を糸にして下さい」と返答したと言う話である。

昭和55年7月7日 上野村重要無形民俗文化財指定



上野村教育委員会提供

## ◆ 須郷の獅子舞(上野村須郷)

**保存会名**

**祭の行事名称・公開期日・公開場所** (中断中)

### 概要

明治の中頃、九州から来た清松と言うじいさんが伝えたときれている。いわゆる一人立の座敷獅子である。獅子頭に特徴があり、前獅子の頬には手を広げたような模様があり、後ろ獅子には耳のような模様が見える。前獅子と後獅子は雄で角があるが中獅子は雌で角はなく宝珠がある。

獅子舞は子供獅子による「宮巡り」と大人達の「本振り」とがある。宮巡りは諏訪神社に始まり、山の神、御嶽神社、供養塔、薬師堂の順に巡る。

宮巡りが二時間ほどで終わると宿へスリ込み、昼食後、本振りと言われる大人による獅子舞が行われる。

昭和55年7月7日 上野村重要無形民俗文化財指定



上野村教育委員会提供

## ❖ 黒川の獅子舞(上野村野黒川)

保存会名

祭の行事名称・公開期日・公開場所 (中断中)

概要

天正10年3月武田勝頼は滅び、その家臣「阿部太郎安長」がこの地に落ちのび、身に付けていた鍬形の兜を埋め、その上に諏訪様を祭った。これが黒川諏訪神社の起源だとされている。獅子舞がいつ頃から奉納されたか明らかでないが、獅子頭や曲目は塩ノ沢によく似ている。流派は「高巖流武田獅子」と言い、一人立で雄獅子2、雌獅子1の他に囃子手が加わる。祭日の獅子舞は須郷と同じで、子供獅子の「宮巡り」から始まる。宮巡りは宿を出発して集落の最も下流にある蛇神様から始める。次にお諏訪様、山の神と上流に向かってそれぞれの社前で、一庭スツて上ってくる。「登り上がる」と言う縁起を担(かつ)いでのことである。黒川の人達は、黒川の獅子舞が一番動作が大きく勇壮であると誇りにしている。特に真剣を口で加えて舞う「銀ぎゃく」は、間違うと大怪我をする心配があった。

昭和55年7月7日 上野村重要無形民俗文化財指定



上野村教育委員会提供

## ❖ 萩室獅子舞(川場村萩室)

保存会名 川場村萩室獅子舞保存会

祭の行事名称・公開期日・公開場所

萩室秋まつり 10月 萩室諏訪神社

川場村芸能祭 2月 川場村文化会館

世田谷区郷土芸能祭 3月 世田谷区北沢タウンホール

利根沼田伝承古典芸能祭 3月 利根沼田文化会館

概要

明治42年2月武尊山の麓、川場村萩室に建物名方命(たけみなかたのみこと)外5社を産土神(うぶすなかみ)として祀る諏訪神社が建立され、川場村の指定村社とされていた。

その諏訪神社の祭礼に欠かすことのできない神事として萩室の獅子舞が今に受け継がれている。

この獅子舞の起源は江戸時代初期の延宝年間(1673~80)に遡ると云われている。

時の沼田城主、真田伊賀守(さなだいがのかみ)が百社建立の際、正一位諏訪大明神として御社料十二石を賜り、延宝2年(1674)10月4日の城主参詣の折、獅子舞の獅子頭3頭を奉納し以後、城主及び代参あるときは境内にて獅子舞を行うことを例とした。舞は「天下一非鉄流(てんかいちひばさみりゅう)」と称し、その起源は不明、古老によれば南北朝時代の中頃に生まれたと云われている。

明治時代より農家の男衆が旧盆明け頃から夜稽古に励み、次代の子どもたちに伝えていたが昭和42年を最後に途絶えていた。近年地元での復活の声が高まり、平成3年の川場村と世田谷区縁組協定10周年事業開催に際し、復活の動きが活発化されたものの実現には至らなかった。

その6年後の平成9年に有志十数名が集まって萩室獅子舞保存会が誕生、4月から獅子舞の練習が開始され10月の秋祭に実演され30年ぶりの復活を遂げ今日に至っている。

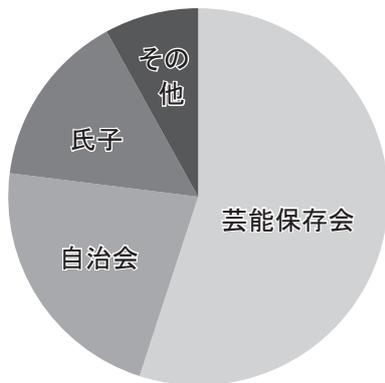
演目は、庭見之段、霧獅子之段である。



# ぐんまの獅子舞調査結果概要

書面調査先	233件
回答数	158件
回答率	67.8%

## 1 保存団体の組織体制について



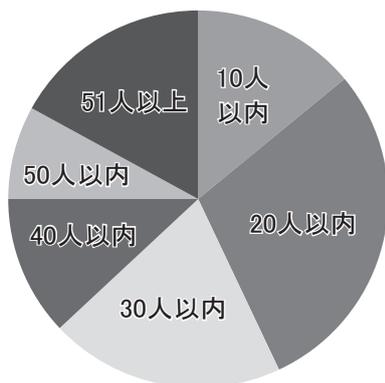
### 結果状況

・ 芸能保存会	55%
・ 自治会	22%
・ 氏子	15%
・ その他	8%

具体例には

- ・ 伝統的に氏子地域の有志による任意の団体
- ・ 実演者からなる保存会と地区の人からなる後援会がある
- ・ 地域住民協力者による保存会組織
- ・ 子供育成会
- ・ 村内の各役職や団体役員全てを網羅した組織

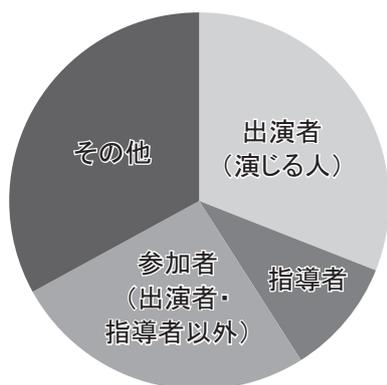
## 2-1 団体の構成員の現状



### 結果状況

・ 10人以内	14%
・ 20人以内	29%
・ 30人以内	20%
・ 40人以内	12%
・ 50人以内	8%
・ 51人以上	17%

## 2-2 団体構成員の内訳



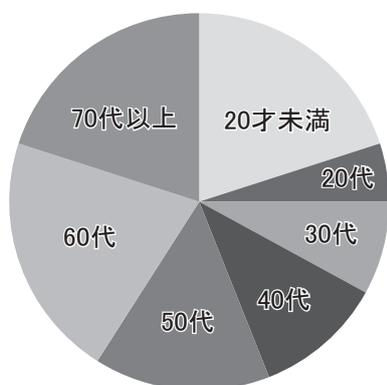
### 結果状況

回答構成員総人数 6,333人

- ・出演者(演じる人) 31%
- ・指導者 10%
- ・参加者(出演者・指導者以外) 26%
- ・その他 33%

団体に入っているが、獅子舞に参加していない人が全体の3割いることがわかった。

## 3-1 団体の構成員の年代現状

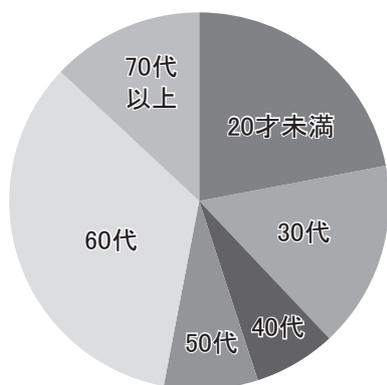


### 結果状況

- ・20才未満 20%
- ・20代 5%
- ・30代 8%
- ・40代 11%
- ・50代 15%
- ・60代 21%
- ・70代以上 20%

20才未満と60代・70代以上で全体の6割を超える結果となった。今後の継承を担うべき年代の割合の低さが判明した。

## 3-2 伝承地以外の参加者の年代状況

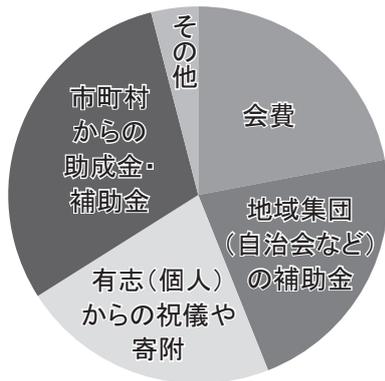


### 結果状況

伝承地以外の総参加者数91名

- ・20才未満 22%
- ・20代 0%
- ・30代 16%
- ・40代 7%
- ・50代 8%
- ・60代 34%
- ・70代以上 13%

## 4 団体の活動資金



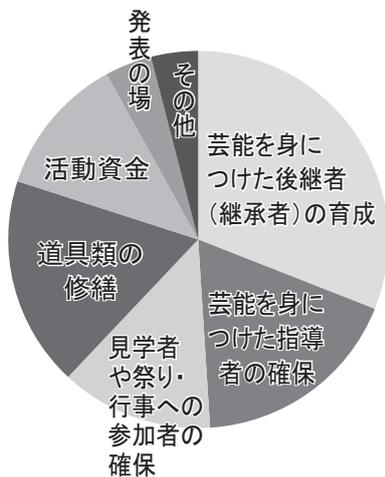
### 結果状況

- ・会費 22%
- ・地域集団(自治会など)の補助金 22%
- ・有志(個人)からの祝儀や寄附 22%
- ・市町村からの助成金・補助金 30%
- ・その他 4%

### 具体例

- ・神社より補助金
- ・文化協会助成金
- ・各戸の御祝儀
- ・区からの保存会費
- ・巡回寺のお布施
- ・氏子謝金
- ・古紙収集の売上金
- ・お守り札等の収益金
- ・奉納謝礼
- ・出演謝金

## 5 継承していくのに必要なこと



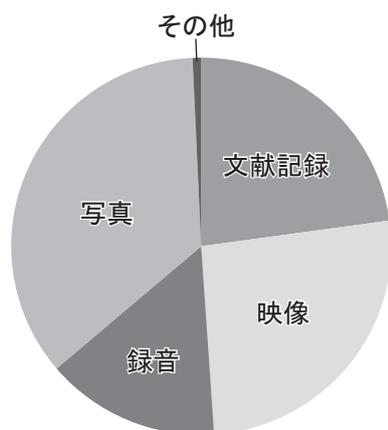
### 結果状況

- ・芸能を身につけた後継者(継承者)の育成 31%
- ・芸能を身につけた指導者の確保 18%
- ・見学者や祭り・行事への参加者の確保 13%
- ・道具類の修繕 18%
- ・活動資金 12%
- ・発表の場 4%
- ・その他 4%

### 具体例

- ・時間と熱意のあるまとめ役
- ・指導した小学生がそのまま中・高と続けてもらうようにする事
- ・子供の確保
- ・資料の保存
- ・大学卒業後の地元に残るようにすることが課題
- ・笛の演奏者確保(現在テープ対応)
- ・練習会場の補修

## 6 記録資料や映像記録の有無

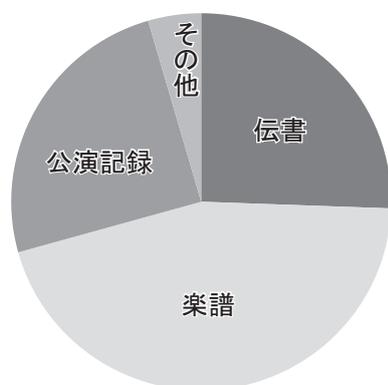


### 結果状況

回答129件

・文献記録	63%
・映像	72%
・録音	41%
・写真	98%
・その他	2%

### ①文献記録内訳



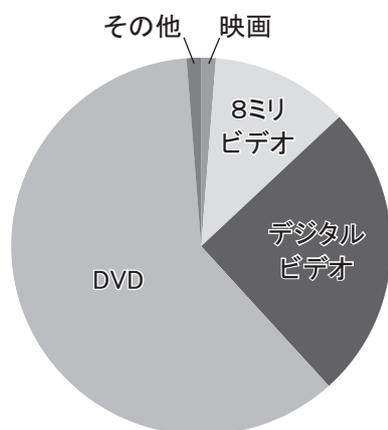
### 結果状況

・伝書	34%
・楽譜	60%
・公演記録	33%
・その他	6%

具体例

- ・書籍
- ・自治体発行の郷土史
- ・団体発行の書籍

### ②映像記録内訳

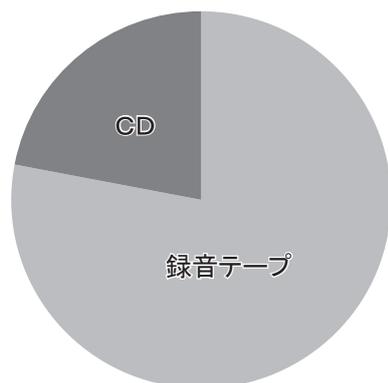


### 結果状況

回答129件

・映画	2%
・8ミリビデオ	19%
・デジタルビデオ	41%
・DVD	98%
・その他	2%

### ③録音内訳



### 結果状況

・録音テープ	78%
・CD	22%

## ぐんまの獅子舞調査報告書

---

発行 平成27年3月24日

編集・発行 公益財団法人 群馬県教育文化事業団  
群馬県前橋市文京町2-20-22  
TEL 027-224-3960

印刷 朝日印刷工業株式会社

---

